

博 士 論 文

論文題目 中国語の複文研究——構文論の観点から

氏 名 長谷川 賢

目 次

序 章 研究目的と背景.....	1
第一章 北京口語における条件文の周辺の用法.....	10
1. 1. はじめに.....	10
1. 2. “如果”文、“要是”文の統語的特徴.....	12
1. 3. “如果”文、“要是”文の典型的用法.....	16
1. 4. “如果”文、“要是”文の周辺の用法.....	18
1. 4. 1. 習慣的事態を表す条件文.....	18
1. 4. 2. 時間関係を表す条件文.....	20
1. 4. 3. 話題提示の条件文.....	26
1. 5. “要是”文の話題の特徴.....	30
1. 6. まとめ.....	33
第二章 条件文における接続詞の使用条件と談話機能.....	35
2. 1. はじめに.....	35
2. 2. 接続詞が用いられる条件文.....	36
2. 2. 1. 反事実条件文の場合.....	36
2. 2. 2. “没(有)”で命題の非存在を表す反事実条件文の場合.....	39
2. 3. 接続詞が用いられない条件文.....	46
2. 3. 1. 実現が前提とされている事態を表す条件文の場合.....	46
2. 3. 2. パタン化した事態を表す条件文の場合.....	47
2. 3. 3. 原理原則を表す条件文の場合.....	54
2. 4. 接続詞の使用が分かれる条件文.....	56
2. 5. まとめ.....	57
第三章 限定選択構文が表す事態と表現機能.....	58
3. 1. はじめに.....	58
3. 2. 限定選択構文の構造.....	60

3.3.	限定選択構文が表す事態.....	63
3.3.1.	邢福义 2001.....	63
3.3.2.	“要不A要不B”が表す事態.....	66
3.3.3.	“要么A要么B”が表す事態.....	68
3.3.4.	“不是A就是B”が表す事態.....	70
3.3.5.	各限定選択構文が表す事態の相違.....	73
3.4.	限定選択構文の表現機能.....	75
3.4.1.	一回的事態を表す文の表現機能.....	75
3.4.2.	恒常的状态を表す文の表現機能.....	77
3.4.3.	“不是A就是B”のマイナス性.....	81
3.5.	まとめ.....	87
第四章	“A了BB了A”の意味と文法機能.....	88
4.1.	はじめに.....	88
4.2.	考察対象.....	89
4.3.	“A了BB了A”の文法機能.....	89
4.4.	“A了BB了A”の構造的意味.....	92
4.4.1.	“A了BB了A”の動詞の順序.....	92
4.4.2.	対立的な動詞で構成される“A了BB了A”の意味.....	93
4.4.3.	非対立的な動詞で構成される“A了BB了A”の意味.....	97
4.4.4.	“A了BB了A”の典型的な構造的意味.....	101
4.5.	“A了BB了A”とAABB型動詞重畳形式の認知的意味の相違.....	102
4.6.	まとめ.....	107
終章	本研究のまとめと今後の課題.....	109
	参考文献一覧.....	118
	用例出典一覧.....	122

本論文で用いる記号とその略

ASP	aspect	アスペクト
AUX	auxiliary verb	助動詞
CL	classifier	量詞
COM	complemental word	補語
CON	conjunction	接続詞
COP	copula	コピュラ
DEM	demonstrative	指示詞
INTJ	interjection	感嘆詞
MOD	modal particle	語気助詞
NEG	negative	否定辞
PART	particle	助詞
PRG	progress	進行
SF	sentence final particle	文末助詞

序章 研究目的と背景

本研究は、現代中国語のいくつかの複文について、構文文法（Construction Grammar）の観点から、それらを形式と意味の統合体としての構文（construction）とみなし、個々の構文について、類義構文や関連する表現との比較を行いながら、それぞれの構文的意味や表現機能などを考察するものである。

具体的に問題とするのは、以下の2点である。

- ①複文の中で、類義の関係を表す構文が複数ある場合、意味や表現機能などにおいてどのような相違があるのか。
- ②複文の中で、ある構文が複数の意味関係を表す場合、それらの間にはどのような関係があるのか。

本研究がこれらの点に着目する背景には、次のような問題意識がある。

周知の通り、中国語の複文は、一般に他の言語と同様に、節と節の関係が等位関係（coordination）にある“联合复句”（連合複文）と、節と節の関係が従属関係（subordination）にある“偏正复句”（偏正複文）の二つに分類される¹⁾。

さらに、連合複文と偏正複文は、主に節と節の意味的關係に基づいて、それぞれいくつかの種類の複文に分類される。例えば、王力 1943 は連合複文として“积累式”（“…，又…” […でありまた…] など）、“离接式”（“…，或…” […か或いは…] など）、“转折式”（“…，但是…” […であるが、…] など）などの5類、偏正複文として“时间修饰”（…すると…）、“条件式”（“若…，…” [もし…なら…] など）、“理由式”（“因…，所以…” […なので…] など）などの7類を立てている。黎锦熙・刘世儒 1955 は、連合複文として“并列”（並列）、“选择”（選択）などの4類、偏正複文として“时间”（時間）、“因果”（因果）、“假设”（仮定）などの6類を立てている。近年では、张斌 2010 が連合複文として“并列”

¹⁾ 邢福义 2001:38-56 は、“联合复句”と言われる文の中に、「等位」とは解釈できない例も見られることなどから、“联合复句”、“偏正复句”の二分類ではなく、“因果”（因果）、“并列”（並列）、“转折”（転折）の三分類を主張している。しかし、本論では、通言語的にも、また中国語学においても、一般に広く採用されている二分類に基づくことにする。ただし、Langacker 2008:406-419 などにおいても論じられているが、“联合复句”、即ち等位接続構造に、等位とは解釈できない非対称性（asymmetry）が見られることについては、通言語的にも注目されている問題である。本論でも第三章において、中国語の選択複文の対称性に関して若干の考察を行っている。

(並列)、“选择”(選択)、“连贯”(連貫)などの6類、偏正複文として“因果”(因果)、“目的”(目的)、“假设”(仮定)などの6類を立てている²⁾。次の表は、刘月华・潘文娛・故[韦华]2001:888-890の複文の分類表を簡略化したものである。

表：中国語の複文の分類表

	複文の名称	代表的な構文
“联合复句” (連合複文)	“并列复句” (並列複文)	“既…，又…” (…の上に…だ) “一边…，一边…” (…しながら…する)
	“承接复句” (承接複文)	“…，于是…” (…そこで…) “…，然后…” (…の後…)
	“递进复句” (累加複文)	“不但…，而且…” (…ばかりでなく…) “…，还…” (…してさらに…)
	“选择复句” (選択複文)	“或者…，或者…” (…か或いは…) “不是…，就是…” (…でなければ…)
“偏正复句” (偏正複文)	“因果复句” (因果複文)	“因为…，所以…” (…なので…) “由于…，所以…” (…なので…)
	“转折复句” (転折複文)	“虽然…，但是…” (…であるが…) “尽管…，但是…” (…にも関わらず…)
	“条件复句” (条件複文)	“只要…，就…” (…さえすれば…) “无论…，也…” (…であろうと…)
	“假设复句” (仮定複文)	“如果…，就…” (もし…なら…) “要是…，就…” (もし…なら…)
	“让步复句” (讓歩複文)	“即使…，也…” (たとえ…でも…) “就是…，也…” (たとえ…でも…)
	“取舍复句” (取捨複文)	“与其…，不如…” (…よりも…の方が…) “宁可…，也不…” (むしろ…しても…しない)

²⁾ “连贯”とは、事柄が相次いで起こることを表す文で、“…，然后…” (…の後…)、“…，于是…” (…、そこで…)のような形式の文が含まれる。なお、刘月华・潘文娛・故[韦华]2001では“承接复句”と称されている。

	“目的复句” (目的複文)	“为了…，…” (…のために、…) “…，以免…” (…しないで済むように…する)
	“时间复句” (時間複文)	“…，就…” (…して…) “…，才…” (…してようやく…)
	“连锁复句” (連鎖複文)	“越…，越…” (…すればするほど…) 疑問詞連鎖構文

この種の分類は、研究者により複文の節と節の間にどのような意味関係を認めるかの解釈が異なるため、定説があるわけではない³⁾。この種の分類の妥当性については、本論で論じる余裕はないが、いずれにしてもこの種の分類は、中国語にどのような意味関係の複文があるのかを把握する上で、一定の成果を挙げてきたと考えられる。

しかしながら、大河内 1967:1 が、複文の節の意味関係は非常に複雑であり、「意味の上で細かい接続関係を考えること自身が、中国語の複句の特性を無視したものともいえそうである」と指摘しているように、意味的關係による分類だけでは、中国語の複文の特性を十分には捉えることができない。

本論で問題としたいのは、まず第一に、上記の表を見れば明らかであるが、類義の関係を表す構文が二つ以上ある場合、それらの構文にはどのような相違があるのかということである。例えば、仮定複文には、“如果”、“要是”などの接続詞が使われ、“如果 p (的话)，(就) q。”、“要是 p (的话)，(就) q。”という構文を形作り、いずれも基本的には「もし p なら q」という「仮定—結果」の意味関係を表すが、それらの間にはどのような相違があるのであろうか。このような複文の類義の構文の相違を扱った先行研究は一定の蓄積があるが、未だ十分に明らかにされていない点もあり、本研究では、いくつかの類義の構文を取り上げ、構造、意味、表現機能などの相違を考察する。

第二に問題とする点は、上記のように分類される複文が、個別に存在しているわけではなく、互いに関連し合うことである。このことは古くから指摘されており、例えば、王力 1943:115 は“条件式和时间修饰的界限不很分明”(条件式と時間修飾の境界線ははっきりしない)と述べ、次のような文は、条件関係にも時間関係にも読むことができるとしている。

³⁾ 複文の分類の変遷過程については鳥井 1995:574-580 で詳しくまとめられている。

(1) 老太太 那里 有 信 ， 你 就 叫 我。(王力 1943:115)

ご隠居様 そこ ある 知らせ あなた すぐ 起こす 私

(ご隠居様のところから連絡があったら、あなたはすぐに私を起こして下さい。)

(1)の前節は、“老太太那里若有信”(ご隠居様のところからもし連絡があったら)という条件節としても解釈できるし、“老太太那里有信的时候”(ご隠居様のところから連絡があった時)という時間節としても解釈できるということである。

また、王力 1943:115 は、次の下線部のような“不是 A 就是 B”(A でなければ B だ)という条件関係を表す文は、“表示相排斥的两件事情”(互いに排除し合う二つの事柄を表す)という文に活用されることを指摘している。

(2) 不 是 模 样 儿 不 好 ， 就 是 性 子 不 好。有了这个好处，没了

NEG COP 容貌 NEG よい ほかでもなく COP 性格 NEG よい

那个好处。(王力 1943:115)

(容貌がよくないか、性格がよくないかのどちらかだ。こちらの長所があれば、こちらの長所がない。)

王力 1943:115 が述べる“表示相排斥的两件事情”とは、互いに排除する、つまり相容れない二つの事柄を表す、即ち、「A か B のどちらか一方だ」という二者択一の関係を指していると考えられる。つまり、王力 1943:115 は、“不是 A 就是 B”という条件関係を表す文が、選択関係を表し得ることを指摘している。

呂叔湘 1944:143 も“有几类时间关系句，必然地含有条件关系在内”(いくつかの時間関係の文は、必然的に条件関係を内に含む)と述べ、次のような例を挙げ、王力 1943:115 と同様に、「時間関係」と「条件関係」が一部重なり合うことを論じている。

(3) 每 阴风 细雨，从兄 辄 留。(吕叔湘 1944:143)

～の度 風 雨 従兄 いつも 留まる

(風や雨がある度に、従兄はいつも留まる。)

(4) 等 你 明儿 长大 了，自然 知道。(吕叔湘 1944:143)

～したら あなた 将来 成長する SF 自然と 分かる

(将来大きくなったら、自然と分かる。)

(3)(4)は時間的な前後関係を表すと同時に、「条件—結果」という条件関係も表している。

また、邢福义 2001:47-49 は、“复句句式和复句类别往往不是一对一的关系”(複文の構文と複文の種類はしばしば一対一の関係にはない)と述べ、ある一つの構文が複数の関係を表すことがあることを指摘している。例えば、“一 A 就 B”は、次のように、条件関係と“连贯”関係を表すとしている。

(5) 一 进门,他 就 看见 了 陈天寿。(邢福义 2001:519)

~すると 入る 門 彼 すぐ 見る COM ASP 陳天寿

(門を入ると、彼は陳天寿を見かけた。)

(6) 当然,一 谈到 这方面,就 会 遇到 许多 困难。

当然 ~すると 話す COM これ 方面 すぐ ~だろう 直面する COM 多く 困難

(邢福义 2001:519)

(当然、この方面について話をすると、多くの困難に直面するだろう。)

邢福义 2001:519-524 によると、(5)は特定の時間に発生した一回的事実であり、前後の節が単純な前後関係で結ばれているということである。それに対して、(6)は前後の節が前後関係を表すだけでなく、「条件—結果」という仮定的な条件関係を表しているということである。

このように、中国語の複文は、意味関係による分類がなされる一方で、その種の分類と構文とは一対一の関係にあるわけではなく、構文によって複数の意味関係を表すものがあり、いくつかの複文の間に関連性があることが指摘されている。それでは、複文において、なぜ一部の構文は複数の意味関係を表し得るのだろうか。また、そのような複数の用法の間にはどのような関係があるのであろうか。

この種の問題の解明には、構文文法、とりわけ、プロトタイプ理論からのアプローチが有効であることが通言語的に明らかにされている。構文文法は、代表的には Lakoff1987、Fillmore1988、Goldberg1995 などにおいてその理論が提示されているが、どの構文文法の理論においても、“linguistic constructions display prototype structure and form networks of associations”(言語における構文がプロトタイプ構造を示し、相互に関連し

合うネットワークを形成する) (Goldberg1995:5) という点は共通している⁴⁾。特に Lakoff1987 の構文文法理論では、「プロトタイプを中心に据えた構文ネットワークを前面に押し出し」(尾谷、二枝 2011:110) ている。Lakoff1987:61-67 では、言語は全ての領域(音韻論、形態論、統語論、意味論)においてプロトタイプ効果を示すことが分かっていると、その上で、構文に関してそれを立証する事例研究として、Lakoff1987:462-585 において、英語の *there* 構文の複数の非典型的な構文が、プロトタイプを中心に、メタファーやメトニミーによって動機づけられて拡張し、放射状のネットワークを形成していることを示した。

一方で、複文についても、例えば Comrie1986 は自然言語の条件文 (conditionals) をプロトタイプ理論の観点からとらえた。Comrie1986:77 は、条件文を含む構文は、必要十分条件的というよりは、プロトタイプによって同定 (identified) されるべきであることを主張した⁵⁾。

また、Sweetser1990 は、内容領域 (content domain)、認識領域 (epistemic domain)、言語行為領域 (speech-act domain) という三つの意味領域を設定し、英語の条件文をはじめ、英語の様々な複文が三つの意味領域にわたって存在することを示した⁶⁾。条件文については、次のような例を挙げて説明している。

(7) If Mary goes, John will go. (Sweetser1990:114)

(メアリーが行けば、ジョンも行く。)

(8) If I she's divorced, (then) she's been married. (Sweetser1990:116)

(彼女が離婚したということなら、(そうなら) 彼女は結婚したことがあるということだ。)

(9) If I may say so, that's a crazy idea. (Sweetser1990:118)

(こう言うてはなんですが、その考えは馬鹿げてますよ。)

(7)は内容領域の条件文の例で、前節の「メアリーが行く」ことは、後節の「ジョンが行く」ことをもたらす(可能にする)という関係にある文であるということである。(8)は認

⁴⁾ Goldberg1995 の日本語訳は河上・早瀬・谷口・堀田 2001 を参照している。

⁵⁾ 通言語的な条件文の研究動向については、有田 2001 に詳細に示されている。

⁶⁾ Sweetser1990 の用語や例文の日本語訳は澤田 2000 を参照している。

識領域の例で、条件節「彼女が離婚した」という命題が真であることを知ることは、帰結節「彼女が結婚したことがある」と結論付けるための十分条件であると解釈できる文であるということである。(9)は言語行為領域の例で、後節の言語行為が遂行されるかどうかは前節の事態が実現するかどうかにかかっていると解釈できる文であるということである。その上で、Sweetser1990:141 は、英語の if 条件文は、(7)のような内容領域の文から、(8)のような認識領域の文や(9)のような言語行為領域の文に拡張していると主張している⁷⁾。

また、有田 1999,2006 では、Comrie1986、Fillmore1990 などの流れを汲み、条件文の典型例を示した上で、日本語の条件文を、典型例とそこから外れる非典型例を成員として持つカテゴリーとして捉え、プロトタイプ理論の観点からの考察を行い、典型例から非典型例への構文の広がり进行を明らかにした。

和佐 2006 はスペイン語の条件文の典型例と非典型例を分析し、スペイン語でも条件構文と時間構文の重なりが見られることなどを論じている。

中国語の複文についても、構文理論の観点からの研究が見られる。例えば、島津 2004,2006,2012 の一連の研究では、“一 A 就 B” 構文について、次の呂叔湘主編 1999:599 による“一 A 就 B” の意味用法の分類について、それらが個別に存在するわけではなく、(10)のような文が「中核的意味 (プロトタイプの意味)」を表す文で、(11)(12)のような文が「周辺的意味 (非プロトタイプの意味)」を表す文であり、それらの間に拡張関係があることを詳細に論じている。

(10) 他 一 解释 我 就 懂 了。(吕叔湘主編 1999:599)

彼 ~すると 説明する 私 すぐ 分かる SF

(彼は説明すると私はすぐに分かった。)

(11) 我们 在 西安 一 住 就 住 了 十 年。(吕叔湘主編 1999:599)

私たち ~で 西安 ~すると 住む すぐ 住む ASP 10 年間

(私たちは西安に住み出すと瞬く間に 10 年が経った。)

(12) 一 讲 就 是 两 个 小时。(吕叔湘主編 1999:599)

~すると 話す すぐ COP 2 CL 時間

⁷⁾ なお、Sweetser1990 の英語の複文における三領域の議論は、沈家煊 2003 によって、中国語の複文にも適用され得ることが示されている。

(話し出すと 2 時間にもなった。) 8)

島津 2004,2006,2012 では、“一 A 就 B” の構文的意味は「(何らかの背景要因が存在するために) 事態 A が起こると連鎖的に事態 B が起こる」(島津 2012:148) であり、(10) のような文が“一 A 就 B” のプロトタイプであるとした。一方、(11) のような、前後に同じ動詞が用いられている“一 V₁ 就 V₁P” 形式の文では、「2 つの事態の連鎖的継起」としての個別性、具体性を欠いており、さらに(12) のような、後項が名詞句で構成される“一 V 就是 NP” の文では、動作性が捨象され、二つの事態の継起とは捉え難いとする。その上で、島津 2004,2006,2012 では、二つの事態の連鎖的な継起を誘発する背景要因の前景化という視点から、(10) のようなプロトタイプの文から、(11) のような“一 V₁ 就 V₁P”、(12) のような“一 V 就是 NP” という非プロトタイプの文へ拡張することを論じている。

本研究では、以上のような、構文理論の観点からの複文研究の流れを汲み、関連性が指摘されている仮定条件、時間、選択の各関係を表すいくつかの構文や構造を取り上げ、各構文や構造の典型的意味や周辺の用法などを考察する。

本論の構成は以下の通りである。

まず、第一章では、仮定複文に用いられる接続詞の中で、代表的な“如果”、“要是”を用いた構文について、プロトタイプ理論の観点から、それらの典型的用法と周辺の用法を考察し、併せてその用法の拡張過程について考察する。

仮定複文を含む条件文については、上述のように、他の言語において、プロトタイプ理論からの考察が有効であることが明らかにされている。定延 2006:197 も「さまざまな言語を通して見ると、… (中略) …。条件表現の典型はどの言語でも一致しやすい一方、どこまでを条件表現とするかは言語ごとにずれている」と述べている。しかしながら、中国語の条件文については、プロトタイプ理論の観点から考察した研究は管見の限り見られない。第一章では、通言語的な条件文研究に基づき、“如果”文、“要是”文の典型的用法を示した上で、それぞれの周辺の用法を分析し、その拡張過程について考察する。

第二章では、“如果”や“要是”などの条件文に用いられる接続詞の機能を考察する。大河内 1967:5 は「中国語の複句というものは本来連詞を必要としないのが常態であり、むしろ使われる場合は逆に使われなければならない条件がある」と述べている。ただ、その「条件」についての具体的な言及がなく、今なお明らかにされていない。第二章では、そ

8) (10)(11)(12)の日本語訳は、島津 2012:141 を参照している。

の「条件」とは何かを明らかにするために、条件文の接続詞が如何なる場合に用いられるのか、或いは用いられないのかを、文が表す事態の特徴に照らして考察する。その上で、接続詞を文法上必要としないタイプの条件文であるにも関わらず、接続詞が用いられている場合、それらはなぜ用いられるのかを談話文法の観点から分析し、それらの機能を明らかにする。

第三章では、選択複文の中で、「A か B のどちらかだ」という二者択一の選択を表す“不是 A 就是 B”、“要么 A 要么 B”、“要不 A 要不 B”という三つの“限定句式”（限定選択構文）が表す事態の特徴や表現機能の相違を考察する。邢福义 2001:242-265 では、すでにそれらの相違について論じられているが、コーパスの用例を見ると、邢福义 2001:242-265 には当てはまらない用例も見られる。第三章では、コーパスの実例に基づき、改めて三つの構文が表す事態の特徴を考察した上で、邢福义 2001:242-265 では触れられていない表現機能の相違についても分析する。

第四章では、時間関係を表す表現の中で、これまで論じられてこなかった“A 了 B(,)B 了 A”という構造を取り上げ、その文法機能や構造的意味を考察する。“A 了 B(,)B 了 A”は、“A 了 B”（A したあと B する），“B 了 A”（B したあと A する）という二つの時間関係を表す緊縮構造が重ねられた一つの文法構造であり、一種の重畳形式であると考えられる。当該構造は、形式的には、時間関係を表す緊縮構造によって構成されているが、動作の一回性の叙述ではなく、A と B の事態の反復を表す表現である。さらに、例えば“吃了睡睡了吃”（食べては寝て、寝ては食べ）は、しばしば、「怠惰である」という、構成要素となる動詞がもつ以上の意味を含意して用いられる。また、同じく重ね型である AABB 型動詞重畳形式との用法の相違も興味深い。第四章では時間複文に関わる表現とみられる“A 了 B(,)B 了 A”の文法機能を分析し、また当該構造に用いられる動詞の特徴を分析し、その典型的用法を見出し、構造全体の典型的意味を明らかにする。

最後に終章では、全体を統括し、仮定条件、時間、選択を表す文の関係などについて考察を深める。さらに、本論では扱いきれなかった諸問題について述べる。

第一章 北京口語における条件文の周辺の用法¹⁾

1.1. はじめに

中国語で“假设复句”などと呼ばれる条件文 (conditionals) は、一般には以下のように、「仮定—結果」の関係を表すと定義される。

(1) 偏句提出一种假设, 正句说出在这种情况下会出现的结果。

(刘月华・潘文娛・故[韦华]2001:874)

(“偏句” [前節]で一つの仮定が示され、“正句” [後節]でその状況下で現れ得る結果が述べられる。)

実際の用例でも、以下のように、(1)の定義に当てはまる条件文が多くみられる。

(2) 我盯住了他那铁青色的两腮, 我想 他 如果 能 到 舞台上 去 唱,

私 思う 彼 ruguo ~できる 到達する 舞台 上 行く 歌う

一定 能 风靡 京城。(陈建功《前科》)

必ず ~できる 風靡する 都

(私は彼の青ざめた両頬を見つめ、彼がもし舞台に出て歌うことができたなら、必ず都を風靡できるだろうと思った。)

(3) 你 要是 客气, 我就 不 进 去 了。(王朔《橡皮人》)

あなた yaoshi 気を使う 私 すぐ NEG 入る 行く SF

(あなたがもし気を使うなら、私は入るのはよそう。)

(2)(3)ともに、話し手は、まだ実現しておらず、実現が不確定な事態を前節で「仮定」し、後節でその状況で起こり得る「結果」を述べており、(1)の定義に当てはまる。

ところが、一般に条件文の接続詞とみられている“如果”や“要是”の実例を観察する

¹⁾ 本章は長谷川 2009 に加筆修正を加えたものである。

と、以下のような、(1)の定義に当てはまらない用例もみられる²⁾。

(4) **要是** 春节 吧，在 家里 过 哈，嗯，那个 春节 其实 是 最 有意思 的。

yaoshi 春節 MOD ~で 家 なか 過ごす MOD INTJ あれ 春節 実は COP 最も 面白い PART

(《北京口语语料》西城)

(春節はね、家で過ごすよ、そう、んー、春節が実際一番面白いんだよね。)

(4)は、話し手が春節をどのように過ごしているかを述べている文であるが、この文の前節では、“春节”（春節）というある時期を表す語句が示されているだけで、何らかの事態が仮定されているとは読み取れず、(1)の定義に当てはまらない。(4)のような用法は、以下1.4.3節で詳細に論じるが、“如果”を用いた文には観察されず、一般に口語で使用される“要是”を用いた文にしか観察されない³⁾。

このように、通常“假设复句”と呼ばれている構文の実際の用例を観察すると、(1)の一般的な定義に当てはまらない用法もみられる。“假设复句”を含む条件表現は、中国語も含め通言語的に、形式、意味が多様であり、先行研究では、各言語共通のプロトタイプの用法と、言語によって異なる周辺の用法があるとされる⁴⁾。

しかし、中国語の条件表現に関するこれまでの研究は、形式の記述や用法の分類などが中心で、典型的用法と周辺の用法を区別して論じた研究はみられない。そこで本章では、中国語の条件表現を形式と意味の統合体としての構文 (construction) とみなし、典型的用法と周辺の用法を区別して分析し、併せて典型的用法から周辺の用法への拡張過程について考察する。

本章では、地域により言語的差異が生じる可能性があること、また従来の一般的な説明

²⁾ 本論で述べる条件文の接続詞とは、中国語学で一般に“假设连词”などと称され、意味的には“表示假设”（仮定を表す）[呂叔湘主編 1999:469、594] とされる、“如果”、“要是”などの接続詞を指す。

³⁾ 筆者はインターネットサイト“人民网”(http://www.people.com.cn/)内で閲覧できる《人民日报》の2007年2月28日～3月6日までの記事から、“要是”が用いられている文を検索したが、インタビューを受けた人の談話1例でしか用いられてなく、書面語における用例はみられなかった。また、姚双云 2015:336-337の調査でも、“如果”は検出した用例2771例中、書面語コーパスにおける例が2135例、口語コーパスにおける例が636例で、いずれの文体でも一定数の例が見られるが、“要是”は検出した用例167例中、口語コーパスにおける例が160例、書面語コーパスにおいては7例のみという結果が出ている。このように、“如果”は口語と書面語いずれにも用いられるが、“要是”は一般に口語において用いられる接続詞といえる。

⁴⁾ 通言語的な条件文のプロトタイプの議論については本論の序章に示した。

に当てはまらない用法が、(4)のように特に口語においてよく観察されることから、考察の対象を主に北京口語とし、北京口語によくみられる条件文の接続詞“如果”、“要是”を用いた2種類の条件文について分析する⁵⁾。分析する言語資料としては、主に現代の北京の通用言語で書かれているとされる以下の(5)に挙げる“京味儿小说”十数編や“北京人”の談話調査記録《北京口语语料》(約184万字)を用いる⁶⁾。

(5) “京味儿小说”言語資料

陈建功《放生》《前科》《耍叉》

刘绍棠《蒲柳人家》《渔火》《运河的桨声》

刘心武《立体交叉桥》《栖凤楼》

苏叔阳《旋转餐厅》

王朔《看上去很美》《玩的就是心跳》《橡皮人》

王小波《白银时代》《黄金时代》《青铜时代之万寿寺》

以下、接続詞“如果”、“要是”を用いた条件文を、それぞれ「“如果”文」、「“要是”文」と略称する⁷⁾。

1.2. “如果”文、“要是”文の統語的特徴

“如果”文と“要是”文の用法を考察する前に、両構文の構造的な特徴や接続詞“如果”、“要是”が置かれる位置について示しておく。

邢福义 2001:83-85 をはじめとする先行研究に基づけば、“如果”文と“要是”文の基本的な構文形式はどちらも次のように示すことができる。

⁵⁾ “如果”と“要是”を用いる条件文は、邢福义 2001:41 で仮定複文における代表的な形式であるとされ、“如果”、“要是”ともに条件文の常用の接続詞とみてよいと考えられる。特に、“如果”は使用頻度が高いとされ(王维贤・张学成・卢曼云・程怀友 1994:161)、姚双云 2008 の《人民日报》に対する調査でも、条件文の接続詞の中で“如果”が最もよく現れる接続詞であるということである(姚双云 2008:135-137)。

⁶⁾ 北京の通用言語の概況については、刘一之 2001:87-88 を参照した。また、《北京口语语料》は80年代から90年代初頭にかけて行われた、北京で生まれ育った者に対する談話調査の記録である。調査の詳細は《北京口语语料查询系统简介》

(http://app.blcu.edu.cn/yys/6_beijing/wenjian/北京口语语料查询系统简介.pdf) を参照。

⁷⁾ なお、本章では、“如果说”など、“如果”、“要是”に何らかの形態素が付いている用例は、その機能が異なると考えられるため、考察の対象外としている。

(6) “如果 p, (就)q。” / “要是 p, (就)q。”

接続詞“如果”と“要是”が置かれる p (前節) は、一般には、上記(2)(3)のように何らかの述詞をともなう節で構成される。ただし、“要是”文の前節については、呂叔湘主編 1999:595 に示されているように、名詞句だけで構成されることもある。

(7) 要是 别人(= 如果 换了 别人), 这 事 不 一定 能 办 成。

yaoshi 他人 (= ruguo 換える ASP 他人) これ 事 NEG 必ず ~できる 処理する COM

(呂叔湘主編 1999:595)

(もしほかの人なら、この件は成功するとは限らない。)⁸⁾

(7)の例は、“要是”文の条件節には、名詞句のみを置くことができるが、“如果”文の場合はそれができず、必ず動詞句などの述詞をともなう節にしなければならないということを示している。

次に、接続詞“如果”と“要是”の位置については、条件節に主語がある場合、次のように、両者とも主語の前と後どちらにも置くことができる。

(8) 如果 我 听说 对 我 感 兴 趣 的 是 两 位 男 士, 或许

ruguo 私 聞いている ~に対する 私 感じる 関心 PART COP 2 CL 男性 もしかしたら

也 没有 这么 高 的 热情。(陈建功《前科》)

~も ない こんなに 高い PART 意欲

(もし私は私に関心のある人が二人の男性と聞いていたら、もしかしたらそんなに高い意欲はなかったかもしれない。)

(9) 也 请 您 转告 何 晨 光, 他 如 果 以 为 他 的 选 择 是 对 的,

~も 頼む あなた 伝言する 何 晨 光 彼 ruguo 思う 彼 PART 選択 COP 正しい PART

就 该 勇 敢 地 再 迈 一 步。(苏 叔 阳 《旋 转 餐 厅 》)

すぐ ~すべきだ 勇敢である PART もっと 踏み出す 一歩

(何晨光に伝えて下さい。彼がもし自分の選択が正しいと思うなら、勇気をもつても

⁸⁾ 本論では、呂叔湘主編 1999 の例文の日本語訳は牛島・菱沼監訳 1992 を参照している。

っと踏み出して下さいと。)

(10) 要是 你 瘫 了, 我 照顾 你 一辈子。(王小波《黄金时代》)

yaoshi あなた 半身不随になる ASP 私 面倒を見る あなた 一生

(もしあなたが半身不随になったら、私はあなたを一生面倒見ます。)

(11) 我 哥 要是 不 回 来, 我 什 么 事 也 干 不 成。(陈建功《前科》)

私 兄 yaoshi NEG 帰る 来る 私 何 事 ~もする NEG COM

(私の兄がもし帰らなければ、私は何も成し遂げられない。)

これらの例に見られるように、“如果”と“要是”はともに、主語の前((8)(10))と主語の後((9)(11))どちらにも置かれる。石毓智 2005:6 は、同様に仮定を表す条件文の接続詞である“要”の位置については、次のように、通常は主語と述語の間に置かれるとしている。

(12) 你 要 不 信, 就 亲自 去 看看。(『全球华语大词典』:1778)

あなた yao NEG 信じる すぐ 自分で 行く 見る 見る

(あなたはもし信じないなら、自分で見に行ってみて下さい。)

(12)では、接続詞“要”が主語“你”の後、述語“不信”の前に置かれている。仮定を表す接続詞“要”は、本来、願望を表す助動詞“要”から生まれたものであるとされる⁹⁾。石毓智 2005:6によると、“要”は接続詞となっても通常は本来の助動詞の位置に置かれるということである。一方、本章で考察する接続詞“要是”は、そのような接続詞“要”に接辞“是”が付加されてできた語であるとされるが¹⁰⁾、上記(10)(11)のように、主語の前後、いずれの位置にも置かれる。ただし、コーパスを観察すると、置かれる位置に一定の傾向が見られることが分かる。

今回、上記(5)に示した言語資料の中で、陳建功、王朔、王小波の小説と《北京口语语料》の東城地区と西城地区のコーパスから、“如果”文と“要是”文の前節に主語を含む例をそれぞれ“如果”文 140 例、“要是”文 191 例検出し、二つの接続詞と主語の位置関係を調査した。以下の表 1 はその結果である。

⁹⁾ 接続詞“要”の歴史的変遷は、太田 1958:336-337、马贝加 2002 を参照した。

¹⁰⁾ 接続詞“要是”の成立過程は周剛 2002:201 を参照した。

表 1：“如果”と“要是”の主語との位置関係

“如果”	例文数	主語前	主語後	“要是”	例文数	主語前	主語後
陳建功	16	13	3	陳建功	42	5	37
王朔	33	32	1	王朔	37	24	13
王小波	12	12	0	王小波	14	5	9
口語・東城	36	34	2	口語・東城	41	7	34
口語・西城	43	31	12	口語・西城	57	8	49
合計	140	122	18	合計	191	49	142
(割合)		(87.1%)	(12.9%)	(割合)		(25.7%)	(74.3%)

※割合は小数点第二位以下を四捨五入している。

表 1 の調査結果に基づく、「如果」は、上記(8)に挙げた例のように、主語の前に置かれる例が非常に多く、全体の 9 割弱に達した。一方、「要是」の場合は、王朔の小説に関しては、主語の前に置かれる文がやや多いものの、全体的には、上記(11)に挙げた例のように、主語の後に置かれることが多く、その割合は全体の 7 割以上に達した。したがって、「要是」は、「要」と同様に、主語の後の助動詞の位置に置かれることが多い¹¹⁾。

さらに興味深いことに、「如果」、「要是」などの接続詞は、次のように、一つの文で“連用”（連用）、即ち、同時に用いられることが知られている。

(13) 马晋雄武功超群，枪法极准，**如果** 他 **要是** 带着枪的话，

ruguo 彼 yaoshi 持つ ASP 銃 ～なら

将 会 很 难 对 付。(谢晓明 2010:30)

～となる ～だろう とても 難しい 相手をする

(馬晋雄の武術は抜きん出ている、射撃術も極めて正確であり、もし彼が銃を持っていたら、とても手強いだろう。)

¹¹⁾ なお、王春輝 2010a:273-274 の調査では、「如果」については、前後の節の主語が同じで、かつ後節の主語が省略される場合、「如果」は主語の後に置かれる例が増えることが示されている。

(14) 为什么这个世界上有爱情，要是 如果 没有 爱情 就 不 会

yaoshi ruguo ない 愛情 すぐ NEG ~だろう

有 很 多 人 受 伤 了，你 是 怎 样 认 为 的？（谢 晓 明 2010:30）

い る と て も 多 い 人 傷 つ く SF

（なぜこの世界には愛情があるのだろうか。もし愛情がなければ多くの人が傷つくことはない。あなたはどのように考えますか。）

(13)(14)では、本来どちらか一つを用いればよい“如果”と“要是”が同時に用いられている。谢晓明 2010 は、条件文の接続詞が連用される場合の順序を調査しているが、それによると、(13)のように“如果”が“要是”よりも前に置かれる傾向が強いということである（谢晓明 2010:33-34）。特に(13)では、主語の前に“如果”、主語の後に“要是”が置かれ、上記の主語との位置関係の調査で示された、それぞれの優勢的な位置に置かれている。

以上のように、“如果”と“要是”は、同じ条件文の接続詞であるが、それらが置かれる節の構造や位置に相違が見られる。“如果”文と“要是”文のこのような統語的相違は、それぞれの文の用法の相違にも関係する。以下、各構文の用法を考察する。

1.3. “如果”文、“要是”文の典型的用法

1.1 節でも述べたように、“如果”文と“要是”文の実際の用例を観察してみると、そのほとんどは、接続詞が置かれる前節が「仮定」を表し、後節が「結果」を表すものである。即ち、1.1 節の(1)で示される「仮定—結果」の関係を表すものである。また、「仮定」も「結果」も典型的には〈事態〉であるという事実に対応して、二つの節は通常は述詞性成分を含む節によって構成される。一般に条件文と呼ばれるものの基本的な用法が 1.1 節の(1)のように規定されるものであるなら、“如果”文も“要是”文も典型的には条件文であり、「仮定—結果」の関係を表すことがそれらの典型的用法であるとみてよいだろう。有田 2006:21 は通言語的な条件文のプロトタイプを以下のように規定するが、“如果”文と“要是”文の一般的な用法もこれに合致する。

(15) 前件Pが成立する世界を仮定し、その仮定世界での後件Qの成立を推定するような関係を表す (有田 2006:21)

なお、“如果”文と“要是”文の実例には、次の2例のような反事実的条件文に当てはまる用例も少なからず観察される。

(16) 原来这里还有好几座筒子楼，现在都拆了——**如果**不拆，那些楼就

ruquo NEG 壊す あれら 建物 すぐ

会 自己 倒 掉，因为它们已经太老了。(王小波《白银时代》)

~だろう 自ら 倒れる COM

(もともとそこには筒子楼 [廊下の両側が部屋になっている建物] がいくつもあったが、今は全て壊された。もし壊さなかったら、あれらの建物は自ら倒れ落ちただろう、なぜならそれらはもう古すぎたから。)

(17) 现在他可后悔了：**要是**排得靠后一点儿，也能先看

yaoshi 並ぶ PART 近づく 後ろ 少し ~も ~できる まず 見る

看 别人 怎么 说 啊。(陈建功《要叉》)

見る 他人 どのように 言う MOD

(今彼は本当に後悔している:もしもう少し後ろに並んでいたら、他の人がどのように言うかをまず見ることもできたのになあ、と。)

(16)(17)では、話し手は、前節の事態が実現しないことは分かっているが、話し手の推量として、前節の事態を仮に実現したと仮定し、後節でその結果を表しており、その意味ではやはり「仮定—結果」の関係を表すものであり、(1)に適合するといえる。

このように、“如果”文と“要是”文は、基本的には、話し手にとって**実現が不確定な事態**か或いは**反事実的事態**を前節において「仮定」し、その状況で実現し得る「結果」を後節において示すというタイプの構文であり、その意味において、典型的には条件文であるとみることができる。

ところで、1.1 節の(1)の“假设复句”の定義には(15)のような、ある「世界」を仮定すると言及はない。条件文の意味解釈には、話し手に現実世界とは別に「代替世界 (alternative world)」が構築されるとする一つの解釈があり、有田 1999 はそれに基づき

条件文の典型的用法と周辺の用法を分析し、さらに有田 2006:21 で(6)の通言語的条件文のプロトタイプを提示している¹²⁾。

本章では、プロトタイプ理論の観点から条件文を分析した有田 1999,2006 に基づき、中国語の条件文を典型的用法と周辺の用法に分け、“如果”文、“要是”文の周辺の用法、及び用法の拡張過程については、条件文における「世界」の構築という概念を取り入れた説明をする。

1.4. “如果”文、“要是”文の周辺の用法

本節では、“如果”文、“要是”文の周辺の用法を考察し、それらが、1.3 節で確認した典型的用法からの拡張の結果として成立する過程について論じる。

1.4.1. 習慣的事態を表す条件文

口語コーパスの実例を観察すると、以下のように、話し手が現実世界で習慣的に起きている事態を叙述する用例が少なからずみられる¹³⁾。

(18) 如果 没有 游客 雇船， 他们 就 拨 转 船头，直 放 运河，
ruguó ない 旅客 船を雇う 彼ら すぐ かき分ける 回る へさき まっすぐ 出す 運河
到 运河 上 撒网 打鱼， 卖 给 码头 上 的 鱼行，太阳 落 山 才
着 運河 上 網を打つ 魚を取る 売る ～に 埠頭 上 PART 魚屋 太陽 沈む 山 やっと
收 船 回 家。(刘绍棠《渔火》)

しまう 船 帰る 家
(もし船を雇う旅客がいなければ、彼らはへさきを回し、まっすぐ運河に出して、網を打って魚を取り、埠頭の魚屋に売って、太陽が山に沈んでからようやく船を岸につけて家に帰る。)

¹²⁾ 「代替世界」については、有田 1999:81 の議論を参照している。

¹³⁾ 本論では、Fauconnier1985:15 に基づき、「現実」を“the speaker’s mental representation of reality” (現実についての話し手の心的表示) ととらえる (訳文は坂原・水光・田窪・三藤訳 1996 参照)。つまり、「現実世界」とはあくまでも話し手 (語り手) の認識における世界であり、本章で「話し手 (語り手) の現実世界」と述べるのは、その点を強調するためである。

(19) 嗯，人们 **要是** 刮，刮 起 风 来 啊，人们 都 得

INTJ 人々 yaoshi 吹く 吹く COM 風 来る MOD 人々 みな ~しなければならない

戴 上 纱巾。(《北京口语语料》东城)

かぶる COM スカーフ

(ええ、もし吹いて、風が吹いてきたら、人々はみなスカーフをかぶらなければならない。)

(18)の“如果”文の前節の事態「船を雇う旅客がいない」は、語り手の現実世界で習慣的に生起し、叙述以前に実現することがすでに確認されており、後節ではそれが実現した場合、現実世界で実際に起こる事態が述べられている。また(19)は話し手が北京の秋を紹介する談話であるが、この“要是”文前節の事態「風が吹いてくる」も習慣的な事態であり、現実世界での実現が確認されており、後節ではその前節の事態が起こった場合に、実際にそれにともなって起こる事態が述べられている。1.3 節で述べた典型的用法では、実現が不確定か或いは反事実的事態が前節で仮定されるが、(18)(19)はその点で異なり、“如果”文、“要是”文の周地的用法の一つとみなせる。それではなぜ、このような現実世界の習慣的事態が、条件文の形式で表されるのであろうか。

(18)からは、会話の含意 (conversational implicature) として、語り手の現実世界で、「船を雇う旅客がいない」事態と「船を雇う旅客がいる」事態という2つの事態が現実存在することが読み取れる。(19)でも、話し手の現実世界では、「風が吹いてくる」事態と「風が吹いてこない」事態が実際に起きていると読み取れる。つまり、(18)(19)において、話し手は前節で、自分が認識する現実世界の2つの事態から、ある1つの事態が仮に起こる場合として仮定世界を構築し、後節でその場合に現実に起き得る事態を示すために、条件文を用いていると考えられる。即ち、現実世界の2つの選択肢の中から、後節の事態が成立する1つの〈場合〉として——いわば**条件提示**として——前節の事態が選ばれているのである。本論では、これを条件文前節の〈**条件選択性**〉と名付ける。

ところで、中国語では、前後の節の関係が現実世界で実現することが確認されている事態をつねに自由に条件文で表すことができるわけではない。例えば、以下のように、日本語では「れば」形式などの条件文で表すが、中国語では“如果”文、“要是”文で表すことができない例がある。

(20a) 春になれば、桜が咲く。

(20b) *如果 (/要是) 春天 到 了, 樱花 就 会 开。

ruguo (/yaoshi) 春 来 る ASP 桜 すぐ ~だろ 咲く

(21a) 朝になれば、東から太陽が昇る。

(21b) *如果 (/要是) 到 了 早晨, 太阳 就 从 东边 出来 了。

ruguo (/yaoshi) 来 る ASP 朝 太陽 すぐ ~から 東 出てくる SF

(20a)を毎年必ず起こる自然現象の説明と解釈すると、中国語に直訳した(20b)は、不自然な文とされる。(21a)も同様に、一般的な自然現象の説明という解釈をした場合、中国語に直訳した(21b)は不自然とされる。それでは、これらの文が許容されないのはなぜであろうか。

(20)(21)の前節の事態は、上記(18)(19)とは異なり、常識的な現実の世界では、それ以外の事態が代わりに起こるということを想起できないものである。上述のように、(18)(19)では、現実世界において2つの事態が起きており、前節以外の事態が起こる場合もあると読み取ることができ、それゆえ前節が〈条件選択〉的に示される。しかし、(20)(21)では、前節が表す事態以外に選択できる事態というものを想起できない。(20)では、常識的な現実の世界においてではあるが、「春になる」の代わりに「春にならない」事態というものを想起できない。(21)でも同様に、常識的な現実の世界において、「朝になる」代わりに起こる事態というものを想起できない。したがって、(20)(21)は、まさに〈条件選択〉ができないために、“如果”文、“要是”文などの条件文で表すことができないと考えられる。

以上の分析から、中国語の条件文、特に北京口語で代表的な“如果”文、“要是”文で習慣的事態を表す場合は、前節が〈条件選択性〉を有するといえる。

1.4.2. 時間関係を表す条件文

ところで、習慣的事態を表す条件文は、以下の例のように、前節の末尾に時間を表す“时候”、“时”などが用いられる場合がある。

(22) 现在还比较注意, 比较注意就是, 如果 电视 上 放演 的 时候儿 呢,

ruguo テレビ 上 放送する PART 時 MOD

也 看 一 看。(《当代北京口语语料》东城)

～も 見る ちょっと 見る

(今でもまだ注目してて、注目しててね、もしテレビで放送する時もね、ちょっと見たりしてます。)

(23) 文化娱乐活动, 那一般就是, 要是 上学 的 时候儿 吧,

yaoshi 学校に通う PART 時 MOD

一般 都 是 在 星期六, 星期六 下午。(《当代北京口语语料》西城)

普通 みな COP ある 土曜日 土曜日 午後

(文化娛樂活動は、普通は、もし学校がある時はね、普通はみな土曜、土曜の午後ね。)

(22)(23)のような“如果”、“要是”と“时候”の共起は、条件文と時間関係を表す文の関係を探る上で興味深い言語事実である¹⁴⁾。序章でも触れたが、呂叔湘 1944:143 は、いくつかの種類の時間関係の文には、条件関係が含まれるとし、それは未来の事柄と“习惯性”(習慣的)な事柄を表す文であるとしている。また、艾皓德 1991:453 は、次のような例を挙げて、仮定接続詞と“时”が共起する文についても、未来と“一般情况”(一般的な状況)を表すとしている¹⁵⁾。

(24) 如果 红军 一旦 改变 到 比 自己 敌人 更为 强大 时,

ruguo 紅軍 ひとたび 変わる COM ~より 自分 敵 一層 強大である 時

那末 这个 反复 就 结束了。

それなら これ 反復 すぐ 終わる SF

(毛泽东《毛泽东选集》(一卷本)(人民出版社 1968 年)

[艾皓德 1991:453 より引用])

(紅軍がひとたび自分の敵より一層強大になる時には、その反復は終わりを告げる。)

(25) 如 被 宣告 死亡 人 重新 出现 时, 经 本人 或 利害关系 人 申请,

ruguo ~される 宣告する 死亡 人 再び 現れる 時 ~を経て 本人 或いは 利害関係 人 申請する

¹⁴⁾ 条件関係と時間関係の関係については、王力 1943:115、呂叔湘 1944:143-145 などにおいて、古くから指摘されている(序章参照)。条件文前節の末尾に“时候”などがつく文については、張煉強 1990 で構造分析や詳細な用例の記述などがなされている。

¹⁵⁾ 呂叔湘 1944:143 の“习惯性”(習慣的)な事柄と艾皓德 1991:453 の“一般情况”(一般的な状況)はともに恒常的に生起する事態を指していると考えられる。

人民法院 应该 撤销 原 宣告 死亡 的 判决。

人民裁判所 ～すべきだ 取り消す 元の 宣告する 死亡 PART 判決

(巫昌桢主编《婚姻法讲义》(中国政法大学出版社 1986)

[艾皓德 1991:453 より引用])

(仮に死亡宣告された人が再び現れた場合は、本人或いは利害関係にある人の申請を経て、人民裁判所は元の死亡宣告の判決を取り消さなければならない。)

艾皓德 1991:453 によると、(24)は未来の事柄、(25)は一般的な状況を表すということである。一方で、张炼强 1990:179 は、次のような例を挙げ、“如果…的时候/时”は、医療、体育、法律、物理化学実験などの分野の言語において用いるのによく適すると指摘している。

(26) 如 双方 因 抚养问题 发生 争执 不 能 达成 协议 时, 由

ruguo 双方 ～による 扶養問題 発生する 争い NEG ～できる 成立する 示談 時 ～から

人民法院 根据 子女 的 权益 和 双方 的 具体 情况 判决。

人民裁判所 ～に基づき 子女 PART 權益 と 双方 PART 具体的である 状況 判決する

(巫昌桢主编《婚姻法讲义》(中国政法大学出版社 1986)

[张炼强 1990:178 より引用])

(仮に双方に扶養問題による争いが発生し、示談が成立しない場合は、人民裁判所が子女の權益と双方の具体的な状況に基づき、判決を下す。)

(27) 如果 健康 的 男女 失去 同样 大量 的 血 时, 男性 死亡,

ruguo 健康的である PART 男女 失う 同様に 大量 PART 血 時 男性 死亡する

女性 却 有 抢救 康复 的 可能。

女性 かえって ある 応急措置をする 回復する PART 可能性

(『人民日报』1989年3月5日 [张炼强 1990:177 より引用])

(仮に健康な男女が同じように大量の血液を失った場合、男性は死亡するが、女性は応急措置で回復する可能性がある。)

(26)は「婚姻法」という法律の規則を表す文、(27)は健康な男女が血液を失った場合にどうなるのかという、医学における一種の現象を表す文である。张炼强 1990:179 が“如

果…的时候 / 时”がよく用いられるとした上記のジャンルの文章においては、(26)(27)のように、規則や法則などの原理原則、即ち、現実世界で恒常的に生起すると認識される事態が表されることが多いと考えられる。本章で研究対象とした《北京口语语料》においても、以下のような恒常的事態を表す“如果…的时候 / 时”の例がみられる。

(28) 然后呢，它就是研究，就是说，你 **如果** 扎 在 穴位 上 的 时候 吧，

あなた ruguo 刺す ～に 灸つば 表面 PART 時 MOD

就 它 整个 神经系统 就 有 反应，释放 出 就 是 类似

すぐ それ 全体 神経系統 すぐ ある 反応 放出する 出る ほかでもなく COP 似る

啡 的 物质，内啡肽。(《北京口语语料》东城)

モルヒネ PART 物質 エンドルフィン

(それからね、その研究では、つまり、もし [針を] 灸つばに刺す時はね、神経系統全体が反応して、モルヒネに似た物質、エンドルフィンが放出されます。)

(29) 反正我呢，一般晚上回家之后呢，**如果** 孩子 上学 的 时候儿，呢，

ruguo 子供 学校に通う PART 時 INTJ

回 家 吃 完 饭 一般 在 七点。(《北京口语语料》天桥)

帰る 家 食べる 終わる 食事 普通 ある 7時

(どっちにしろ私はね、普通夜、家に帰った後はね、もし子供が学校の時は、ええ、家に帰ってご飯を食べ終わるのは普通 7時だよ。)

(28)は針を灸つばに刺した時どうなるのかという、医学における一種の法則を表す文である。(29)は話し手が子供が学校の時に、夕食を食べ終わるのが通常いつになるのかという、一種の習慣的事態を表す文である。今回、試みに《CCL 現代汉语语料庫》から、“如果…的时候 / 时”の例を無作為に 100 例検出して観察したところ、そのうち 90 例 (90%) が次のような原理原則或いは習慣的事態などの恒常的事態を表す例であった。

(30) 一 个人 **如果** 相当 生气 的 时候，脸部 表情 一定 会 产生 相当

1 CL 人 ruguo かなり 怒る PART 時 顔 表情 必ず ～だろう 起こる かなり

丑恶 的 变化。(CCL)

醜い PART 変化

(人がもしかかなり怒っている時は、顔の表情に必ず醜い変化が起こる。)

(31) 消费者购买手机后多次维修仍没有解决问题, **如果** 不 愿 修 理 要

ruguo NEG 望む 修理する 求める

退换 时, 厂家 就 会 说, 对不起, 不 能

取り替える 時 メーカー すぐ ~するだろう 言う 申し訳ありません NEG ~できる

退换, 因为 中国 法律 对 手机 退货 无 规定。(CCL)

取り替える なぜなら 中国 法律 ~に対する 携帯電話 返品する ない 規定

(消費者が携帯電話の購入後、何度も修理するが依然として問題が解決せず、仮に修理を望まず取り換えを求めた場合、メーカーは、申し訳ないが、取り換えできない、中国の法律に携帯電話の返品に対する規定がないので、と言う。)

(30)は人が怒る時に法則としてどのような変化が起こるのかという、一種の原理原則、(31)は消費者が携帯電話の取り換えを求めた時にメーカーが常にどのような反応をするのかという、一種の習慣的事態が表されている。

このように、“如果”、“要是”などの接続詞と“时候”が共起する文は、上記(22)(23)(29)(31)のような習慣的事態や、(25)(26)(27)(28)(30)のような原理原則を表す文など、現実世界において恒常的に生起する事態を表す文が多い。上記(24)については、艾皓徳 1991:453 が述べる通り、未来の事柄を表すとはいえるが、この文は、毛沢東が、第二次国内革命戦争において、“围剿”(包圍討伐)の繰り返しがいつ終わるのかについての見解を述べたもので、戦略上の原則として述べた文であり、一種の原理原則を表していると考えられる¹⁶⁾。したがって、“如果…的时候/时”は、典型的には、現実世界における恒常的事態を表すと考えられる。

このような“如果…的时候/时”の文では、「このような〈場合〉にはこうなる」という法則や規則が述べられており、現実世界で実現する特定の事態について、それが起こる一つの〈場合〉が提示されており、その意味で、やはり現実世界で前節の事態が成立する場合と、成立しない場合の2つの事態が起こり得ると解釈でき、やはり〈条件選択性〉を有すると考えられる。特に、次の(32)(33)では、“如果…的时候/时”の前に、当該構文の前節と対立的な事態が置かれ、前節が成立する場合と成立しない場合が、明示的に示されている。

¹⁶⁾ (24)の解釈については、毛沢東《毛沢東選集》(第一卷)(人民出版社, 1953年)を参照した。

(32) 平时 聊天 小声 说话 时，只需要在肺的上部保留少量空气，轻轻呼吸
普段 世間話をする 小声 話をする 時
就可以了。但 如果 大声 说话 和 演讲 时，就 需要 深呼吸。(CCL)
しかし ruguo 大声 話をする と 講演する 時 すぐ 必要である 深呼吸
(普段会話で小さい声で話す時は、肺の上部に少量の空気を残すだけでよく、軽く
呼吸すればよい。しかしもし大声で話をしたり講演をしたりする場合は、深い呼吸
が必要である。)

(33) 纠正措施完成后，由技术部组织进行跟踪验证，对纠正措施实施效果的有效性进行
评审。如果 实施 效果 明显，应形成规定，做出永久的更改；如果 实施 效果
ruguo 実施する 効果 明らかである ruguo 実施する 効果
不 明显 或 无效 时，责任部门 应 重新 分析 原因、
NEG 明らかである 或いは 効果がない 時 責任部門 ～するべきだ 改めて 分析する 原因
重新 制定 并 实施 纠正 措施，技术部 重新 组织 跟踪验证，
改めて 制定する また 実施する 是正する 措置 技術部 改めて 組織する 追跡検証
直至 达到 预期目标。(CCL)
～になるまで 達成する 所期目標

(是正措置が終わった後、技術部が追跡検証を行い、是正措置の実施効果の有効性に対して審査を行う。もし実施効果が明らかであれば、規定を作り、永久的な変更をするべきである。もし実施効果が明らかではないか或いは効果がない場合は、責任部門が再度原因を分析し、改めて是正措置を制定、実施し、技術部が改めて追跡検証を行い、所期の目標を達成するまで続けるべきである。)

(32)では、まず当該構文の前において、「普段会話で小さい声で話す時」(波線部)に必要な呼吸が述べられ、その後の当該構文の前節では、それとは対立的な「大声で話をしたり講演をしたりする場合」に必要な呼吸が述べられ、文脈上、当該構文の前節が成立する場合と成立しない場合が明示的に示されている。一方、(33)では、まず当該構文の前の文において“如果”文が置かれ、「実施効果が明らかである」(波線部)場合に行うべきことが述べられ、その後の当該構文の前節では、それとは対立的な「実施効果が明らかではないか或いは効果がない」場合にどのようにすべきかが述べられており、文脈上、当該構文

の前節が成立する場合と成立しない場合が明示的に示されている。(32)(33)の当該構文の前節からは、明らかに現実世界で 2 つの事態が起こり得ると解釈でき、〈条件選択性〉を有するといえる¹⁷⁾。

“时候”を伴う節は言うまでもなく時間節であり、後節が表す事態の時間的な場を設定する表現である。〈条件選択性〉を有する条件文がこのように“时候”と共起し得るといふ事実は、この種の条件文がもはや本来の〈假定〉の意味を失い、時間関係を表す複文に拡張しつつあることを示唆している。

ただし、“如果”文、“要是”文は、上述のように、典型的には前後の節が恒常的に生起し、その間に何らかの法則がある場合に時間関係を表すことができ、あらゆる出来事の時間関係をつねに自由に表すことができるわけではない。例えば、以下の(34)のように、偶発的な出来事の時間関係を表す場合は、日本語では(34a)のように「たら」形式の条件文で表すことができるが、中国語では“如果”文、“要是”文で表すことができない。(34a)を“如果(/要是)…的时候”を用いて直訳した(34b)は不自然な文とされる。

(34a) さっき電話したら、奥さんがでた。(有田 1999:95)

(34b) *如果(/要是) 刚才 我 打 了 电 话 的 时 候, (他)老婆 接 了。

ruguo (/yaoshi) 先ほど 私 する ASP 電話 PART 時 (彼) 奥さん 出る SF

このように、“如果”文、“要是”文は、典型的には恒常的に生起する事態を表す文において、時間関係との重なりが見られる。

1.4.3. 話題提示の条件文

ここまで、“如果”文と“要是”文の周辺の用法を考察してきたが、二つの構文の違いとして、“要是”文には、さらに、前節が時間句として、ある特定の時期を示し、話し手がその時期に習慣的に経験した事態を表すという用例がある。

¹⁷⁾ なお、(32)においては、文脈上先に示されている「普段会話で小さい声で話す」という事態と、後に示されている「大声で話をしたり講演をしたりする」という事態はいずれも後にそれぞれに必要な呼吸が示され、その二つの事態はどちらも一種の呼吸の「条件」と見なせるが、接続詞“如果”は後者の方だけに付いている。このように、同じ「条件」でも接続詞の使用が分かれるのはなぜかについては、本論第二章で論じる。

(35) ……这是新中国以来，嗯，我经历的这么一段儿。

呵，那个可，那解放前那，那得分几个阶段啦。

您 要是 在 我 十几岁儿 时候儿，我，我 初 入 社会 工作 的 时候儿，

あなた yaoshi ～に 私 10 何歳 時 私 私 初めて 入る 社会 働く PART 時

您 那阵儿，我 一天 哪， 挣 这么 九毛钱。……这是民国二十来年，

あなた あの時 私 1日 MOD 稼ぐ たった 9角

二十多年的时候儿。

后首儿，日本来的时候儿，那可就不行啦。……¹⁸⁾ 《北京口语语料》东城)

(……これが新中国以来、私が経験したことだよ。

えー、それで、解放前はなあ、いくつかの段階に分けなければならないな。

あなたねえ、私が十いくつかの時は、私、私が初めて社会に出て仕事をした時は、その時は、一日にねえ、たった9角の稼ぎだよ。……これが民国20年頃、20数年のとき。

後に、日本が来たときは、駄目になったなあ。……)

(35)下線部の“要是”文からは、「仮定—結果」という条件文の典型的意味が読み取れない。また、話し手の現実世界で、前節の事態が成立するか否かの2つの事態が起こり得て、前節にその中の1つが条件選択的に提示されているという解釈もできない。このような用例は“要是”文にしかみられない。

(35)は、話し手が過去の経験を、時期を分けて述べている談話である。“要是”文の直前で、“解放前”(解放前)を段階を分けて述べるとし、続く“要是”文前節でこれから述べる時期を示し、その後の数文において、その時期の経験を述べている。さらにその後に、“日本来的时候儿”(日本が来た時)の時期のことが述べられている。つまり、“要是”文前節は、その後の談話の話題(topic)であり、“要是”は、談話の話題を提示する一種の談話マーカ(discourse marker)として機能していると考えられる¹⁹⁾。注目すべきは、“要是”の前に文の内容に関与せず、聞き手に対し自分の談話に注意を喚起するための呼格的

¹⁸⁾ 《北京口语语料》の談話の段落分けは、筆者が内容を考慮して適宜行っている。

¹⁹⁾ ここでの話題(topic)とは、文単位の話題ではなく、“語篇”(談話)上の話題を指す(方梅 2000:465 参照)。

“您”（囲み部）が用いられているという事実である²⁰⁾。ここでの“您要是”は、それ全体で、聞き手に話題の転換を喚起する働きがあると考えられる。方梅 2000:462,468 によると、中国語の接続詞の中で談話マーカ機能があるのは、主に複文の後節に用いる接続詞で、“如果”にもその機能はないとしている。しかし、实例を詳細に観察すると、同じ仮定接続詞でも、“要是”には談話マーカ機能を見出すことができる。このような話題を提示する“要是”文の用例は、1.1 節に示した本章で使用したコーパスでは、“要是”文約 850 例中、7 例しか観察されなかったが、中国語母語話者によると、そのいずれもが自然な文であるとされ、数量的には少ないものの、決して特殊ではない用法であるといえる。

例えば、この種の“要是”文の用例は、以下のような、1.2 節で述べた“要是”文独自の統語的特徴である“要是+NP（名詞句）”形式の文においても観察される。1.1 節で一般的な用法に当てはまらない用例としてあげた(4)を、文脈も含めて改めて示す。

(36) 元旦新年，元旦是比较有意思的啊，在学校可以，上回我们玩儿到十点多呢，在学校。……

然后就是，新年吧，请老师在一起，先是那个文艺节目，表演点儿节目，什么诗朗诵一类的。嗯，然后就是最后再一什么，同学一块儿玩儿玩儿，比较有意思。

要是 春节 吧，在 家里 过 哈， 嗯，那个 春节 其实是 最有意思 的。
yaoshi 春節 MOD ~で 家 なか 過ごす MOD INTJ あれ 春節 実は COP 最も 面白い PART
那个从那个三十儿晚上吧，就是一夜我们都不睡觉，熬夜，然后第二天早晨呢，再去拜，出去拜年什么的。……（《当代北京口语语料》西城）

（元旦新年、元旦はわりと面白いよ。学校にいてもいい。前回私たちは 10 時過ぎまで遊んだ、学校で。……

あと、新年はね、先生と一緒に、まず文芸の出し物、出し物をちょっと演じたり、なんか詩を朗読したりした。その後、最後になんか、同級生とちょっと遊んで、わりと面白かった。

春節はね、家で過ごすよ、そう、んー、春節が実際一番面白いんだよね。 その大晦日の晩から、つまり一晩私たちは寝ないで、徹夜して、その後翌日の朝になってから、挨拶に行き、年始回りとかに出かけるの。）

²⁰⁾ この呼格的“您”の用法については、Biq1991:314-316 を参照している。

(36)は、話し手が元旦や新年、春節をどう過ごしているかを述べている談話である。まず元旦と新年について述べた後、“要是”文が用いられ、そこから話題が春節に移る。“要是”文前節には、“春节”(春節)という名詞句しか用いられておらず、そこには、ある事態を仮定するという意味や現実世界の2つの事態から選択された条件という意味は読み取れず、したがって、この“要是”文前節も話題を提示しているものと考えられる²¹⁾。

仮に、方梅 2000:462-467 で挙げられている接続詞の談話マーカ機能に照らして、これらの用法における“要是”の機能を分類してみると、これらの“要是”は談話の背景のある要素を話題として活性化する前景化 (foregrounding) 機能を有する形式と考えられる。方梅 2000:463 では、その機能を有する接続詞として“就是”だけを挙げているが、注目すべきは、(36)3 行目の“新年”の前に、まさにその機能の“就是”([36] 囲み部)が用いられていることである。“就是”と“要是”は語構成が類似し、両者の談話機能には共通点があるように見受けられる。

このように、(35)(36)にみられる“要是”文は、条件文の典型的用法から逸脱し、周辺的用法の一つとみなせる。それらの文の前節の話題は、(35)では、“要是”文前節と、その後の“日本来的时候儿”(日本が来た時)が、(36)では、“要是”文前節と、“元旦”(元旦)、“新年”(新年)が、それぞれいずれも対比的に示されている。上述の〈条件選択性〉を有する条件文は、前節が「現実世界」の2つの事態から1つが選ばれるという特徴があった。一方、(35)(36)の“要是”文では、話し手の構築する「談話世界」において、当該条件文の前節が、談話の背景にある2つ以上の話題のうちから、後節の談話を成立させる1つの〈話題〉を選択していると考えられる。本論では、この種の“要是”文の前節の特徴を〈話題選択性〉と名付ける。

²¹⁾ ただし、すべての“要是+NP”が話題を示すというわけではない。例えば、以下のような、前節が仮定を表す典型的用法もある。

要是 我, 我就 可以 只当 什么 都 没 发生。(王朔《玩儿的就是心跳》)
yaoshi 私 私 すぐ ~できる ~とする 何 ~も NEG 発生する
(もし私なら、何も起こらなかったことにできる。)

“要是”の“是”には、肯定を表す動詞的機能があることが認められており(周剛 2002:137-139)、この文の前節は、実現不確定な事態として、「私である」といった判断を表す事態が仮定として表されていると解釈すべきであると考えられる。

〈条件〉と〈話題〉の類似性は、これまでも様々な言語において指摘があるが²²⁾、中国語の話題提示の条件文には、「〈話題〉の選択とは、談話を展開するための一種の条件の選択である」という一種のメタファー (metaphor) が働いていると考えられる²³⁾。

以上のように、〈条件提示〉と〈話題提示〉の条件文には、いずれも前節に対比性があるという共通性がある。さらに両者の間には、上で述べたメタファーに動機付けられた〈条件提示〉用法から〈話題提示〉用法への拡張が成立していると考えられる。〈話題提示〉用法の条件文は、“要是”文のみに観察される用法であり、ゆえに、口語で用いられる“要是”文前節についてのみ、〈条件提示〉から〈話題提示〉への拡張があるといえる。

1.5. “要是”文の話題の特徴

1.4.3 節では、“要是”文に話題提示の用法があることを論じたが、実際の用例を見ると、選択される〈話題〉には一定の意味的特徴があるように見受けられる。

“要是”文の話題提示の用例は、先に示した以外にも、次のような例がある。

(37) 就是说，我举这个例子，就说什么呢，就说咱们中国人吃东西呢，确实不太注意。就是好吃就行。……

嗯你看，这十年前吧，啊，要是过春节的时候儿，这个家里边儿，

これ 10 年前 MOD INTJ yaoshi 祝う 春節 PART 時 これ 家 なか

你要，你要注意一下这个，每家的餐桌儿上呢，过去呀，什么

あなた AUX あなた AUX 注意する ちょっと これ

总是那个什么红烧猪肉啊，什么这种就是都是大鱼大肉吧，特别多。

现在呢，……就是平常吃饭呢，……要要高蛋白的，低脂肪的，而且还多吃一点儿什么水果儿蔬菜啊，增加点儿什么维生素哈。 (《当代北京口语语料》东城)

(つまりね、その例を挙げると、つまり何かというと、我々中国人は食べることはね、

²²⁾ 例えば、Haiman1978 は様々な言語において、条件マーカと話題マーカが類似していることを指摘した。Sweetser1990:125-133 は、英語の if 節の話題性を議論している。また、日本語の条件形式の一つ「なら」には、話題を提示する機能があることが一般に知られている (森田 1990:93)。「なら」は通時的に「断定」を表す「なり」に由来するとされるが (益岡 1997:120)、“要是”にも同じように肯定を表す動詞的機能をもつ“是”が含まれており、両者は形態的に共通している点が興味深い。

²³⁾ メタファーの概念については、Lakoff & Johnaon1980、大堀 2002:73-96 を参照した。

確かにあまり注意しない。つまり美味しければよい。……

ええ、ほら、この十年前はね、ええ、春節を送るときは、そのお家の中では、あなた、あなたね、それにちょっと注意しててね、各家庭の食卓はね、昔はね、なんか、いつもそのなんか豚肉の醤油煮込みとか、なんかそんな全てがご馳走で、とても多かった。

今はね、……普通の食事はね、……高たんぱくとか、低脂肪とか、さらになんか果物や野菜をちょっと多く食べるとか、何かビタミンをちょっと増やすとか。）

(38) 反正 你 要是 过去 吧，说 实在 的，你 像 我 生 在

どうせ あなた yaoshi 昔 MOD 言う 実 は PART あなた ~のような 私 生まれる ~に

旧社会，根本 就 没有 文化，咱也没有那机会学习，家庭生活挺苦，哪儿有旧社会 全く ほかでもなく ない 文化

什么机会学习呀？

你看现在她们俩吧，不管怎么着，反正培养她们俩高中毕业。

（《当代北京口语语料》牛街）

（どうせあなた昔はね、実を言うとね、あなた私のような旧社会に生まれたのは、まったく読み書きができなくてね。私は勉強する機会もなく、家計もとても苦しくてね、勉強する機会がどこにあるというんだよ。

ほら今は彼女二人はね、何とかして、いずれにせよ彼女二人を高校卒業まで育てたよ。）

(37)の“要是”文の前節“过春节的时候儿”（春節を送る時）は、談話の話題であり、その後の後節では、その春節の時の食事がどのようなものであったかが述べられている。(38)の“要是”文の前節“过去”（昔）も、談話の話題であり、その後の後節では、その時期には読み書きを習う機会がなかったことが述べられている。コーパスの用例をみる限りでは、話題提示の“要是”文の前節をみると、そのほとんどが、(37)“过春节的时候儿”のような時間句か、(38)“过去”のようなある種の時間を表す NP となっている。ただ、それ以外の表現が話題として選ばれる用例も以下のようにわずかながらみられる²⁴⁾。

²⁴⁾ 今回観察された“要是”文の話題提示の用例 7 例中、5 例の話題が意味的に何らかの時間を表す表現であった。

(39) 什么养活个鸟儿啦，什么这个，就是说我好的这个玩艺儿，我必须得去。……

要是 洗澡 的 事儿，我 洗 完 澡 我 就 家 去 了。

yaoshi 入浴する PART 事 私 洗う 終わる 洗う 私 すぐ 家 行く SF

看看报纸啊，什么这个杂志啦，什么这个这个法律，《民主与法律》，我就爱看这个。

(《当代北京口语语料》牛街)

(なんか鳥の飼育とかね、なんかそれとかね、つまり私が好きなものは、私は必ず行くよ。……)

風呂に入ることならね、私は入り終わったら家に帰るよ。

新聞とかね、なんかその雑誌を読むこととかはね、なんかそのその法律、『民主と法律』、私はそれを読むのが好きでね。)

(39)は、話し手が“养活个鸟儿”(小鳥を飼う)、“看报纸”(新聞を読む)など日常生活の様々な事柄を列举して、それらの事柄について、話し手が普段行っている行動を述べている談話である。“要是”文前節の“洗澡的事儿”(風呂に入ること)もその一つで、ほかの事柄と対比させて、〈話題選択〉的に提示されており、後節では話し手がそれについて普段行っていることを述べている。

また、作例では、以下のような“要是”文前節に時間表現以外の語句を話題として用いた文も自然とされる。

(40) **要是** 啤酒，青島 最 好，**要是** 可乐，百事可乐 最 好。(作例)

yaoshi ビール 青島 最も よい yaoshi コーラ ペプシコーラ 最も よい

(ビールなら、青島が一番、コーラなら、ペプシコーラが一番。)

(40)は日本語の条件形式の一つ「なら」を用いた話題提示の表現を中国語に訳した文で、“要是”文前節は何らかの事態の仮定を表しているとは解釈できない。前節の“啤酒”(ビール)、“可乐”(コーラ)は、選択的に示された談話の話題といえる。この文は、中国語母語話者によると自然な文とされる。したがって、“要是”文の話題は、時間表現に限定されるということはないようである。

ただし、コーパスでみられる話題はほとんど時間表現であり、時間表現が“要是”文の話題になりやすいということはいえそうである。このことは、本章で論じてきた条件文の

拡張過程と関連があるように思われる。1.4.2 節で考察したように、中国語の条件提示の条件文には、前節が時間句になっている文があり、条件文から時間関係を表す文への拡張が観察された。条件文と時間関係を表す文は、密接な関係にあるといえる。

条件提示から話題提示への拡張においても、時間表現が拡張の一つの動機付けとして、大きな役割を果たしているように見受けられる。話題提示の条件文には、前述のように、「**〈話題〉の選択とは、談話を展開するための一種の条件の選択である**」というメタファーが働いていると考えられる。一方で、時間表現は、談話で述べる事態が起こる時間的な場を設定する表現である。つまり時間表現は、談話を展開するための〈条件〉になりやすいと考えられる。即ち、時間表現は、談話を展開するための時間的な場を設定する表現として、より〈話題〉になりやすく、そのため“要是”文の話題として顕著にみられるのではないかと考えられる。

1.6. まとめ

本章では、北京口語の代表的な条件文である“如果”文と“要是”文の典型的用法と周辺の用法を考察し、併せてその拡張過程について分析した。その結果、“如果”文、“要是”文は、まず典型的用法から、習慣的事態や時間関係を表す条件提示の用法に拡張することが明らかになった。条件提示の条件文では、現実世界で起こり得る 2 つの事態から、後節の事態が成立する 1 つの〈場合〉として前節の事態が選ばれており、前節は〈条件選択性〉を有すると考えられる。さらに二つの構文の違いとして、“要是”文については、条件提示から話題提示の用法に拡張することが明らかになった。話題提示の条件文の前節では、談話の背景にある 2 つ以上の話題のうちから、後節の談話を成立させる 1 つの〈話題〉が選択されており、その前節は〈話題選択性〉を有すると考えられる。条件提示と話題提示の条件文には、いずれも前節に対比性があるという共通点がある。さらに両者の間には、「**〈話題〉の選択とは、談話を展開するための一種の条件の選択である**」というメタファーが働き、条件提示用法から話題提示用法への拡張が成立すると考えられる。以下の表 2 でも示したように、話題提示の条件文は、前節の形式が、“小句/VP+的时候” 或いは NP といった名詞性成分で構成され、構文形式的にも、条件提示用法からのさらなる拡張がみられる。

表 2：“如果”文と“要是”文の前節の拡張過程

前節の構文形式	前節の構文的意味
“如果/要是+小句/VP”	実現不確定な事態、反事実的事態の仮定
↓	↓
“如果/要是+小句/VP (+的时候)”	現実世界から選択された条件
↓	↓
“要是+小句/VP+的时候” ／ “要是+NP(主に時間表現)”	談話世界から選択された話題

第二章 条件文における接続詞の使用条件と談話機能¹⁾

2.1. はじめに

周知の通り、中国語の条件文は、接続詞の有無に関わらず成立する現象が多く見られる。

(1) 我指着方超控诉：“他还不去呢。他 不 去 我 就 不 去。”

彼 NEG 行く 私 すぐ NEG 行く

(王朔《看上去很美》)

(僕は方超を指差して訴えた。「彼はまだ行っていないよ。彼が行かないなら、僕は行かない。)

(1)の下線部の複文は、二つの節の間の意味関係を示す接続詞が無いにも関わらず、条件文として成立している。この文に、(1)'のように、仮に条件文の接続詞“要是”を加えても非文にならず、また「条件—帰結」という意味関係も変わらない。

(1)' **要是** 他 不 去 我 就 不 去。

yaoshi 彼 NEG 行く 私 すぐ NEG 行く

では、接続詞の有無は、話し手（小説等の書き手も含む）により任意に決められるのであろうか。この点に関して、大河内 1967:5 では、中国語の複文は本来接続詞を必要としないのが一般的で、逆に使われる場合には条件があると述べられている。その条件について具体的な言及はなされていないが、特筆すべき指摘である。その後の研究では、相原 1982:255-256 が、条件文と譲歩文の前節は未然表現であるとする大河内 1967:5 の分析を受けて、それらの文の前節に已然を表す語句が用いられる場合、接続詞が無いと非文になるが、接続詞を加えると、多くの場合、文が成立すると指摘している。これは条件文に接続詞が用いられる条件の一つを示した重要な指摘といえる。ただし、相原 1982 において分析の対象とされているのは、条件文と譲歩文の前節が已然表現であるタイプの構文のみであり、已然表現ではないにも関わらず、接続詞が用いられているタイプの構文について

¹⁾ 本章は長谷川 2011 を加筆修正したものである。

は論じられていない。その他、条件文の接続詞の使用条件を論じた先行研究は、管見の限り見当たらない。このように、先行研究では、大河内 1967 において、早くから、接続詞の使用には条件があるという指摘がなされたにも関わらず、その条件の詳細については、いまなお明らかにされていない。

そこで本論では、まず条件文に用いられる接続詞が、如何なる場合に用いられるのか、或いは用いられないのかを、文が表す事態の特徴により分類して示す。その上で、文の成立に関して接続詞を必ずしも必要としないタイプの条件文に、実際に接続詞が用いられている場合、それらがなぜ用いられる必要があるのかを、談話文法の観点から考察し、それらの機能を明らかにしたい。それにより、接続詞の使用条件をさらに明らかにしたい。なお、談話文法からの分析の必要性は、以下 2.2.2 節で詳しく論じる。

2.2. 接続詞が用いられる条件文

2.2.1. 反事実条件文の場合

本節では、まず接続詞が用いられる条件文について考察する。そのような条件文として挙げられるのは、話し手が前節の事態を実現不可能と認識する反事実条件文である。反事実条件文には、以下のように一般に条件文の接続詞が用いられる²⁾。

(2) 村里出去打听的人回来说凤霞大了一点，要是 减 掉 一半 岁数，要 的
yaoshi 減らす COM 半分 年齢 めとる PART

人家 就 多 了。(余华《活着》)

嫁入り先 すぐ 多い SF

(村で尋ねに出た人が帰って来ると、鳳霞はちょっと年齢が高い、もし年齢を半分減らせば、めとる家が多くなるんだけど、と言う。)

(3) 方枪枪妈妈和院里许多人人家都去人到朝鲜跟这大流氓打过群架，她们 要 不 去

彼女ら yao NEG 行く

²⁾ 今回、陈建功《要叉》(《前科》华艺出版社，1993 所収)、苏叔阳《旋转餐厅》(《我是一个零》北京燕山出版社，1997 所収)、王朔《看上去很美》(天津人民出版社，2007)、余华《活着》(上海文艺出版社，2004) の 4 編の小説から、反事実条件文を 80 例検出したが、そのうち 71 例で接続詞が用いられている。

朝鮮小朋友 就 完 了。(王朔《看上去很美》)

朝鮮くん すぐ 終わる SF

(方槍槍のお母さんや院の多くの家は朝鮮に人をやり、そのチンピラと大勢で殴り合いのけんかをさせた。彼女らがもし行ってなかったら、朝鮮くんはくたばってしまっていた。)

(2)と(3)の下線部から接続詞“要是”、“要”を除くと、文が不自然となる。

(2)' 減 掉 一半 岁数, 要 的 人家 就 多 了。

減らす COM 半分 年齢 めとる PART 嫁入り先 すぐ 多い SF

(3)' 她们 不 去 朝鲜小朋友 就 完 了。

彼女ら NEG 行く 朝鮮くん すぐ 終わる SF

また、反事実条件文の前節では、実際には実現した已然の事態を、「仮に実現していなかったら」と仮定されることがあるため、前節の動詞句が“没(有)”で否定される場合がある³⁾。大河内 1967:5-7 は、接続詞が用いられない複文を分析し、そのような条件文の前節は未然表現であり、さらに、条件文前節の述語動詞の否定に“没(有)”が使われる例はまず無いと指摘している。そして、それを受けて、相原 1982 は、次の(4)のように、接続詞があれば、そのような制限がなくなるという事実を指摘している。

(4) 如果 没有 兴修 水利, 遇到 这样 的 旱天 就 会 成灾

ruguo NEG 工事を興す 水利工事 出合う このような PART 日照り すぐ ~だろう 災難となる
了。(相原 1982:255)

SF

(もし治水工事をしていなかったなら、こんな日照りに出合って被害なしにはすまなかっただろう。)

³⁾ 前節の動詞句が“没(有)”で否定されるのは、反事実条件文に限ったことではない。例えば、次の作例の条件文前節は、実現が未確認であることを表し、反事実ではない。

如果 他 还 没有 做 那 个 工作, 那 我 就 得 做 了。
ruguo 彼 还 未 NEG する あれ CL 仕事 それなら 私 すぐ ~しなければならない する SF
(もし彼がまだその仕事をしていなかったら、私がやらなければならない。)

(4)は前節の動詞句が“没(有)”で否定されている条件文である。相原 1982:255 によると、(4)から接続詞“如果”を除くと非文になるということである。それは、接続詞を除くと、前節“没有兴修水利”が、「治水工事をしなかった」という已然を表すことになり(相原 1982:255)、已然表現は大河内 1967:5 にある通り、「因果句」(原因・理由節)、或いは「転折句」になるからである。

今回調査した事例にも、動詞句が“没(有)”で否定される反事実条件文が見られる。

(5) 要是 那天 晚上 没 过去 找 您 喝 酒, 喝 了 酒 没 走 岔 了
 yaoshi あの日 夜 NEG 行く 訪ねる あなた 飲む 酒 飲む ASP 酒 NEG 行く 外れる ASP
 道儿, 走 岔 了 道儿 没 赶上 民警 逮 坏人, 逮 了 坏人
 道 行く 外れる ASP 道 NEG 出くわす 人民警察 捕らえる 悪人 捕らえる ASP 悪人
 局长 不 来 看 我……他 他妈 小梁子 对 自己 的 错儿 还 认头?
 局長 NEG 来る 見る 私 彼 畜生 梁さん ~に対して 自分 PART 過ち それでも 観念する
 (陈建功《要义》)

(もしあの日の夜酒を飲みにあなたを訪ねて行かず、酒を飲んで道を外れて行かず、道を外れて行き人民警察が悪人を捕らえるのに出くわさず、悪人を捕らえて局長が私に会いに来ていなかったら……梁の野郎は自分の過ちを認めているだろうか、いや認めていないだろう。)

(5)の前節では、実際に実現した一連の事態が「仮に実現していなかったら」と仮定され、いくつかの動詞句が“没”(囲み部)で否定されている。この文から接続詞“要是”を除くと、例えば前節の“那天晚上没过去找您喝酒”に、「あの日の夜酒を飲みにあなたを訪ねて行かなかった」といった、実際に実現した事実としての解釈が生じる。したがって、(5)から接続詞を省略すると、前節が条件節と解釈できなくなり、非文となる。

さらに注目すべきは、反事実条件文には、上記(2)(3)のように、前節に已然を表す語句が無くても、一般に接続詞が用いられることである。特に(3)の前節では未然の事態を否定する“不”で動詞が否定されているが、接続詞が用いられており、さらにそれを除いた(3)は文が不自然となる。これは、本稿の冒頭に示した反事実条件文ではない(1)の条件文前節も、同様に動詞が“不”で否定されているものの、そこでは接続詞が用いられていないこ

とと対照的である。

そもそも、大河内 1967:8 にある通り、中国語の已然、未然は、個々の語をもって絶対的に指定できるものではない。ゆえに、前節に已然、或いは未然を表す語句を含むか否かという点だけをもって、接続詞の使用条件を明らかにするには限界がある。そこで本論では、文が表す事態の特徴に着目して、接続詞の使用の可否の考察を試みるのである。

いずれにせよ、反事実条件文には、一般に接続詞が用いられており、さらにそれらの接続詞を除くと、文が不自然となる傾向がある。したがって、反事実条件文は、典型的には、接続詞が必要なタイプの条件文といえる。反事実条件文に接続詞が必要なのは、先の(4)(5)から接続詞を除くと前節に実現済みの事実の解釈が生じるという事実からも明らかのように、接続詞を用いることで、当該条件文の前節の事態があくまで事実と反する「仮定」の事態であることを明示する必要があるからだと考えられる。

2.2.2. “没(有)”で命題の非存在を表す反事実条件文の場合

2.2.1 節では、反事実条件文が、典型的には、接続詞が必要なタイプの条件文であることを考察した。しかしながら、以下のように、前節に“早知(道)”を含むか、節冒頭に“没(有)”が付いて、命題全体の「非存在」を表したり、或いは節冒頭に“不是”が付いて、命題全体を否定する文などについては、接続詞無しで反事実の節を形成できる⁴⁾。

(6) 早 知 第二天 是 这么 回事, 昨晚 那 碗 面条 就 不 该

早い 知る 翌日 COP このように CL 事 昨晚 あれ CL 麵 すぐ NEG ~すべきだ

浪费。(王朔《看上去很美》)

むだ遣いする

(翌日がこんなことになるのと知っていたら、昨晚のあの麵はむだにすべきじゃなかった。)

4) “早知(道)”で導かれる節が反事実を表すことは、陈国华 1988:14-15 を参照。また“没有”、“不是”などに導かれる節がしばしば反事実を表すことは、蒋严 2000:271-272 を参照。ただし、蒋严 2000:271 はこの場合の“没有”、“不是”を“否定已然”(已然の否定)を示す語句としているが、まず“没有”については、2.2.2 節でも論じるが、節の命題全体の「非存在」を表すものとする。“不是”についても、節の命題全体を否定するものにとらえる(王春辉 2010b:63)。

(7) 没有 有庆 去 割草, 两头羊 就 得 饿死。(余华《活着》)

ない 有慶 行く 草を刈る 2 CL 羊 すぐ きっと…だ 餓死する

(草刈りに行く有慶がいなかったら、2匹の羊は飢え死にしなければならなかった。)

(8) 张耀祠 说: “不 是 为了 主席, 我 不 受 这 个 气。”(蒋严 2000:272)

張耀祠 言う NEG COP ~のために 主席 私 NEG 受ける これ CL 迫害

(張耀祠は言った。「主席のためでなければ、私はこんな苛めを受けてはいなかった」。)

このように、“早知(道)”、“没(有)”、“不是”など、特定の語句が前節の初頭に立つ場合は、接続詞無しで「反事実」の解釈ができる節となる。逆に言えば、それら特定の語句が節の初頭に無い場合は、条件文の接続詞が、反事実を明示するために必要になると考えられ、この言語事実からも、反事実条件文には典型的には接続詞が必要であるということが分かる。

ここで注目すべきは、実例を調査すると、“没(有)”で命題全体の非存在を表す反事実条件文にも、接続詞が用いられる例が見られることである。この種の条件文は、(7)のように、接続詞が無くても成立するが、なぜ実際に接続詞が用いられているのであろうか。本節では“没(有)”で命題の非存在を表す反事実条件文を分析し、如何なる場合に接続詞が用いられるのか、またその接続詞は如何なる機能を果たしているのかを考察したい。

まずこれまで述べたように、上記(7)をはじめ、前節の初頭に“没(有)”が付いて、前節の命題全体の非存在を表す反事実条件文は、接続詞が無くても文が成立する。

(7) 家里还养了两头羊, 全靠 有庆 割草 去 喂 它们。每天蒙蒙亮时, ……

全て 頼る 有慶 草を刈る 行く えさをやる それら

这孩子把镰刀扔在篮子里, 一只手提着, 一只手搓着眼睛跌跌撞撞走出屋门去割草, ……孩子在这个年纪是最睡不醒的, 可有什么办法呢? 没有 有庆 去 割草,

ない 有慶 行く 草を刈る

两头羊 就 得 饿死。

2 CL 羊 すぐ きっと…だ 餓死する

(家では羊を2匹飼育していたが、有慶が草を刈ってえさをやっていた。毎日空がまだぼんやり明るい時に、……その子がかまをかごに投げ入れ、片手に提げ、もう片手で目をこすりながらおぼつかない足取りで家を出て草刈りに行った。……子供は

その年頃が最も眠くて仕方がないが、でも何か方法があるだろうか。草刈りに行く有慶がいなかったら、2匹の羊は飢え死にしなきゃならなかった。)

- (9) 少校在台上说得很热闹，都不是他自己的话，……主要由林彪的话组成。……“林彪老师”开一代风气。没有他，那个时代会少许多热闹。

先生 開く 一時代 風潮 ない 彼 あれ CL時代 ~だろう 欠ける 多い にぎやかである

(王朔《看上去很美》)

(少校は壇上でけたたましく話したが全て自分の話ではなく、……主に林彪の話で構成されていた。……「林先生」は一時代の風潮を作った。彼がいなければ、あの時代は大きなにぎわいが欠けたことだろう。)

- (10) 我今天能当上饭店的客房科长，全凭这张纸。没有这张纸，不足以改变

これ CL 紙 ないこれ CL 紙 NEG 足りる 変える

我的身份。(苏叔阳《旋转餐厅》)

私 PART 身分

(私が今日ホテルの客室課長になれたのは、全てこの紙による。この紙が無ければ、私の身分を変えるには足りなかつただろう。)

まず、この種の条件文は、2.1 節で示した動詞句が“没(有)”で否定される(4)(5)のような文とは構造が異なる。例えば上記(5)では、“没”が動詞句の前に置かれ、「酒を飲みにあなを訪ねて行かなかった」などと、述語動詞が表す動作が否定されている。それに対して、ここで考察する(7)(9)(10)の条件文(下線部)では、“没(有)”が節の初頭に置かれ、節が表す命題全体の「非存在」が表されており、動詞句が否定されているのではない。まず(7)の条件文の前節では、“没(有)”が主述構造の前、即ち節の初頭に置かれ、動詞句“去割草”(草刈りに行く)という動作が否定されているのではなく、“有慶去割草”(有慶が草刈りに行く)という節の事態全体が存在しない、即ち命題自体の「非存在」が表されている。さらに、(9)(10)の条件文では、前節に名詞句(“他”、“这张纸”)があるのみで、それぞれ「彼が存在しない」((9))、「この紙が存在しない」((10))という「非存在」が表されている。

このような、節の初頭に“没(有)”が置かれ、ある事態や人・事物の非存在を表す節は、接続詞が無くても、反事実の条件として解釈され得る。しかしながら、この種の構文にも、

以下のように、接続詞が用いられる実例も見られる。

(11) 如果 没有 小梁子 在 宴会 开始 前 的 这 一 段 儿, 兴 许 崔 老 爷 子
ruguó ない 梁さん ~で 宴会 始まる 前 PART これ 1 くだり もしかしたら 崔じいさん
都 忍 了。(陈建功《要叉》)

~でさえ 我慢する SF

(もし梁さんの宴会開始前のそのくだりがなければ、もしかしたら崔じいさんだって我慢できたかもしれない。)

(12) 假若 没有 家 里 相 簿 中 的 那 些 照 片, 我 不 会 相 信 我
jiaruo ない 家 なか アルバム なか PART あれら 写真 私 NEG ~だろう 信じる 私
的 童 年 是 在 母 亲 身 边 度 过 的。(王朔《看上去很美》)

PART 子供時代 COP ~で 母 そば 過ごす PART

(もし家のアルバムのあれらの写真がなければ、僕は自分の子供時代が母のそばで過ごしたものであるということを信じないだろう。)

(11)(12)は“没(有)”で命題の非存在を表す反事実条件文である。このタイプの条件文は接続詞が無くても成立するはずであるが、ここでは接続詞が用いられており、かつ省略すると、文が不自然となる⁵⁾。(11)(12)にはなぜ接続詞が必要なのであろうか。

まず、(7)′(9)(10)のような、接続詞無しで成立する条件文に共通することは、それらの条件文が、段落の途中に用いられ、前節で示される事態や人・事物が実際には存在することが、同じ段落の直前に示されていることである。まず(7)′では、条件文の前節中の“有庆去割草”

⁵⁾ ただし、例えば(12)は、インフォーマントによると、以下のように、仮に後節に接続副詞“就”があれば、接続詞“假若”を省略しても、自然な文とされる。

没有 家 里 相 簿 中 的 那 些 照 片, 我 就 不 会 相 信 我 的
ない 家 なか アルバム なか PART あれら 写真 私 すぐ NEG ~だろう 信じる 私 PART
童 年 是 在 母 亲 身 边 度 过 的。

子供時代 COP ~で 母 そば 過ごす PART

このように、接続詞の使用条件は、接続副詞の有無とも関わるが、しかし本論で議論するのは、単文レベルでは、接続詞か接続副詞か、いずれかを用いることで成立する文が、談話レベルにおいて、実際にはなぜ接続詞の方が用いられるのかということである。

(有慶が草刈りに行く) という事態が、同じ段落の波線部で、実際にすでに実現している事態として述べられ、続く叙述でもその具体的様子が描写されている。そして、その直後の条件文前節において、“没有”でその事態の非存在が表されるのであるが、先行文脈に基づけば、それは事実と反する事態、即ち反事実の事態であることが明らかである。また(9)(10)も、条件文前節の人・事物が実在することが、それらと同じ段落の直前の(9)(10)の波線部で示されており、たとえ“没有”によってそれらの非存在を述べたとしても、それが反事実であることは明らかである。(7)′(9)(10)の条件文の初頭に“如果”など条件文の接続詞を挿入することは可能であるが、敢えて挿入しなくても、当該条件文の前節が、反事実の「仮定」の事態であることが、文脈上明らかであり、接続詞は特に必要とされないと考えられる。

それに対して、接続詞のある(11)(12)は、段落の冒頭に現れている⁶⁾。以下、文脈も含めて再掲する。

(11)′ (a) 宴会间里只剩下崔老爷子、季老爷子和小梁子。

“刚才，看见啦？”小梁子往崔老爷子面前凑了凑，
 さっき 見る COM SF 梁さん ~に向かって 崔じいさん 前 近づく ASP 近づく
 悄声 说，“四个看大门儿的，您还认识吗？”
 声をひそめて 言う 4 CL 見守る 表門 PART あなた まだ 覚えている MOD
 “不认识啊，怎么了？”
 …… (会話のやり取りが数回続く) ……

(b) 崔老爷子听了半天，也没听明白他说的到底是怎么回事。……

⁶⁾ 今回接続詞付きの“没(有)”で命題の非存在を表す反事実条件文を3例検出し、そのうち2例が段落冒頭に現れている。残りの1例は、以下のように文の途中で現れている。

实话跟您说，来了那么一下扫蝗腿，还是扶着棵树来的呢，要没那棵树
 支える ASP CL 木 やる PART yao ない あれ CL 木
 搂着，那小子都栽不了，…… (陈建功《要叉》)
 抱える ASP あれ 野郎 全部 倒れる NEG COM
 (実を言うと、足ばらいをやったのは、木に寄りかかったのことで、もしあの木が抱えてくれることがなければ、あの野郎は倒れなかった。)

ただし、この条件文は、(11)(12)とは異なり、仮に接続詞“要”を省略しても、インフォーマントには自然な文と認識される。その理由は、(9)などと同様に、前節の事態が実際には実現していることが、同じ文の直前(波線部)に示されており、“没”でそれを「非存在」とすることは、反事実であることが明らかであるからだと考えられる。

(c) 如果没有小梁子在宴会开始前的这一段儿，兴许崔老爷子
ruguo ない 梁さん ~で 宴会 始まる 前 PART これ 1 くだり もしかしたら 崔じいさん
都 忍了。(陈建功《要义》)

~でさえ 我慢する SF

((a) : 宴会の広間には崔じいさん、季じいさん、梁さんだけが残った。

「さっき、見ましたか？」梁さんは崔じいさんの前に近づき、声をひそめて言った。

「4人の表門の番人、まだ覚えていますか？」

「覚えていないよ。どうしたの？」)

……………

(b) : 崔じいさんはよくよく聞いたが、彼が言っているのは一体何のことか分からなかった。……

(c) : もし梁さんの宴会開始前のそのくだりがなければ、もしかしたら崔じいさん
だって我慢できたかもしれない。)

(12) (a) 据说我是个大头孩子。大到什么程度呢？有照片
~だそうだ 私 COP CL 大きい 頭 子供 大きい 達する 何 程度 MOD ある 写真
为 证，头和身子的比例：……

~とする 証拠

…… (3段落省略) ……

(b) 假若没有家里相簿中的那些照片，我不会相信
jiaruo ない 家 なか アルバム なか PART あれら 写真 私 NEG ~だろう 信じる
我的童年是在母亲身边度过的。我的记忆中没有她。……

私 PART 子供時代 COP ~で 母 そば 過ごす PART

(c) 从照片上看，母亲是个时髦、漂亮、笑起来门牙
~から 写真 表面 見る 母 COP CL モダンである きれい 笑う COM COM 前歯
闪闪发亮的年轻女人。凡跟我的合影也一副很
有爱心的样子，总在抢着抱我。(王朔《看上去很美》)

ある 愛情 PART 様子 いつも PRG 先を争う ASP 抱く 私

((a) : 僕は頭が大きい子供だったらしい。大きさがどのくらいだったか？証明する写
真がある。頭と体の割合は、……

……………

(b) : もし家のアルバムのあれらの写真がなければ、僕は自分の子供時代が母のそばで過ごしたものであるということを信じないだろう。僕の記憶に彼女はいない。……

(c) : 写真で見ると、母はモダンで、きれいで、笑うと前歯がきらきらした若い女性である。いつも僕との写真では愛情溢れる様子で、いつも奪うように僕を抱いている。)

まず、(11)'下線部の条件文前節の“小梁子在宴会开始前的这一段儿”(梁さんの宴会開始前のそのくだり)は、先行文脈の2段落前の段落(a)の波線で示した梁さんの発話以降、しばらく続く梁さんの発話を指している。続く段落(b)では、崔じいさんがその話を理解できないことなどが述べられている。そして、次の段落(c)の冒頭で、条件文が用いられ、2段落前に示された「梁さんの宴会開始前のそのくだり」の「非存在」が反事実として述べられている。次に、(12)'では、下線部の条件文前節の“家里相簿中的那些照片”(家のアルバムのあれらの写真)について、先行文脈では、4段落前の点線部で子供の時の写真があることが言及されているだけで、「家のアルバム」の写真という言及は無い。特に条件文後節で述べられる母親のそばで過ごしたことが分かる写真については、むしろ条件文の後の段落(c)の波線部で初めて説明されるのである。

これらのことは、上記(7)'(9)(10)のように、条件文前節中の事態や人・事物が実際に存在することが、直前の文脈で示されていることと大きく異なる。(11)'の条件文の前節で述べられる事態が実際に存在することは、2段落前に述べられている。さらに(12)'の条件文の前節で述べられる事物は、先行文脈では、実在することが明示されていない。したがって、(11)'(12)'のような文脈で条件文が導入され、実際に存在する事態や事物が“没(有)”で「非存在」とされることは、聞き手(小説等の読み手も含む)にとっては唐突であり、瞬時にはそれが反事実であると認識し難いと考えられる。それゆえ、条件文の接続詞が用いられ、前節があくまで反事実の「仮定」の事態であることを明示する必要があると考えられるのである。

このように、文法的には接続詞が不要な、“没(有)”で事態や事物の非存在を表す反事実条件文が、反事実の「仮定」を明示するために、接続詞を必要とする場合があるという事実は、条件文の接続詞が、単に構文的意味として「仮定」を表すために用いられるだけでなく、談話の中で、語用論的に用いられるべき場合があり、語用論的な機能も担っている

ことを示唆している。これまで、“如果”、“要是”といった条件文の接続詞については、“表示假设”（仮定を表す [吕叔湘主编 1999:469、594]）などという意味の記述のみにとどまっている。しかし、以上のような言語事実に鑑みれば、条件文の接続詞は、文単位よりさらに広い談話において、何らかの機能を果たす場合があることが分かる。したがって、条件文の接続詞の使用条件を明らかにするには、接続詞の談話における機能、即ち談話機能も分析する必要があると考えられるのである⁷⁾。

次節では、接続詞が一般に用いられていないタイプの条件文を考察する。ただし、そのような、文法上は接続詞を必要としないタイプの条件文にも、実例を観察すると、接続詞が用いられている例も見られる。次節ではそれらがなぜ用いられるのかについても、談話文法の観点から分析し、それらの機能を明らかにしたい。

2.3. 接続詞が用いられない条件文

2.3.1. 実現が前提とされている事態を表す条件文の場合

本節では、接続詞が用いられない条件文を、文が表す事態の特徴により分類して考察する。まず、実現することが前提とされている事態を前節が表している条件文には、接続詞は用いられない。

(13) 她说我：“……苦根 长大了 会 和有庆一样 对你 好，……。”

苦根 成長する ASP ~だろう ~と 有慶 同じ ~に対して あなた よい

(余华《活着》)

(彼女は僕に言った。「……苦根が大きくなったら、有慶と同じくあなたによくする
だろう。……」)

(14) 他让她坐上转椅，推得她飞转，……：“再见！到 了 就 来 信。”

着く ASP すぐ よこす 手紙

(王朔《看上去很美》)

⁷⁾ 中国語の接続詞の談話機能については、方梅 2000 で先駆的研究がなされている。しかしそれによると、接続詞が“语义弱化”（意味の希薄化）して、談話機能を担い得るのは、主に複文の後節に用いる接続詞で、さらに“如果”で“语义弱化”している用例は見られないということである（方梅 2000:462、468）。

(彼は彼女を回転いすに乗せ、押すと彼女は素早く回った。……「さようなら。着いたら手紙をちょうだい。」)

(13)の下線部の条件文では、話し手は前節の“苦根长大了”(苦根が大きくなる)という事態を、将来実現することが自明のこととして前提とされていると認識した上で、後節の“会和有庆一样对你好”(有慶と同じくあなたによくするだろう)という事態を推測している。(14)の下線部の条件文でも、話し手は前節の“到了”(着く)という事態を実現前提の事態として、後節の“来信”(手紙をちょうだい)という依頼をしている。このような実現することが自明のこととして前提とされている事態を前節が表している条件文には、接続詞は用いられない。

2.3.2. パタン化した事態を表す条件文の場合

次に、現実ですでに同様の事態が反復して起こっていることを表す条件文、言い換えると、一種のパタンとして実現している事態を表す条件文には、一般に接続詞が用いられない⁸⁾。本論ではそのような事態を、便宜的に「パタン化した事態」と呼ぶ。

(15) 四十多年前，我爹常在这里走来走去，……

我爹走在自己的田产上，干活 的 佃户 见 了，都 要 双手 握 住

働く PART 小作人 見る ASP みな 必ず～する 両手 握る COM

锄头 恭敬 地 叫 一声：“老爷。”（余华《活着》）

鋤 うやうやしい PART 呼ぶ 一声 旦那さま

(40年余り前、私の父はいつもそこで行き来していた。……)

私の父が自分の田畑を歩いていて、働いている小作人が見かけると、みな両手で鋤を握りしめ、うやうやしく一声呼びかけたものだ、「旦那さま」と。)

(16) 每天仰着脸独出独入凡人不理，跟阿姨说话也是歪着头，眺望远方。谁 手 里

誰 手 なか

拿 着 什么 我 看 上 的 东西，走 过 去 一 言 不 发 劈 手

⁸⁾ 脚注2に挙げた小説から、パタン化した事態を表す条件文を101例検出し、そのうち接続詞が用いられていないのは94例で、大多数の例で接続詞が用いられていない。

持つ ASP 何か 私 見る COM PART もの 行く COM COM 一言 NEG 発する 素早く
夺 来，……。 (王朔《看上去很美》)

奪う COM

(毎日顔を上に向けて一人で出入りし誰も構うことなく、先生と話す時も頭を傾けて、遠くを眺めていた。何か自分が目をつけたものを誰かが手に持っていたら、寄って行って一言も発しないで、素早く奪う。)

このようなパタン化した事態は、話し手が現実にすでに実現していることを認識している事態であり、条件文の接続詞を用いて、「仮定」の事態として示される必要がなく、したがって、一般に接続詞が用いられていないと考えられる。

なお、仮に(15)(16)の条件文に、以下のように、接続詞“要是”を加えても非文にはならず、パタン化した事態を表すという意味も変わらない。

(15) 要是 干活 的 佃户 见 了，都 要 双手 握 住 锄头 恭敬

yaoshi 働く PART 小作人 見る ASP みな 必ず~する 両手 握る COM 鋤 うやうやしい
地 叫 一声：“老爷。”

PART 呼ぶ 一声 旦那さま

(16) 要是 谁 手里 拿着 什么 我 看 上 的 东西，走 过 去 一 言

yaoshi 誰 手 なか 持つ ASP 何か 私 見る COM PART もの 行く COM COM 一言
不 发 劈手 夺 来，

NEG 発する 素早く 奪う COM

実際にも以下のように、この種の条件文に接続詞が用いられる用例もわずかではあるが見られる。

(17) 要是 驰 过 一 辆 车头 带 奔鹿 标志 的 老 “伏尔加”

yaoshi 速く走る 過ぎる 1 CL 車の先頭 帯びる 走る 鹿 マーク PART 古い ボルガ

就 像 见 了 宝 一样， 欢呼 声 久久 难以 平息：……

すぐ ~のようだ 見る ASP 宝物 ~のような 歓呼する 声 長い間 ~しにくい 収まる

(王朔《看上去很美》)

(もし車の先端に走る鹿のマークがついた古い「ボルガ (VOLGA)」が走り過ぎると、まるで宝物を見たかのように、歓声が長いこと収まらなくなる。)

(17)はパタン化した事態を表す条件文であるが、接続詞“要是”が用いられている。パタン化した事態を表す条件文は一般に接続詞を必要としないが、なぜこの(17)では必要とされるのであろうか。これを明らかにするために、以下に(17)の文脈も含めて挙げて分析する。

(17) 天 好, 阿姨 就 带 我们 去 街上 看 车。……走到复兴路上, 小朋友们

天气 よい 先生 すぐ 率いる 私たち 行く 街中 見る 車

面向马路排成两行, ……(a) 驶 过 一 辆 汽车 就 拍手 雀跃,

速く走る 過ぎる 1 CL 車 すぐ 拍手する 小躍りする

齐声 欢 唱: ……

声を揃えて 楽しい 歌う

(b) 要是 驰 过 一 辆 车头 带 奔鹿 标志 的 老 “伏尔加”

yaoshi 速く走る 過ぎる 1 CL 車の先頭 帯びる 走る 鹿 マーク PART 古い ボルガ

就 像 见 了 宝 一样, 欢呼 声 久久 难以 平息: ……

すぐ ~のようだ 見る ASP 宝物 ~のような 歓呼する 声 長い間 ~しにくい 収まる

(王朔《看上去很美》)

(天气がよいと、先生は僕たちを連れて街に車を見に行く。……復興路まで行くと、

園児たちは大通りに向かって二列に並び、……(a) : 一台の車が通り過ぎると、拍手して小躍りし、声を揃えて楽しく歌う。……

(b) : もし車の先端に走る鹿のマークがついた古い「ボルガ (VOLGA)」が走り過ぎると、まるで宝物を見たかのように、歓声が長いこと収まらなくなる。

(17)'の談話の前提：先生は習慣的に園児たちを車を見に連れて行く（波線部）。

(17a)'：園児たちが車を見た時の反応の描写。

(17b)'：園児たちが車の中でも特別な「ボルガ」を見た時の反応の描写。⇒接続詞。

(17)'では、(a)(b)二つの条件文が現れている。まず(17a)'は前節の「車が通り過ぎる」という事態が、聞き手にとって波線で示した前提、即ち「先生は習慣的に園児たちを車を見

に連れて行く」から予測可能であり、文全体は前提の具体的描写となっている。一方、(17b)は前節の「ボルガが走り過ぎる」という事態が、前提よりも特化された、聞き手が予測し難い事態であり、文全体はその予測し難い事態のもとで起こるパタンの描写となっており、この(17b)の方には接続詞“要是”が用いられている。つまり、“驶过一辆汽车”と“拍手雀跃，齐声欢唱”の間には「条件」と「帰結」の関係があり、“驰过一辆车头带奔鹿标志的老“伏尔加””と“像见了宝一样，欢呼声久久难以平息”の間にも「条件」と「帰結」の関係があり、客観的な事実としては、ともに「条件」と「帰結」の関係で捉えられているはずの二つの出来事の叙述が、接続詞の有無を異にしており、先行文脈が示す前提から予測することが容易な事態を叙述している前者では接続詞が用いられず、先行文脈が示す前提から予測することが困難な事態を叙述している後者では接続詞が用いられているということである。

次の(18)も同じようなタイプの例である。

(18) 方枪枪 不知不觉 模仿 陈南燕, 从 模仿 她的 姿势 到 成为

方槍槍 知らず知らず 真似る 陳南燕 ～から 真似る 彼女 PART 姿勢 ～まで なる

她 的 应声虫。……(a)陈南燕 说 “我 掐 他 脖子”、“我 搬 了 椅子”、

彼女 PART お追従を言う人 陳南燕 言う 私 つねる 彼 首 私 運ぶ ASP いす

方枪枪 也 说 “我 掐 他 脖子”、“我 搬 了 椅子”。

方槍槍 ～も 言う 私 つねる 彼 首 私 運ぶ ASP いす

……

(b)阿姨 若 用 陈南燕 的 名字 代替 人称指谓 问 他：“是 不 是 陈南燕

先生 ruo ～で 陳南燕 PART 名前 代える 人称代名詞 尋ねる 彼 COP NEG COP 陳南燕

搬 的 椅子?” 他 就 能 明白 回答：“是。” (王朔《看上去很美》)

運ぶ PART いす 彼 すぐ ～できる はっきり 答える そうだ

(方槍槍は知らず知らず陳南燕を真似た。彼女の姿勢のまねから彼女の言葉を真似るようになった。……(a)：陳南燕が「私が彼の首をつねったの」、「私がいすを動かしたの」と言うと、方槍槍も「私が彼の首をつねったの」、「私がいすを動かしたの」と言う。

……

(b)：先生がもし人称代名詞を陳南燕の名前に代えて、「陳南燕がいすを動かしたん

でしょ？」と彼に尋ねると、彼は「そうだよ。」とはっきり答えられる。

(18)の談話の前提：方槍槍は陳南燕の姿勢から言葉まで真似をする（波線部）。

(18a)：方槍槍が陳南燕の真似をする具体的描写。

(18b)：方槍槍が陳南燕の真似をしない様子の描写。⇒接続詞。

(18a)はまず前節の「陳南燕が何らかの発話をする」という事態が、聞き手にとって波線で示した前提、即ち「方槍槍は陳南燕の姿勢から言葉まで真似をする」から予測可能であり、文全体は前提の具体的描写となっている。一方、(18b)は前節の「先生が質問の言い方を変えて尋ねる」という事態が、聞き手にとって前提から予測し難い事態であり、文全体は前提と異なる新たなパタンの描写となっており、この(18b)の方には接続詞“若”が用いられている。

以上のように、接続詞は、聞き手にとって談話上の前提からは予測し難い事態のパタンが談話に導入される際に用いられるという傾向が観察される⁹⁾。聞き手にとって、予測し難いパタンの導入は、瞬時には受け入れ難い。そのため話し手は、接続詞を用いて条件文前節の事態を有標化し、聞き手が予測し難い新たな「条件」が談話に導入されることを、聞き手に対して喚起していると考えられる。前述の如く、パタン化した事態を表す条件文は、「仮定」の事態として示される必要がなく、一般に接続詞を必要としない。したがって、

⁹⁾ (17)(18)をみると、それぞれ(a)より(b)の条件文が、現実世界（ここでは小説の世界）において、より実現し難い事態であり、一見すると、現実における実現性が低い、即ち「仮定」の度合いが高い事態に、接続詞が用いられるように見受けられる。しかし、他の例を見ると、接続詞は必ずしもそのような事態に用いられるわけではない。

崔老爷子是个好开心的人，如果 是 平时，即便是 来来往往 中 的 客气话 吧，
ruguo COP 普段 たとえ COP 交際する 中 PART 挨拶 MOD

他 也 好 和 人家 逗 两句。
彼 ~でも よく~する ~と 他人 からかう 二言三言
……

可 今儿，没 话。 （陈建功《要叉》）

でも 今日 ない 話

(崔じいさんは面白い人で、もし普段なら、たとえつきあい上の挨拶でも、彼はよく人に二言三言冗談を言う。

でも今日は口を開かない。)

この例の条件文（下線部）では、崔じいさんの「普段」の様子が描写されており、ここではむしろ現実における実現性が高い事態を表す条件文に、接続詞が用いられている。ゆえに、このタイプの条件文に接続詞が付く言語現象は、実現性の程度、即ち接続詞が本来持つ「仮定」という意味の度合いだけからでは説明できず、聞き手が談話上の前提から事態の実現が予測可能か否かという点からの説明が必要なのである。

それにも関わらず用いられるこのような接続詞は、「前節の事態が仮に起こる場合」という本来の「假定」の意味を際立たせ、それとともに、談話において条件節自体の導入を喚起するという談話マーカ (discourse marker) としての機能を担っていると考えられる。本論では、この種の条件文の接続詞の機能を〈条件導入喚起〉機能と呼ぶ。

したがって、たとえ複数の条件文が対比されていても、〈条件導入喚起〉が必要でない場合は、接続詞が用いられない。次の(19a)(19b)二つの条件文は、ともに語り手が「南へ向かう」際に経験した事態であり、列挙すれば事足りることであり、(b)の前節で条件節の導入を特に喚起する必要はない。このような場合には接続詞は用いられない。

(19) 我一路急匆匆往南走, (a) 饿 了 就 用 解放军 给 的 盘缠 买 个

お腹がすく ASP すぐ ~で 解放軍 くれる PART 旅費 買う CL

烧饼 吃 下 去, (b)困 了 就 找 个 平整 一点 地方 睡

シャオピン 食べる COM COM 眠い ASP すぐ 探す CL 平らである 少し 場所 寝る

一 觉。(余华《活着》)

ちょっと 寝る

(私は一路急いで南に向かった。(a) : お腹がすいたら、解放軍がくれた旅費を使って
シャオピンを買って食べ、(b) : 眠くなったら、平らなところを探して眠った。)

ではなぜ条件文の接続詞が〈条件導入喚起〉機能を担い得るのだろうか。本論第一章では、習慣的事態などパタン化した事態を表す接続詞付きの条件文前節は、現実には起こっている複数の事態の中から、後節の成立を引き起こす1つの〈場合〉としての事態を選択的に提示する働きをもつとし、これを条件文前節の〈条件選択〉と呼んでいる。上記(18)を例にとれば、そこでは、まず(a)の前節で前提に基づいて現実に起こる1つの事態が示され、続く(b)の前節では接続詞が用いられ、前提から予測し難い別の事態も1つの〈場合〉として現実に起こることが有標的に〈条件選択〉されている。接続詞を用いなければ、(19)のように、現実に起こる様々な事態を、ただ並列列挙するだけの文となる。

このように、話し手が、前節に接続詞を用いることによって〈条件選択〉を行い、後節でその条件のもとに起こる事態を示すということは、つまりは、前節で提示される事態が、それ以前の談話の流れとは異なる新たな事態として改めて選択し直されたものであるということを示すということである。言い換えれば、それは、語られる事態がそれ以前の

談話の流れとは異なるという認識を話し手が持つということでもある。まさにこの話し手自身の認識が動機づけとなり、接続詞の意味拡張を促し、〈条件導入喚起〉を担う談話マーカーとしての機能をもたらしたと考えられる。このように、〈条件選択〉される条件文の接続詞は、前節で表される事態が、聞き手にとって予測し難い事態の場合、〈条件導入喚起〉の談話機能を有する。

ただし、〈条件選択性〉を有する条件文に用いられる接続詞が常に〈条件導入喚起〉の談話機能を有するわけではない。次の(20)の条件文の接続詞“倘”には〈条件導入喚起〉機能を見いだせない。

- (20) 大概 是 要 培养 小孩 定时 排便 的 良好 习惯, 保育院
おそらく COP ~したい 育成する 子供 定時に 排便する PART 良好である 習慣 幼稚園
的 厕所 像 藏 有 珍品 的 博物馆 定点儿
PART トイレ ~のようである 収蔵する ある 貴重な物 PART 博物館 時間が決まっている
开放, 倘 屎 尿 不 能 如约 而 至, 对不起 只 能
公開する tang 大便 小便 NEG ~できる 約束通り CON 至る 申し訳ない ~だけ ~できる
自己 保管 在 直肠 或 裤档 里。
自分 保管する ~に 直腸 或いは ズボン なか

(おそらく子供が決まった時間に排便する良好な習慣を育成するべく、幼稚園のトイレは、珍しいものを収蔵する博物館のように定時に公開される。もし大便、小便が約束通りに至れないと、申し訳ないが自分で直腸やズボンの股上に保管するほかない。)

(20)では、波線部「おそらく子供が決まった時間に排便する良好な習慣を育成するべく、幼稚園のトイレは、珍しいものを収蔵する博物館のように定時に公開される」という、子供にトイレに行く良い習慣を育成しているという談話の前提があり、子供たちにはトイレの良好な習慣もあればそうではない習慣もあることが文脈から読み取れる。続く接続詞のある条件文(下線部)の前節では、その二つの習慣の中で、良好ではない習慣を表す事態が〈条件選択〉されている。しかしながら、談話の前提に基づけば、良好ではない習慣が存在することは、聞き手にとって予測し難い事態とは言えず、この例の接続詞に〈条件導入喚起〉機能を見いだすことはできない。

今回、脚注 2 に挙げた四つの用例出典から、このタイプの条件文で接続詞が用いられている用例を 7 例検出したが、その中で 3 例の接続詞から〈条件導入喚起〉機能を見いだせた。

2.3.3. 原理原則を表す条件文の場合

次に、ある種の原理原則を表す条件文にも、一般に接続詞が用いられない¹⁰。

(21) 其实我也不知道，我想当上了兵就逃不了要

なる COM ASP 兵隊 すぐ 逃げる NEG COM ~するものだ

打仗。(余华《活着》)

戦をする

(実は私も知らなかったが、私は兵隊になったら、戦をするのは避けられないと思った。)

(22) 我说人死了就要被埋掉，活着的人就再也见不到他了。

人 死ぬ ASP すぐ ~するものだ ~される 埋める COM

(余华《活着》)

(私は、人は死んだら埋められる、生きている人はもう彼には会えないと言った。)

このような原理原則を表す条件文（下線部）は、現実には慣習的に実現していて、今後も必ず実現すると話し手が認識する事態であり、接続詞を用いて「仮定」として示される必要がなく、したがって、一般に接続詞が用いられないと考えられる。

ただし、仮に(21)(22)の条件文に、以下のように、接続詞を加えても非文にはならず、原理原則を表す意味も変わらない。

(21)' 要是当上了兵就逃不了要打仗。

yaoshi なる COM ASP 兵隊 すぐ 逃げる NEG COM ~するものだ 戦をする

¹⁰ 脚注 2 に挙げた小説から原理原則を表す条件文を 48 例検出し、接続詞が用いられていないのは 42 例で、大多数の例で接続詞が用いられていない。

(22) 要是人死了就要被埋掉,

yaoshi 人 死ぬ ASP すぐ ~するものだ ~される 埋める COM

実際に、原理原則を表す条件文に接続詞が用いられる用例も見られる。

(23) 人 的 自 在 总 是 和 别 人 相 关 。 人 在 人 群 里 活 着 。 人 要 是

人 PART 自在 常に ~と 他人 関わる 人 ~で 人間集団 なか 生きる ASP 人 yaoshi

只 跟 自 己 作 伴 儿 ， 从 生 到 死 ， 那 他 是 非 人 ， 假 人 ，

ただ ~と 自己 付き添う ~から 生まれる ~まで 死ぬ それなら 彼 COP 非人間 仮人間

生 物 人 ， 或 说 “ 伪 人 ” 。 (苏 叔 阳 《 旋 转 餐 厅 》)

生物人間 或いは 言う 偽人

(人 間 の 自 在 は 常 に 他 人 と 関 わ る 。 人 は 人 間 集 団 の 中 で 生 き て い る 。 人 間 が も し 自 己

と の み 付 き 合 っ た ら 、 生 ま れ て か ら 死 ぬ ま で 、 そ の 人 は 非 人 間 、 仮 人 間 、 生 物 人 間 、

或 是 「 偽 人 」 で 有 る 。)

(23)では、波線部「人間の自在は常に他人と関わる」が談話の前提となり、続く点線部「人間は人間集団の中で生きている」がその具体的説明となっている。一方、続く接続詞でマークされた条件文前節には、「人間が自己とのみ付き合う」という前提に反する、聞き手にとって予測し難い事態が示されている。したがって、原理原則を表すこの例の接続詞からも、上述の〈条件導入喚起〉機能を見いだせる。今回、脚注2の小説から検出した接続詞付きの原理原則を表す条件文6例のうち、4例の接続詞から〈条件導入喚起〉機能を見いだせた。次の同タイプの条件文の例の接続詞は、〈条件導入喚起〉機能は見られず、条件節の始まりを明示するために用いられていると考えられる。

(24) 我担心地是她别变得满不在乎而朝秦暮楚。爱情的溪水再多，要是总漫

yaoshi 常に あふれ出る

出 堤 岸 ， 也 会 干 涸 ， 被 沙 漠 吞 噬 变 成 干 枯 的

出る 堤防 ~も ~だろう 干上がる ~される 砂漠 丸飲みにする 変わる 干上がる PART

河 床 。 (苏 叔 阳 《 旋 转 餐 厅 》)

河床

(私が心配しているのは、彼女が少しも気にかげず、節操が無くなってしまふことである。愛情の溪水がさらに多くなり、もし常に堤防からあふれ出すと、干上がりもして、砂漠に飲み込まれ、干からびた河床に変わる。)

(24)の条件文(下線部)から、接続詞“要是”を省略すると、条件文の前節が、同じ文の直前の“爱情的溪水再多”(愛情の溪水がさらに多くなり)から始まるという解釈も成立する。したがって、ここでは節の区切りを明示する必要があるため、接続詞が用いられていると考えられる。

このタイプの条件文、及び2.3.2節で論じたパターン化した事態を表す条件文において、このほかに如何なる接続詞の使用条件があるのかは、今後の課題としたい。

2.4. 接続詞の使用が分かれる条件文

最後に、接続詞の使用が分かれる条件文を考察する。それは、前節が実現不確定な事態を表す条件文である。ここでいう「実現不確定な事態」とは、その事態が現実はまだ実現しておらず、また実現可能性の程度に差はあるものの、少なくとも実現不可能ではない事態である。

(25) 春生爬出了坑道，我没拦他，反正到不了中午我们都得死，(a)他要是真

彼 yaoshi 本当に

吃到大饼那就太好了。……这孩子走了几步还回过头来
食べる COM ターピン それなら すぐ とても よい SF

对我说：“你别走开，(b)我找着了大饼就回来。”(余华《活着》)

私 探す COM ASP ターピン すぐ 帰る 来る

(春生は地下壕をはい出た。私は彼を止めなかった。いずれにせよ昼になる前に私たちは死ぬだろう。(a)：彼がもし本当にターピンにありつけたら、とてもよいことだ。……その若者は何歩か進むと振り返って私に言った。「あなたは離れないで下さい。(b)：僕はターピンを見つけたら戻ってきます。)

(25a)(25b)二つの条件文はともに前節が実現不確定な事態を表しているが、接続詞が(a)

では用いられ、(b)では用いられていない。まず(a)の語り手は、前節の「春生がターピンにありつく」ことを困難と認識しており、そこで、接続詞を用いて、その事態があくまで「仮定」であることを明示していると考えられる。一方、(b)は、話し手がターピンを探す春生自身で、前節の「ターピンを見つける」という事態を実現しようとする春生の意志が読み取れる。この文には接続詞が無い。ここでは話し手の前節の実現可能性に対する認識により、接続詞が一方で使用され、一方で使用されないと考えられる。

本章の冒頭に示した(1)の条件文も実現不確定な事態を表す。以下に再掲する。

(26) (=1) 我指着方超控诉：“他还不去呢。他不去我就不去。”

彼 まだ NEG 行く MOD 彼 NEG 行く 私 すぐ NEG 行く

(26)条件文の話し手は、波線部「彼はまだ行っていない」という発言から分かるように、前節の「彼が行かない」という事態を、実現性が高いと認識していると解釈でき、ゆえに条件文に接続詞が用いられていないと考えられる。したがって、この例も話し手の実現可能性に対する認識が、接続詞を用いるか否かに関わっていると考えられる。

このように、実現不確定な事態を表す条件文に、接続詞を用いるか否かは、話し手の前節の実現可能性に対する認識が一つの決定要素になると考えられる。

2.5. まとめ

本章では、中国語の条件文に用いられる接続詞が、如何なる場合に用いられるのか、或いは用いられないのかを、文が表す事態の特徴により分類して示した。条件文における接続詞の使用の可否には、話し手の事態の実現可能性に対する認識が関わると考えられる。一般に、反事実など、実現性が低いと認識される事態には接続詞が用いられ、逆に、実現前提、パタン化した事態、原理原則など、事態の実現性が高いと認識される事態には接続詞が用いられない。

ただし、実現性の高い条件文にも接続詞が用いられる場合があり、それらの文の接続詞の一部は談話において条件節の導入を喚起するという〈条件導入喚起〉の談話機能を担っている。

第三章 限定選択構文が表す事態と表現機能¹⁾

3.1. はじめに

中国語の選択複文の中には、次の(1)(2)のように、“要么 A 要么 B”や“不是 A 就是 B”などの形式で、“非此即彼”(これかあれかどちらかだ)、即ち、「A か B のどちらかだ」という意味を表す構文があり、邢福义 2001:242-265 は“限选句式”(限定選択構文)と称している²⁾。

(1) 他 肯定 会 提升: 要么 当 主任, 要么 当 处长。(邢福义 2001:258)

彼 きっと ~だろう 昇進する yaome なる 主任 yaome なる 処長

(2) 他 肯定 会 提升: 不是 当 主任, 就是 当 处长。(邢福义 2001:258)

彼 きっと ~だろう 昇進する bushi なる 主任 jiushi なる 処長

(彼はきっと昇進する。主任になるか処長になるかのどちらかだ。)

これらの形式に加えて、“要不 A 要不 B”も、次の(3)のように、「A か B のどちらかだ」を表し、限定選択構文に含まれると考えられる³⁾。

(3) 今天 的 会 得 去 一 个人, 要不 你 去, 要不 我去。

今日 PART 会合 ~しなければならない 行く 1 CL 人 yaobu あなた 行く yaobu 私 行く

(『现代汉语词典』第7版:1525)

(今日の会合は一人出なければならない。あなたが行くか、私が行くかだ。)

これらの構文は、「A か B のどちらかだ」を表すという点では類義の構文であり、例えば、次の(4)では、“不是 A 就是 B”と“要么 A 要么 B”が一つの文の中で同じ意味として連続で用いられている。

¹⁾ 本章は長谷川 2018 を加筆修正したものである。

²⁾ 邢福义 2001:242-265 は、邢福义 1987 を加筆したものであるが、本論では邢福义 2001 を参照した。

³⁾ 邢福义 2001 では、“要不 A 要不 B”を“限选句式”とは明確には述べていないが、“要么 A 要么 B”や“不是 A 就是 B”との相違を論じており、“要不 A 要不 B”も「A か B のどちらかだ」という意味を表す形式であることから、限定選択構文の一つと見なすことができる。

- (4) 每天 晚上 不是 去 品尝 生猛 海鲜, 就是 去 享受 法式大餐, 要么 吃
 毎日夜 bushi 行く 味わう 生きのよい 海鮮 jiushi 行く 楽しむ フレンチ yaome 食べる
辣 得 哇哇 叫 的 重庆毛肚火锅, 要么 吃 淡 得 毫无
 辛い PART わあわあ 叫ぶ PART 重慶毛肚火鍋 yaome 食べる 薄い PART 少しも～ない
意趣 却 昂贵 得 惊人 的 日本料理, 还有韩国烧烤, 印度抓饭,
 味わい かえって 非常に高い PART 驚くべき PART 日本料理
 爪哇鸡杂, …… (CCL)
 (每晚、生きのよい海鮮を味わうか、フレンチを楽しむか、辛い辛いと声が出る重慶
毛肚火鍋を食べるか、味が薄くて少しも味わいがないが値段が高くて驚く日本料理
を食べるか。または韓国焼肉、インドの混ぜご飯、ジャワ鶏のもつ、……)

しかしながら、これらの構文は、互いに自由に置き換えられるというわけではない。例
 えば、次の(5)の“不是 A 就是 B”の例を(5)’のように“要不 A 要不 B”に置き換えると不
 自然になる。

- (5) 大卫有时从菜场一头走到另一头, 竹篮仍空着, **不是 菜 太 贵, 就是 菜**
 bushi 野菜 ～すぎる 高い jiushi 野菜
 太 糟, 或是一些菜他不认识。(CCL)
 ～すぎる ひどい
 (大衛は時々野菜市場の端から端まで歩いて、竹かごが空のまま。野菜が高すぎ
 るか、ひどすぎるか、或いはいくつかの野菜を彼は知らないかである。)
 (5)’ *大卫有时从菜场一头走到另一头, 竹篮仍空着, **要不 菜 太 贵, 要不 菜**
 yaobu 野菜 ～すぎる 高い yaobu 野菜
 太 糟, 或是一些菜他不认识。
 ～すぎる ひどい

このように、これらの構文は類義ではあるが、それぞれが表すことができる事態が異な
 るようである。邢福义 2001:242-265 では、これらの構文が“意欲性选择”(意欲的選択)
 を表すか、或いは“析实性选择”(事実分析的選択)を表すかという点で相違があることを

論じている。この指摘は各限定選択構文が表す事態の相違を論じた唯一の指摘で、特筆すべきものであるが、その二つの「選択」が具体的にどのような事態を指すのか説明が不明確な部分があり、また後述するが、コーパスには、邢福义 2001:242-265 に当てはまらない例も見られる。本章では、邢福义 2001:242-265 やコーパスの用例に基づきながら、各限定選択構文が表す事態の特徴を改めて考察する。さらに、各構文の表現機能の特性についても明らかにする。なお、調査コーパスとしては、《CCL 現代汉语语料庫》と《BCC 语料庫》を用いた。“要么 A 要么 B”と“不是 A 就是 B”については、無作為に 200 例ずつ検出して考察を行った。一方、“要不 A 要不 B”については用例が少ないため、無作為に 50 例検出して考察を行った。

3.2. 限定選択構文の構造

各限定選択構文が表す事態の特徴を示す前に、まず各構文の選択項の構造的な特徴についてまとめる。“要么 A 要么 B”と“不是 A 就是 B”については、邢福义 2001 などに示されているが、“要不 A 要不 B”については先行研究が見られないので、实例に基づいて示す。

まず、“不是 A 就是 B”の選択項には、主述句、動詞句などの述詞性構造のほか、さらに名詞句を置くことができる。

(6) 不是 你 去, 就是 我 去。(吕叔湘主编 1999:91)

bushi あなた 行く jiushi 私 行く

(君が行くのでなければ、僕が行く。)

(7) 我 不是 当 编辑, 就是 当 记者。(邢福义 2001:259)

私 bushi なる 編集者 jiushi なる 記者

(私は編集者になるか、記者になるかのどちらかだ。)

(8) 他 不是 编辑, 就是 记者。(邢福义 2001:259)

彼 bushi 編集者 jiushi 記者

(彼は編集者であるか、記者であるかのどちらかだ。)

(6)(7)は選択項にそれぞれ、主述句、動詞句が置かれている例、(8)は名詞句が置かれて

いる例である。

一方、“要么 A 要么 B”の選択項には、一般には次の(9)(10)のように、主述句や動詞句などの述詞性構造が置かれ、(11)のように、直接名詞句を置くことはできないとされる。

(9) 要么 你 去, 要么 他 来, 否则 你们 没 法 面谈。

yaome あなた 行く yaome 彼 来る さもなければ あなたたち ない 方法 面談する

(吕叔湘主编 1999:594)

(あなたが行くか彼が来るかしなければ、二人が直接会って話すことはできない。)

(10) 我 要么 当 编辑, 要么 当 记者。(邢福义 2001:260)

私 yaome なる 編集者 yaome なる 記者

(私は編集者になるか、記者になるかのどちらかだ。)

(11) *他 要么 编辑, 要么 记者。(邢福义 2001:260)

彼 yaome 編集者 yaome 記者

邢福义 2001:260 によれば、“要么 A 要么 B”の選択項に名詞句を置く場合は、次のように“要么是 A 要么是 B”という形式にして、判断動詞“是”を加えなければならないということである。

(12) 他 要么 是 编辑, 要么 是 记者。(邢福义 2001:260)

彼 yaome COP 編集者 yaome COP 記者

(彼は編集者であるか、記者であるかのどちらかだ。)

このように、“要么 A 要么 B”の選択項は、何らかの述詞を含むものでなければならぬとされる。しかしながら、コーパスでは、“要么 A 要么 B”の選択項に、次の(13)のように、まれに名詞句が用いられる例が見られる。

(13) 夏先生说：“别嘴硬，你还是劝拉拉，要么 张东昱，要么 程辉，赶紧二者择其一

yaome 張東昱 yaome 程輝

吧，过这村就没那店了，这两人都不错的。……” (CCL)

(夏さんは言った。「強情を張らないで。あなたは拉拉にすすめてください。張東昱

か程輝か、二人から一人を急いで選ぶように。このチャンスを逃したらまたと機会はない。その二人はどちらもよい人だ。……」)

(13)は選択項に“张东昱”、“程辉”という人名、即ち、名詞句が用いられている。しかしながら、大多数の用例では次の(14)のような動詞句をはじめとする述詞性成分が置かれている。

(14) 特别是夏天雨水多的时候，水漫过了石头，上学 的 小孩 便 只好

通学する PART 子供 すぐ ~するほかない

要么 由 家长 背 过去 要么 就 呆 在 家中 不 上学。

yaome ~が 親 背負う COM COM yaome ほかでもなく 留まる ~に 家中 NEG 通学する

(BCC)

(特に夏の雨が多い時は、水が岩を超えてあふれ、通学の子供は親が背負って行くか、家に留まって学校に行かないということにならざるを得ない。)

このように、“要么 A 要么 B”の選択項は典型的には述詞句で構成されるが、コーパスでは、まれに名詞句が置かれる例が観察される。

次に、“要不 A 要不 B”の例を観察すると、その選択項は、一般には次のように述詞性成分で構成されている。

(15) 我气哼哼地说：“甭骗我，要不 咱们 和好， 要不 离婚。” (BCC)

yaobu 私たち 仲直りする yaobu 離婚する

(私はかんかんに怒って言った。「私を騙さないで。私たちは仲直りするか、離婚するかどちらかよ。」)

仮に、選択項が名詞句で構成されている“不是 A 就是 B”の上記(8)の例を“要不 A 要不 B”に置き換えると不自然になる。文を自然にするためには、“要不”の後に“就是”を加える⁴⁾。

⁴⁾ この点については、邢福义 2001:262 を参照した。

(16a) *他 要不 编辑, 要不 记者。

彼 yaobu 編集者 yaobu 記者

(16b) 他 要不 就 是 编辑, 要不 就 是 记者。

彼 yaobu ほかでもなく COP 編集者 yaobu ほかでもなく COP 記者

以上のように、限定選択構文の中で、“不是 A 就是 B”の選択項には述詞性成分のほか、名詞性成分も置くことができる。一方、“要么 A 要么 B”と“要不 A 要不 B”の選択項には一般に述詞性成分が置かれ、直接名詞性成分を置くことはできない。ただし、“要么是 A 要么是 B”、“要不就是 A 要不就是 B”など判断動詞“是”を含む構文に拡張すれば名詞性成分を置くことができる。“不是 A 就是 B”の選択項に直接名詞性成分を置くことができるのは、構造自体に“是”が含まれているからであると考えられる。即ち、“不是 A 就是 B”の選択項に名詞句が置かれる場合も、その選択項は「“是”＋名詞句」という述詞性成分で構成されていると解釈することができる。ゆえに、三つの限定選択構文の選択項の構造は、基本的には全て述詞性成分で構成されるといえる。いずれにしても、以上のような三つの限定選択構文の選択項に直接名詞句を置けるか否かという構造上の相違は、それぞれが表し得る事態の相違と関係する。次節では、各限定選択構文が表す事態の特徴を考察する。

3.3. 限定選択構文が表す事態

3.3.1. 邢福义 2001

本節では、各限定選択構文が表す事態の特徴について論じる。各構文の相違について論じた先行研究は、管見の限り邢福义 2001 のみである。邢福义 2001:258-263 では、三つの構文は、表すことができる「選択」には次のような相違があると論じている。

(17a) 要么 你 留下, 要么 你 赶快 走。

yaome あなた 残る yaome あなた 早く 出る

(17b) 要不 你 留下, 要不 你 赶快 走。

yaobu あなた 残る yaobu あなた 早く 出る

(17c) *不是 你 留下, 就是 你 赶快 走。(邢福义 2001:262)

bushi あなた 残る jiushi あなた 早く 出る

(あなたは残るか、早く出るかのどちらかだ。)

(18a) 这 一向 他 要么 满不在乎, 要么 斤斤计较。

これ ずっと 彼 yaome 全然気にかけてない yaome 小さいことにこだわる

(18b) *这 一向 他 要不 满不在乎, 要不 斤斤计较。

これ ずっと 彼 yaobu 全然気にかけてない yaobu 小さいことにこだわる

(18c) 这 一向 他 不是 满不在乎, 就是 斤斤计较。(邢福义 2001:262)

これ ずっと 彼 bushi 全然気にかけてない jiushi 小さいことにこだわる

(近頃、彼は何も気にかけてないか、小さいことにいちいちこだわるかのどちらかである。)

邢福义 2001:258-263 によると、(17a)(17b)は“意欲性选择”(意欲的選択)の例で、選択項で述べられている行為が“跟人的意向欲望有关”(人の意向、欲望と関係)し、主観的色彩が濃い選択であるということである。この種の選択は、“要么 A 要么 B”と“要不 A 要不 B”によって表され、(17c)のように、“不是 A 就是 B”では一般に表されないとする。

一方、(18a)(18c)は“析实性选择”(事実分析的選択)の例で、選択項で述べられている状況が“对事实的描述或反映”(事実に対する描写や反映)を表し、客観性が比較的高いということである。この種の選択は、“要么 A 要么 B”と“不是 A 就是 B”によって表され、(18b)のように、“要不 A 要不 B”では一般に表されないとする。

また、“要么 A 要么 B”と“要不 A 要不 B”の相違については、相手に選択を求める場合、次の例のように、“催促追逼”(催促、責め立て)には“要么 A 要么 B”が多く用いられ、“劝告商量”(忠告、相談)には“要不 A 要不 B”が多く用いられるということである。

(19) 要么 答应 我 立即 结婚, 要么 你我 今后 别 再 相见!

yaome 約束する 私 すぐ 結婚する yaome あなたと私 今後 ~するな もう 会う

(邢福义 2001:263)

(すぐに結婚するのを私に約束するか、あなたと私は今後もう会わないかだ。)

(20) 要不 你 写 封 信 让 我 带 去, 要不 你 去 找 他 当面
yaobu あなた 書く CL 手紙 ~させる 私 持つ 行く yaome あなた 行く 訪ねる 彼 じかに
谈 谈。(邢福义 2001:263)

話す 話す

(あなたは手紙を書いて私に持って行かせるか、あなたは彼を訪ねて行ってじかに話を
をするかだ。)

また、“不是 A 就是 B”と“要么 A 要么 B”が“析实性选择”を表す時は、前者の方が
後者より断定性が強いということである。

これらの指摘は、三つの限定選択構文の相違を示した特筆すべき指摘である。しかしな
がら、“要不 A 要不 B”について、邢福义 2001:258-263 では“意欲性选择”にのみ用いら
れるとしているが、コーパスを観察すると、次のように“析实性选择”に属すると考えら
れる例も見られる。

(21) 工人们忍受着疲劳和困苦, …… , 工厂的规定实在太苛刻, …… , 稍有违反, 要不
yaobu

被 罚款, 要不 受 污辱性的 体罚。(CCL)

~される 罰金を取る yaobu 受ける 侮辱的 PART 体罰

(工場労働者たちは疲労と困窮を堪え忍んだ。……工場の規定は実に過酷で、……少
し違反があれば、罰金を取られるか、侮辱的な体罰を受けるかである。)

(21)の二つの選択項は、工場労働者が工場の規定に違反した場合に恒常的に受けている
罰を表し、工場労働者の日常の状況描写であり、「事実に対する描写や反映」を表す“析实
性选择”の例であると考えられる。

また、邢福义 2001:258-263 では、“催促追逼”(催促、責め立て)には、“要不 A 要不 B”
よりも“要么 A 要么 B”が多く用いられるということであるが、次の“要不 A 要不 B”の
例では、強い「催促」を表している。

(22) 男人指指桌上早已备好的两瓶“敌敌畏”说：“今天，这门你是出不去了。要不

yaobu

就 答应 复婚, 要不 你 就 喝了 它们!” 李娜一愣。

ほかでもなく 応じる 復縁する yaobu あなたほかでもなく 飲む ASP それら

门关得紧紧的, 绝了她的路。(CCL)

(男はテーブルの上に準備しておいた二本の「ジクロロボス」を指さして言った。「今日、このドアをおまえは出られない。復縁に応じるか、それらを飲むかだ。」李娜はぎょっとした。ドアはきつく閉められ、彼女の道は断たれた。)

(22)は、男が李娜という人物に対して復縁を強く迫っていることを表し、強い“催促追逼”(催促、責め立て)を表しているが、“要么 A 要么 B”ではなく、“要不 A 要不 B”の方が用いられている。このように、コーパスの例を観察すると、邢福义 2001:258-263 には必ずしも当てはまらない例も見られる。

そこで、本節では、邢福义 2001:258-263 やコーパスの実例などに基づきながら、改めて各構文が表す事態の特徴を考察する。

3.3.2. “要不 A 要不 B” が表す事態

まず、“要不 A 要不 B” が表す事態の特徴について考察する。邢福义 2001:258-263 では、“要不 A 要不 B” は“意欲性选择”を表すとし、前掲(17b)の例を挙げている。“意欲性选择”とは、選択項で述べられている行為が「人の意向、欲望と関係する」という選択であるということだが、コーパスでも(17b)と同様の、“意欲性选择”に属すと考えられる例が見られる。

(23) 反正, 要不 你 去, 要不 我自己 去。(CCL)

いずれにせよ yaobu あなた 行く yaobu 私 自分 行く

(いずれにせよ、あなたが行くか、私が自分で行くかだ。)

(24) (= (15)) 我气哼哼地说: “甭骗我, 要不 咱们 和好, 要不 离婚。”

yaobu 私たち 仲直りする yaobu 離婚する

(25) 据我的判断, 她可能只有两种反应, 要不 尖叫, 要不 就 给

yaobu 甲高い 叫ぶ yaobuほかでもなく 食らわす

你 一 耳光。 (CCL)

あなた 1 びんた

(私の判断では、彼女は二つの反応しかないだろう。甲高い声で叫ぶか、あなたにびんたを食らわすかだ。)

(23)(24)は話し手が聞き手に対して「どちらかの行為を〈する〉」ように促すという、これから採るべき行為が、二つの選択項のうちいずれかであることを提示している文である。一方、(25)は“她”(彼女)がこれから「どちらかの行為を〈する〉」という話し手による推定を表す文である。これらの文に共通することは、選択項が個別の一回的事態を表していることである。

このほか、“要不 A 要不 B”には、前節で述べたように、邢福义 2001:258-263 の考察とは異なり、次のような“析実性选择”に属すと考えられる文も観察される。

(26) 日耳曼的男人们游手好闲，要不 赌博 要不 睡觉，……。 (BCC)

yaobu 賭け事をする yaobu 寝る

(ゲルマンの男性たちは仕事をしないでぶらぶら遊び、賭け事をするか寝るかで)

(27) 二元对立的见地总认为，事物 要不 就 存在、要不 就 不

事物 yaobu ほかでもなく 存在する yaobu ほかでもなく NEG

存在。 (CCL)

存在する

(二項対立の見方では常に、事物は存在するか存在しないかであると考える。)

(26)の二つの選択項では、ゲルマンの男性たちが普段から仕事をせず遊び、恒常的にしている行為が描写されている。(27)の二つの選択項は、二項対立の考え方において事物がどのような状態にあるのかが述べられ、一種の原理原則を表している。これらは邢福义 2001:258-263 の分類に基づくと、「事実に対する描写や反映」を表すとされる“析実性选择”の例であると考えられる。これらの文に共通することは、選択項が「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的に生起する一種の状態を表していることである。

このように、“要不 A 要不 B”が表す事態は、「どちらかの行為を〈する〉」という一回的事態と「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的状态の大きく二つに分類することがで

きる。コーパスから検出した“要不 A 要不 B”の例 50 例の中で、選択項が一回的事態を表す例は 27 例 (54%)、恒常的状态を表す例は 23 例 (46%) 観察され、どちらも一定数の例が見られた。

3.3.3. “要么 A 要么 B”が表す事態

次に、“要么 A 要么 B”が表す事態を考察する。“要么 A 要么 B”もまず次のような一回的事態を表す例が見られる。

(28) 拉拉说：“给你两个选择，要么 我 现在 告诉 你 答案，要么 你 今晚

yaome 私 今 教える あなた 答え yaome あなた 今晚

回去 想 一 想。”张凯挺挺胸说：“我今晚回去想。”(CCL)

帰って行く 考える ちょっと 考える

(拉拉は言った。「あなたに二つの選択肢を与えよう。私が今あなたに答えを教えるか、あなたは今晚帰って考えるかだ。」張凱は胸を張って言った。「私は今晚帰って考える。」と。)

(29) 从希拉克昨天的表态看，尼斯会议 要么 克服 分歧，取得 成功，签署

ニース会議 yaome 克服する 不一致 収める 成功 サインする

一个“好的条约”。要么 就 承认 失败，……。(CCL)

1 CL よい PART 条約 yaome ほかでもなく 認める 失敗

(シラクの昨日の態度から、ニース会議は不一致を克服し、成功を収め、「良い条約」にサインをしたか、或いは失敗を認めたかである。)

(28)は拉拉という人物が張凱という人物に対して、「どちらかの行為を〈する〉」ように促していることを表している。即ち、聞き手である張凱がこれから採るべき行為の選択肢が提示されており、選択項は一回的事態を表す。(29)の二つの選択項は、ニース会議では「どちらかの行為を〈した〉」という、語り手による推定が表されているが、やはり一回的事態を表している。

一方、“要么 A 要么 B”には、次のように、「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的に生起する事態や原理原則などの恒常的状态を表す例も見られる。

(30) 根据调查显示, 把果汁当水喝的人身体呈两极分化: 要么 过 瘦, 要么

yaome すぎる 痩せている yaome

过 胖。(CCL)

すぎる 太っている

(調査によると、ジュースを水として飲む人の体は二極化を示す。痩せすぎるか、太りすぎるかである。)

(31) 平面上的两条直线, 要么 相交, 要么 平行。(BCC)

yaome 交わる yaome 並行である

(平面上の二つの直線は、交わるか並行するかのどちらかである。)

(30)の二つの選択項は、ジュースを水として飲む人が恒常的にどのような状態になるかを表している。(31)の二つの選択項は、平面上の二つの直線はどうなるのかという原理原則を表している。

また、“要么 A 要么 B”には、次のような、二つの選択項がある主体の属性を表す文も見られる。

(32) 万婉珺坦言, 初到巴西时, 最 让 她 难以 适应 的 就

最も ~させる 彼女 ~し難い 適応する PART ほかでもなく

是 巴西人 吃 的 食物 要么 很 甜 要么 很 咸, 并且食物的

COP ブラジル人 食べる PART 食べ物 yaome とても 甘い yaome とても 塩辛い

种类比较少。(BCC)

(万婉珺は率直に言う。最初にブラジルに着いた時、彼女が最も適応し難かったのは、ブラジル人が食べる食べ物がとても甘いかとても塩辛いかであり、また食べ物の種類が比較的少ないことだ、と。)

(33) 但是, 目前 城市 公厕 要么 标志 五花八门, 要么 什么 标志 都 没有。

しかし 現在 都市 公衆トイレ yaome 標識 多種多様である yaome 何 標識 ~でもない

(CCL)

(しかし、現在都市の公衆トイレは標識が多種多様であるか、何の標識もないかである。)

(32)の選択項「とても甘い」と「とても塩辛い」はブラジル人の食べ物の味を表し、一種の属性を表している。(33)の選択項「標識が多種多様である」と「何の標識もない」は、いずれも都市の公衆トイレがどのような状態にあるかという公衆トイレの属性を表している。このような属性を表す例も一種の恒常的状态を表す文であると考えられる。

今回、コーパスから検出した“要么 A 要么 B”の例 200 例の中で、選択項が一回的事態を表す例は 65 例 (32.5%)、恒常的状态を表す例は 135 例 (67.5%) であり、“要不 A 要不 B”と同様にどちらも一定数の例が見られたが、“要不 A 要不 B”よりは、恒常的状态を表す例の割合が大きくなっている。

3.3.4. “不是 A 就是 B” が表す事態

次に、“不是 A 就是 B”が表す事態を考察する。“不是 A 就是 B”は、邢福义 2001:258-263 が“意欲性选择”には用いられないと論じているように、個別の一回的事態にはほとんど用いられない。

特に、上記(23)(24)の“要不 A 要不 B”の例のような、話し手が聞き手に対して採るべき行為の選択肢を提示するという例は見られず、個別の一回的事態を表す例としては、次のような未然或いは已然の一回的事態について、「どちらかの行為を〈する〉」或いは「どちらかの行為を〈した〉」という推定を表す例のみである。

(34) 他 判断 自己 不久 之后 不是 被 拉 出去 枪毙, 就是

被 判断する 自分 間もなく ~の後 bushi ~される 引く 出る 行く 銃殺刑にする jiushi

被 转移 走。(CCL)

~される 移す 行く

(彼は自分が近いうちに、引っ張り出されて銃殺刑に処されるか、移されていくかのどちらかだと判断した。)

(35) 估计 不是 32 军的 通讯设备 全部 被 毁 就是 他们 军部 可能

推量する bushi 32 軍 PART 通信設備 全て ~される 壊す jiushi 彼ら 軍部 ~かもしれない

遇 袭 出 了 什 么 事。(BCC)

遭う 襲撃する 生じる ASP 何 事

(32 軍の通信設備は全て壊されたか、彼らの軍部が襲撃され何かあったかであろう。)

(34)は未然の一回的事態について起こり得る事態が二つの選択項のうちいずれかであるという推定を表す文、(35)は已然の一回的事態について、起こった事態が二つの選択項のうちいずれかであるという推定を表す文である。

ただし、この種の一回的事態を表す文はコーパスではほとんど見られない。“不是 A 就是 B”でよく見られるのは、次のような「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的に生起する事態や原理原則、属性などある種の恒常的状态を表す文である。

(36) 可是不幸儿子患了精神病。她想尽办法要把儿子的病治好，但是每次她端药端茶给她儿子喝的时候，她 儿子 不是 不 吃 就是 把 碗 打破，老大娘想不出

彼女 息子 bushi NEG 食べる jiushi ~を 茶碗 壊す 割れる

其他办法，就把她的苦衷告诉大川同志。(BCC)

(しかし、不幸にも息子は精神病に罹った。彼女は手立てを尽くして息子の病を治そうとしたが、しかし彼女が薬とお茶を運んできて息子に飲ませようとする度、息子は飲まないか、茶碗を割るかで、ほかの方法が思い浮かばず、苦しい心のうちを大川同志に伝えた。)

(37) 作者脑子里应该始终想着这个整体含义才能传达所有这些东西。……如果你没有这个整体，你 的 句子 不是 不 协调 就是 无 所为 而 为。

あなた PART 文 bushi NEG 調和がとれている jiushi ない なすところの CON なす

(BCC)

(作者の頭の中で終始その全体の含意を考えていてこそそれらを全て伝えることができる。……もしその全体がなければ、文は調和がとれないか、盲目的に書いているものとなる。)

(38) 后来人口一天多一天，荒地则一天减少一天，而且 新 垦 的 地

しかも 新しい 開墾する PART 土地

不是 土质 不 好，就是 水源 不足，于是每人耕地的面积减少，生活程度降低。

bushi 土壌の質 NEG よい jiushi 水源 不足する (CCL)

(後に人口は日々増えていき、荒地は日々少なくなり、しかも新たに開墾した土地は土壌の質がよくないか、水源が足りないかで、一人当たりの耕地面積は減り、生

活のレベルも低下した。)

(36)の選択項は、精神病に罹っている息子がいつも薬を飲まない状況が表され、恒常的起きている事態が表されている。(37)の選択項は、文章の作者が“整体”(全体)を持っていない場合、原則的に文がどうなるのかという原理原則が表されている。(38)の選択項は、新たに開墾した土地がどのような性質であるのかという属性を表している。(36)(37)(38)ともにある種の恒常的状态を表している。

さらに“不是 A 就是 B”には、3.2 節で述べたように、選択項に名詞性成分を置くことができ、それによって属性を示すこともできる。

(39) 靠巾帼女将的绝对实力，中国队 的 女单 和 女双 队员 不是

中国チーム PART 女子シングルス と 女子ダブルス 選手 bushi

世界冠军 就是 奥运会冠军，碰谁都不会有丢掉的可能。(BCC)

世界チャンピオン jiushi オリンピックチャンピオン

(女傑の絶対的な実力により、中国チームの女子シングルスと女子ダブルスの選手は世界冠军であるかオリンピックチャンピオンであり、誰に出くわしてもチャンピオンを失う可能性はない。)

(39)は選択項が名詞句で構成され、中国チームの選手が世界チャンピオンであるかオリンピックチャンピオンであるかという属性を表している。一方、3.2 節で示したように、“要么 A 要么 B”と“要不 A 要不 B”は一般には選択項に直接名詞性成分を置くことができず、それを置くためには、“是”や“就是”を加え、構文形式を変えなければならない。したがって、限定選択構文の中で、“不是 A 就是 B”が属性を表すのに最も適した構文であるといえる。

今回、コーパスから検出した“不是 A 就是 B”の例 200 例の中で、(34)(35)のような選択項が一回的事態を表す例は 5 例 (2.5%) のみであり、それ以外の 195 例 (97.5%) は (36)(37)(38)(39)のような恒常的状态を表す例であり、“不是 A 就是 B”の圧倒的多数の例が恒常的状态を表している。

3.3.5. 各限定選択構文が表す事態の相違

以上、各限定選択構文が表す事態の特徴を考察した。各限定選択構文が表す事態は、「どちらかの行為を〈する〉」という一回的事態であるか、または「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的状态であるかという点で、大きく二つに分類することができる。

“要不 A 要不 B”は、3.3.2 節で述べたように、一回的事態と恒常的状态のどちらにも用いられる。ただし、恒常的状态を表す例の中で、属性を表す例は見られず、仮に他の構文で属性を表す上記(32)(33)(38)を“要不 A 要不 B”に置き換えると不自然と判定される。

(32)*最 让 她 难以 适应 的 就 是 巴西人 吃 的
最も ~させる 彼女 ~し難い 適応する PART ほかでもなく COP ブラジル人 食べる PART
食物 要不 很 甜 要不 很 咸,
食べ物 yaobu とても 甘い yaobu とても 塩辛い

(33)*但是, 目前 城市 公厕 要不 标志 五花八门, 要不 什么 标志 都 没有。
しかし 現在 都市 公衆トイレ yaobu 標識 多種多様である yaobu 何 標識 ~でもない

(38)*而且 新 垦 的 地 要不 土质 不 好, 要不 水源 不足,
しかも 新しい 開墾する PART 土地 yaobu 土壌の質 NEG よい yaobu 水源 不足する

“要不 A 要不 B”で属性を表すためには、次の(32)“(33)“(38)”のように、“要不就是 A 要不就是 B”という判断動詞“是”を含む構文形式に拡張しなければならない。

(32)”最 让 她 难以 适应 的 就 是 巴西人 吃 的
最も ~させる 彼女 ~し難い 適応する PART ほかでもなく COP ブラジル人 食べる PART
食物 要不 就 是 很 甜 要不 就 是 很 咸,
食べ物 yaobu ほかでもなく COP とても 甘い yaobu ほかでもなく COP とても 塩辛い

(33)”但是, 目前 城市 公厕 要不 就 是 标志 五花八门, 要不
しかし 現在 都市 公衆トイレ yaobu ほかでもなく COP 標識 多種多様である yaobu
就 是 什么 标志 都 没有。
ほかでもなく COP 何 標識 ~でもない

(38) 而且 新 垦 的 地 要不 就 是 土质 不 好, 要不
しかも 新しい 開墾する PART 土地 yaobu ほかでもなく COP 土壌の質 NEG よい yaobu
就 是 水源 不足,
ほかでもなく COP 水源 不足する

このように、“要不 A 要不 B”は、属性については表し難く、恒常的状态を表すことに対して一定の制限がある。

次に、“要么 A 要么 B”は、“要不 A 要不 B”と同様に、一回的事態と恒常的状态のどちらも表し、さらに“要不 A 要不 B”では表し難い属性を表す例も見られ、限定選択構文中で最も広く用いられる構文である。ただし、“要么 A 要么 B”は、一般には選択項に直接名詞句を置いて属性を表すことができず、名詞句を置くためには、“要么是 A 要么是 B”という判断動詞“是”を含む構文形式に拡張しなければならない。したがって、“要么 A 要么 B”は“不是 A 就是 B”ほど自由に属性を示すことはできない。

一方、“不是 A 就是 B”は、他の二つの構文とは異なり、一回的事態を表すことに対して制限があり、特に話し手から聞き手に対してこれから採るべき行為の選択肢を提示するという事態には用いられない。当該構文が表すことができる一回的事態は、「どちらかの行為を〈する〉」という推定を表す事態のみに限られる。さらに、そのような一回的事態を表す例はまれで、大多数の例が「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的状态を表し、特に選択項に直接名詞句を置いて属性を示すことができるという点が他の構文と異なる。したがって、“不是 A 就是 B”は一般には「どちらかの事態に〈なる〉」というタイプの選択を表す構文であるといえる。当該構文は判断動詞“是”を含む構文であり、コーパスにおいても恒常的状态を表す例が圧倒的多数を占めることから、恒常的状态を表す用法が、その典型的な用法であると考えられる。

このように、各限定選択構文が表す事態は、コーパスの実例に基づくと、邢福义 2001:258-263 のように明確に分かれるわけではなく、次の図のように、各構文で中心となる用法から拡張用法へと連続的に広がるものであると考えられる。次の図では、各構文について、濃いマーカで示した部分は、制限なく表すことができる中心的な用法であり、薄く塗りつぶした部分は、構文を拡張することにより表すことができるなど、拡張的な用法を表している。特に、“不是 A 就是 B”については、恒常的状态を表す例がプロトタイプであり、一回的事態を表す例は拡張用法であると考えられる。

図：限定選択構文が表す事態

選択項の事態	一回的事態〈する〉		恒常的状态〈なる〉	
	採るべき行為	生起事態の推定	恒常的事態 原理原則	属性
選択項の構造	動詞句 主述句等	動詞句 主述句等	動詞句 主述句等	動詞句 名詞句 主述句 形容詞句等
要不 A 要不 B				
要么 A 要么 B				
不是 A 就是 B				

3.4. 限定選択構文の表現機能

3.4.1. 一回的事態を表す文の表現機能

3.3 節では、限定選択構文が表す事態について考察した。そこでは限定選択構文が、大きく一回的事態と恒常的状态を表す例に分けられることを示したが、それぞれの文を観察すると、選択項の意味的關係などに一定の特徴が見られる。本節では、それらの特徴を分析することにより、限定選択構文の表現機能を考察し、各構文の相違をより明らかにする。

まず、限定選択構文の中で、主に“要不 A 要不 B”と“要么 A 要么 B”によって表される一回的事態を表す文の表現機能について考察する。それらの例を観察すると、二つの選択項には、次のように、しばしば対立的事態が置かれる。

(40) 政委想了想说：“看这阵势，几天内都会有雨，且有暴雨，遇上泥石流或山体滑坡就

无法登山。依我看，要么 今天上，要么 就 放弃 登山。”(CCL)

yaome 今日 登る yaome ほかでもなく 断念する 登山する

(政委は少し考えて言った。「この様子だと、数日以内に雨、しかも暴雨があるだろう。

土石流や山崩れに遭えば、登山ができない。私から見れば、今日登るか、登山を断念するかだ。」)

(41) 专家们认为，菲亚特集团终于下决心结盟，是为形势所迫。在经济全球化潮流前，菲亚特集团面临两种选择：要么 退出 世界 汽车市场，投资 其他 领域，

yaome 脱退する 世界 自動車市場 投資する その他 分野

要么 选择 强大 的 伙伴， 在 联盟 中 更 好 地 发展。

yaome 選択する 強大である PART パートナー ~で 連携 なか さらに よい PART 発展する

菲亚特集团选择了后者，…… (CCL)

(専門家たちはフィアットグループがついに提携を結ぶのを決断したのは、情勢に迫られてのことだと考えている。経済のグローバル化の流れの前に、フィアットグループは二つの選択に直面した。即ち、世界の自動車市場から脱退し、ほかの分野に投資するか、または強いパートナーを選択し、提携の中でさらによく発展するかである。フィアットグループは後者を選んだ。)

(42) (= (15)) 我气哼哼地说：“甭骗我，要不 咱们 和好，要不 离婚。”

yaobu 私たち 仲直りする yaobu 離婚する

(40)は、天気の状態から、「登山をする」か「登山を断念する」かいずれかの行為の選択が迫られていることが表されているが、これらの二つの選択項は「登山をするか否か」という点で対立的な事態で構成されていると解釈できる。(41)は、フィアットグループが「自動車市場を脱退し、ほかの分野に投資する」か、或いは「強いパートナーを選択し、提携の中でさらによく発展する」かいずれかの選択が迫られていることが示されているが、この二つの選択肢も「自動車市場に留まる否か」という点で対立的であると解釈できる。(42)では、話し手が聞き手に対して、“要不 A 要不 B”を用いて、「仲直りする」か、或いは「離婚する」という対立的な選択を迫っていることが表されている。

3.3.2 節で示したように、今回、コーパスから“要不 A 要不 B”の一回的事態を表す例を 27 例検出したが、その中で対立的な事態で構成される例は 23 例 (約 85.2%) 観察された。“要么 A 要么 B”については、コーパスから検出した一回的事態を表す文 65 例の中で、選択項が対立的な事態を表す例は 53 例 (約 81.5%) 観察された。両構文ともに選択項が対立的事態で構成される例が多数を占めている。

このように、限定選択構文で一回的事態が表される場合、二つの選択項には、「どちらを選択してもよい」というような、言わば「同類」の事態が置かれることはあまりなく、一般には対立的な事態が置かれ、どちらを選択しても重大な結果をもたらすような、緊迫した選択が表されることが多い。

3.4.2. 恒常的状态を表す文の表現機能

次に、限定選択構文の例の中で、恒常的状态を表す文の表現機能について考察する。まず、王弘宇 1996:64-65 は、“不是 A 就是 B”の二つの選択項には意味的な“一致性”（一致性）が見られることを指摘している。コーパスでも、次のように、選択項に意味的な一致性が見られる例が多く観察される。

(43) 按说, 庆祝活动应在她即位的 2 月 6 日举行, 但两个因素把喜庆的日子推迟到 6 月初。

一是英国 2 月的天气不好, 不是 下雨 就是 刮 风, 不便百姓举行室外庆祝

bushi 降る 雨 jiushi 吹く 風

活动; …… (BCC)

(本来から言えば、祝賀行事は彼女が即位した 2 月 6 日に行くべきだが、二つの原因により、慶事の日は 6 月初めに延期された。一つは、英国の 2 月の天気は良くなく、雨が降るか風が吹くかで、人々が屋外で祝賀行事をするのに向かないことである。)

(44) 即使在农村生活的孩子, 生活空间和生活方式也远没有以前的孩子那样丰富多彩。孩子放学回家, 不是 做 作业 就是 看 电视, 接触自然的机会极少。(BCC)

bushi する 宿題 jiushi 見る テレビ

(たとえ農村で生活する子供でも生活空間や生活方式が以前の子供ほど豊富ではない。子供は授業が終わって家に帰ると、宿題をするかテレビを見るかで、自然に触れる機会が極めて少ない。)

(43)の二つの選択項「雨が降る」と「風が吹く」は、英国の悪い天気を表すという点で、意味的に一致性があると解釈できる。言い換えると、二つの選択項は悪い天気を表す事態として、「同類」の事態で構成されているといえる。(44)の二つの選択項「宿題をする」と「テレビを見る」は、自然に触れないで行う動作という点で、やはり同類の事態であると

解釈できる。

同様に“要不 A 要不 B”と“要么 A 要么 B”で恒常的状态を表す例についても、次のように同様に選択項に一般に同類の事態が置かれる。

(45) (= (26)) 日耳曼的男人們游手好閑，要不 賭博 要不 睡覺，……。

yaobu 賭け事をする yaobu 寝る

(46) 人們發現博物館中的上千件文物要么 消失 不見 要么 已

人々分かる博物館なか PART 何千 CL 文物 yaome 無くなる NEG 見える yaome すでに
被 毀坏。(BCC)

～される 壊す

(人々は博物館の多くの文物が無くなっているかすでに壊されていることが分かった。)

(45)の二つの選択項「賭け事をする」と「寝る」は、ゲルマンの男性の怠惰な様子を表すという点で同類の事態であると解釈できる。(46)の二つの選択項「(文物が)なくなっている」と「すでに壊されている」は、博物館の文物の被害を表すという点で、同類の事態であると解釈できる。

前節で述べた一回的事態を表す文では、二つの選択項に、一般に対立的事態が置かれるが、恒常的状态を表す文の選択項には、一般に同類の事態が置かれる。

このように、恒常的状态を表す文には、二つの選択項に一般に同類の事態が置かれ、例えば(43)では二つの選択項全体で「英国の天気が悪い状態」、(44)では二つの選択項全体で「自然に触れる機会が少ない状態」、(45)では二つの選択項全体で「ゲルマンの男性の怠惰な状態」、(46)では二つの選択項全体で「文物が被害を受けている状態」というように、構造全体である一まとまりの状態が表される。

次の文では、二つの選択項に、特定の (specific) ではない事態が置かれ、二つの選択項全体である一まとまりの状態が表されている。

(47) 春节过后，务工人员从全国各地纷至沓来，在求职和办证的过程中，一些人往往把好多证件放在一块，一掏一大把，不是 丢 这 就是 丢 那，从二月份至今，

bushi なくす これ jiushi なくす あれ

他们仅在劳动力市场大厦一楼就拣到身份证 41 张，……。 (BCC)

(春節が過ぎると、労働者が全国各地から続々とやって来る。求職や書類手続きの過程で、一部の者はしばしば多くの証明書類を一緒くたにして入れ、一掴みに取り出し、あれこれなくし、2 月から現在まで、彼らは労働力市場ビル一階だけで身分証を 41 枚拾った。)

(48) 10 个孩子全部吃饱后，7 点时她送老大、老二到西门小学去上学。8 点她上街去买一些便宜的蔬菜。……家里还剩 8 个小孩子，整日里 不是 你 哭 就是他 叫。

1 日 なか bushi あなた 泣く jiushi 彼 わめく

(BCC)

(10 人の子供をみんなお腹いっぱいさせると、彼女は 7 時に長男と次男を西門小学校まで送りに行く。8 時には街に行き、安い野菜を買う。……家にはまだ子供が 8 人いて、一日中泣きわめいている。)

(47)の選択項の“这”と“那”は、特定の事物を指さず、二つの選択項全体で、労働者たちが証明書類を「あれこれなくす」という一まとまりの状態を表している。(48)の選択項の“你”と“他”も、特定の人物を指さず、二つの選択項全体で、子どもたちが「泣きわめいている」という一まとまりの状態を表している。

なお、次の(49)の二つの選択項“你死”と“我活”は語彙的には対立的であるが、“你”と“我”が、特定の人物を指さず、二つの選択項全体で「一方が死に一方が生きる」、即ち、「生きるか死ぬか」というやはり一まとまりの状態を表している。

(49) 表弟在电话中问：“郭涛，你让俺哥去您家是干啥哩？”“干啥？不是 你 死

bushi あなた 死ぬ

就是 我 活。”郭涛回答说。胡胜利的表弟意识到事态的严重性，立即同另一位
jiushi 私 生きる

年轻人一起骑车去追胡胜利。(BCC)

(いとは電話の中で尋ねた。「郭涛、俺の兄をあなたの家に行かせて何をするんだ？」「何をするか？生きるか死ぬかだ。」と郭涛は答えた。胡勝利のいとは事の重大性に気付き、すぐにもう一人の若者と自転車で胡勝利を追った。)

さらに、次の例では、選択項の前項でまず全体の状態を代表する事態が示され、後項ではその前項の事態を含意し、その上でさらに起こり得る事態が表されている。

- (50) (= (36)) 可是不幸儿子患了精神病。她想尽办法要把儿子的病治好，但是每次她端药端茶给她儿子喝的时候，她 儿子 不是 不 吃 就是 把 碗 打破，老
彼女 息子 bushi NEG 食べる jiushi ～を 茶碗 壊す 割れる
大娘想不出其他办法，就把她的苦衷告诉大川同志。

(50)は、母親が病気の息子に薬を飲ませる際の息子の恒常的な状態が描写され、選択項の前項「(薬を) 飲まない」が全体の状態を代表し、後項「茶碗を割る」は、前項の「(薬を) 飲まない」という事態を含意し、その上でさらに起こり得る事態を表していると解釈できる。

なお、この例では、前項が後項よりも全体を代表する事態を表すため、次の(50)'のように、選択項を逆に示すことができない。

- (50)' *她 儿子 不是 把 碗 打破 就是 不 吃
彼女 息子 bushi ～を 茶碗 壊す 割れる jiushi NEG 食べる

したがって、(50)の二つの選択項は意味的に非対称的 (asymmetry) であるといえる⁵⁾。寺村 1992:349-359 は、日本語の選択を示すいくつかの接続詞について、構造的、意味的な対称性の要求の度合いに差が見られることを論じている。中国語の限定選択構文では、一回的事態を表す例においては、選択項が前掲(40)(41)(42)のように一般に対立的事態の二者択一として対称的 (symmetry) に示されるが、恒常的状态を表す文においては、(50)のような非対称的な例が見られる⁶⁾。

いずれにしても、限定選択構文で状態を表す文には、選択項に一般に同類の事態が置かれ、構造全体である一まとまりの状態が表される。

⁵⁾ 複文の等位接続構造に非対称性 (asymmetry) が認められることは、寺村 1992:349-359 や Langacker 2008:406-412 を参照した。

⁶⁾ なお、周有斌 2003 では“不是 A 就是 B”の二つの選択項の事態の順序について、意味、文法、語用論的にいくつかの制約があることが論じられている。“不是 A 就是 B”だけでなく、選択複文において、選択項の事態がどのような順序で置かれているかについては、興味深い問題である。

したがって、以上をまとめると、限定選択構文では、一回的事態を表す文では、選択項が一般に対立的事態で構成され、一方、恒常的状态を表す文では、選択項が一般に同類の事態で構成され、構造全体である一まとまりの状態を表す。

3.4.3. “不是A就是B”のマイナス性

限定選択構文の中で、“不是A就是B”の典型的用法である恒常的状态を表す例を観察すると、さらに次のように、構造全体で、話し手（語り手）が好ましくないと認識する事態が表されることが多い。本論では、そのような事態を「マイナスの事態」と称する。次のような例が見られる。

(51) 为着这件事，牛奶奶白天愁眉不展，食量大减，晚上常做凶梦，梦醒了，不是

bushi

唉声叹气，就是 哭泣。(CCL)

嘆息する jiushi めそめそと泣く

(この事で、牛婆さんは昼間は悲しげな顔をしていて、食べる量も大きく減り、夜は常に悪夢を見て起こされ、嘆息するか、めそめそと泣くかである。)

(52) 婚后，发现丈夫酗酒成癖，有酒就喝，喝了就醉，醉了就要酒疯，不是 打老婆

bushi 殴る 妻

就是 砸 家具，小李无法忍受皮肉之苦，只得离婚。(CCL)

jiushi 壊す 家具

(結婚後、夫が酒癖が悪いことが分かり、酒があれば飲み、飲めば酔い、酔えば酒乱になり、妻を殴るか家具を壊すかで、李さんは肉体的な苦しみに耐えきれず、離婚するほかなかった。)

(51)の“不是A就是B”の二つの選択項「嘆息する」と「めそめそと泣く」は、どちらも“牛奶奶”(牛婆さん)が悲しんでいる状況を表し、構造全体がマイナスの事態として描かれている。(52)の当該構造は、夫が酒乱になり暴れる状況を表し、妻が離婚せざるを得なかったというやはりマイナスの事態として描かれている。

また、3.4.2節で“不是A就是B”の例として挙げた(43)(44)(47)(48)なども、構造全体

が、それぞれ「英国の天気が悪い状態」((43))、「自然に触れる機会が少ない状態」((44))、「証明書類をあれこれなくす状態」((47))、「子供たちが泣きわめいている状態」((48))というマイナスの事態として描かれている。また、(49)の“**不是你死就是我活**”は、前述したように、構造全体で「生きるか死ぬか」という事態を表し、全体で一種のマイナスの状態として描かれていると解釈できる。

“不是 A 就是 B”の例の中には、次の(53)のような特にマイナスの事態を表さない例も見られるものの、コーパスから検出した恒常的状态を表す例 196 例の中で、マイナスの事態が表されている例は、147 例(約 75%)であり、多くの例が好ましくないマイナスの事態を表している。

(53) 我下乡到他家里去，他高兴地对我说：“病到现在不上十天，区里每天不是人

区 なか 毎日 bushi 人

来 就是 信 来 慰问 我，同志们待我太好了。”(BCC)

来る jiushi 手紙 よこす 見舞う 私

(私は農村に行き彼の家を訪ねた。彼は嬉しそうに私に言った。「病気になって 10 日経っていないが、区で毎日人が来るか手紙をよこして私を見舞ってくれ、同志たちは私を本当によくしてくれる。」)

(53)の“不是 A 就是 B”では、話し手が区の同志たちによくしてもらえる状況が描かれ、特にマイナスの事態は表されていない。

一方、“要么 A 要么 B”についても、恒常的状态を表す例の中で、次のようなマイナスの事態を表す例が見られる。

(54) 老师提醒她注意听讲，她不听，要么 和 邻 座 同学 说 悄悄话，

yaome ~と 隣り合わせ 座る 同級生 話す ひそひそ話

要么 做 鬼脸 引 别人 发笑，老师的一再警告也未能阻止她的放肆。

yaome する おどけた顔 引き起こす 他人 笑う

(CCL)

(先生は彼女に講義を注意して聞くように指摘したが、彼女は聞かず、隣の席の同級生とひそひそ話をするか、おどけた顔をしてほかの人を笑わすかで、先生の再三の

警告でも彼女のやりたい放題を止めることができなかった。)

(54)は“她”(彼女)が先生の注意を聞き入れない状況を表し、マイナスの事態として描かれていると解釈できる。ただし、“要么 A 要么 B”の恒常的状态を表す文 135 例中、マイナスの事態が描かれている文は 73 例(約 54.1%)であり、次の(55)のような、特にマイナスの事態を表さない例もしばしば見られる。

(55) 如果用一块磁铁的一端接近另一块的一端，要么 相互 吸引， 要么 相互

yaome 互いに 引きつける yaome 互いに

排斥。磁浮列车就是利用电磁铁的同性相斥、异性相吸的原理，使列车悬浮起来，……。

反発する

(CCL)

(もし一つの磁石の端をもう一つの磁石の端に近づけると、互いに引きつけるか、互いに反発するかである。リニアモーターカーは電磁石の同極反発、異極吸引の原理を利用し、列車を浮揚させ)

(55)はリニアモーターカーの原理の説明であり、語り手が好ましくないと認識する事態を表しているわけではない。

一方、“要不 A 要不 B”の恒常的事態の例についても、次のようなマイナスの事態を表す例が見られる。

(56) (=21) 工人们忍受着疲劳和困苦，……，工厂的规定实在太苛刻，……，稍有违

反，要不 被 罚款， 要不 受 污辱性的 体罚。(CCL)

yaobu ~される 罰金を取る yaobu 受ける 侮辱的 PART 体罰

(56)の“要不 A 要不 B”は工場労働者の過酷な労働状況を表し、マイナスの事態として描かれていると解釈できる。ただし、“要不 A 要不 B”の恒常的状态を表す文 23 例中、マイナスの事態が描かれている文は 12 例(約 52.2%)であり、特に多く見られるというわけではない。次のようなマイナスの事態を表していない例も見られる。

(57) 有人研究了3岁左右的孩子的游戏，结果发现，当熟悉的孩子在一起玩时，游戏变得比孩子单独玩或和不熟悉的孩子一起玩时更复杂些，……。不 熟悉 的

NEG よく知っている PART

孩子 在 一起 时，要不 就 互相 观望，要不 就 单独

子供 一緒に 遊ぶ 時 yaobu ほかでもなく 互いに 傍観する yaobu ほかでもなく 一人で

玩耍。(CCL)

遊ぶ

(3歳前後の子供の遊びの研究によると、よく知っている子供と一緒に遊ぶ時、遊びは子供が一人で遊ぶ時やよく知らない子供と一緒に遊ぶ時よりさらに複雑になる。……よく知らない子供と一緒に遊ぶ時は、互いに傍観するか、一人で遊ぶ。)

(57)の“要不 A 要不 B”は、よく知らない子供同士が遊ぶ時、子供は恒常的にどうなるかという研究結果が示されており、マイナスの事態としては描かれていない。

なお、主に“要么 A 要么 B”と“要不 A 要不 B”によって表される一回的事態を表す文についてもマイナスの事態が描かれている文が見られる。“要么 A 要么 B”については次のような例が見られる。

(58) 一个严重的问题顿时面临眼前——要么 打 死 那 个 日本兵，要么 让

yaome 撃つ 死ぬ あれ CL 日本兵 yaome ~される

那 个 日本兵 把 自己 打 死。(CCL)

あれ CL 日本兵 ~を 自分 撃つ 死ぬ

(一つの重大な問題ににわかに直面した——その日本兵を撃ち殺すか、その日本兵に撃ち殺されるかだ。)

(58)の“要么 A 要么 B”は、「日本兵に殺されるか否か」という、生きるか死ぬかの好ましくない事態に直面していることを表し、マイナスの事態として描かれていると解釈できる。ただし、“要么 A 要么 B”の一回的事態を表す文 65 例中、マイナスの事態を表すのは 26 例(40%)であり、特に多く見られるというわけではない。次のような中立的な例もしばしば見られる。

(59) 那你就赶紧下决心吧，要么 买房，要么 去 股市 抄底，总之别再傻坐着

yaome 買う 家 yaome 行く 株式市場 底値買いする

不动了。(CCL)

(早く決断しなさい。家を買うか、株式市場で底値買いするか、とにかくもうぼんやり座って動かないのはいけません。)

(59)の“要么 A 要么 B”は、話し手が聞き手に対する投資のアドバイスを表しており、マイナスの事態として描かれているわけではない。

一方、“要不 A 要不 B”のマイナスの事態が描かれている例としては、次のような例が見られる。

(60) (= (22)) 男人指指桌上早已备好的两瓶“敌敌畏”说：“今天，这门你是出不去了。

要不 就 答应 复婚，要不 你 就 喝了 它们!”李娜

yaobu ほかでもなく 応じる 復縁する yaobu あなた ほかでもなく 飲む ASP それら

一愣。门关得紧紧的，绝了她的路。

(60)の“要不 A 要不 B”は、李娜という人物が男に強制的に復縁を迫られている場面の描写であり、“要不 A 要不 B”はマイナスの事態として描かれている。ただし、“要不 A 要不 B”の一時的事態を表す文 27 例の中で、マイナスの事態を表すのは 6 例(22.2%)であり、特にマイナスの事態が多く見られるというわけではない。次のような中立的な例もしばしば見られる。

(61) 她早就觉得这间客厅不中不西，不伦不类，最好是统一一下。……要不 就

yaobu ほかでもなく

处理 掉 那 四 把 太师椅， 要不 就 把 这对 小

処分する COM あれ 4 CL 旧式の肘掛け椅子 yaobu ほかでもなく ~を これ CL 小さい

沙发 请 出去。(CCL)

ソファ お願いする 出て行く

(彼女は以前からこの客間が中国風でもなく西洋風でもなく、どっちつかずであり、ちょっと統一させた方がよいと感じていた。……あの四つの旧式の肘掛け椅子を処

分するか、その一対の小さいソファーに出てもらおうかである。)

(61)の“要不 A 要不 B”は、客間のコーディネートをどうするかが述べられ、マイナスの事態としては描かれていない。

したがって、限定選択構文の中で、特に“不是 A 就是 B”の文でマイナスの事態が描かれる例が際立って多いといえる。邢福义 2001:259 は、“不是 A 就是 B”が“要么 A 要么 B”と異なり、選択項を追加できないことを指摘している。次の(62)の“要么”文は、“要么 A 要么 B 要么 C”というように、選択項が三つの項で構成されている。

(62) 要么 考 美院, 要么 考 音专, 要么 干脆 呆在
yaome 受験する 美術学院 yaome 受験する 音楽専門学校 yaome いっそのこと 留まる ~に
文化馆。(邢福义 2001:259)

文化馆

(美術学院を受験するか、音楽専門学校を受験するか、いっそのこと文化馆に留まるかだ。)

“要不 A 要不 B”についても、コーパスでは、次の(62)のように、選択項が三項以上ある例が見られる。

(63) 找 个人 逛 街 要不 有事 要不 上班 要不 不在 黄石
探す CL 人 ぶらぶらする 街 yaobu ある 事 yaobu 出勤する yaobu NEG いる 黄石
…我靠! (BCC)

くそったれ

(一緒に街をぶらぶらしてくれる人を探したが、用事があるか仕事をしているか黄石にいないかで…くそったれ。)

したがって、“不是 A 就是 B”は、他の二つの構文と比べ、「A か B のどちらかだ」という二つの事態だけが起こる限定性がより強い構文であると考えられる。“不是 A 就是 B”が表す一まとまりの状態の中で起こる事態が、「A か B のどちらか一つだ」と強く限定して述べられるということは、結果的に選択の余地が二つしかないということを表し、した

がって、そのような話し手の認識が、しばしば好ましくないマイナスの事態に対して用いられるということに傾くのではないかと考えられる。いずれにしても、三つの限定選択構文はいずれも恒常的状态を表すが、“不是 A 就是 B”については、表現機能の相違として、他の二つの構文と異なり、好ましくないマイナスの事態を表す例が多くみられる。

3.5. まとめ

本章では、“要不 A 要不 B”、“要么 A 要么 B”、“不是 A 就是 B”という三つの限定選択構文を取り上げ、それらが表す事態の特徴を示し、さらに表現機能について考察した。限定選択構文は、大きく一回的事態と恒常的状态を表す文の二つに分類できる。“要不 A 要不 B”は、一回的事態と恒常的状态のいずれにも用いられるが、恒常的状态の中で属性については表し難い。“要么 A 要么 B”は、一回的事態と属性を含む恒常的状态のいずれも表し、限定選択構文の中で最も広く用いられる構文である。ただし、選択項に直接名詞句を置くことができず、属性を示すことについて一定の制限がある。“不是 A 就是 B”は、他の二つの構文と異なり、一回的事態を表すことに制限があり、採るべき行為の選択肢を提示するという選択を表さない。当該構文は典型的には「どちらかの事態に〈なる〉」というタイプの選択を表し、恒常的状态を表すことがその典型的用法であると考えられる。

限定選択構文の中で、一回的事態を表す文では、一般に選択項が対立的事態の二者択一として示される。一方、恒常的状态を表す文では、選択項には一般に同類の事態が置かれ、構造全体で一まとまりの事態を表す。特に“不是 A 就是 B”の恒常的状态を表す文は、その多くが好ましくないマイナスの事態を表す。

第四章 “A了BB了A”の意味と文法機能¹⁾

4.1. はじめに

本章では、時間関係を表す表現の中で、これまで論じられてこなかった、(1)の下線部のような“A了B(,)B了A”という構造を取り上げ、その文法機能と意味を考察する。

(1) 这些 单词 我 学 了 忘(,)忘 了 学, 一直 记 不 住。

これら 単語 私 勉強する ASP 忘れる 忘れる ASP 勉強する ずっと 覚える NEG COM

(作例)

(これらの単語は、私は勉強しては忘れ、忘れては勉強してで、ずっと覚えられない。)

(1)の下線部は、“学了忘”(勉強したあと忘れる)と“忘了学”(忘れたあと勉強する)という二つの時間関係を表す形式により成り立っている。“A了B”、“B了A”それぞれの形式は、AとBという二つの異なる事態を意味する要素で構成され、一見複文形式であるかに見受けられるが、“*学了,忘”が成立しないように、それぞれの形式の間にカンマ(発話ではポーズ)を置くことができない。したがって、形式上は一種の“紧缩结构”(緊縮構造)であると考えられる²⁾。即ち、“A了B(,)B了A”は、二つの緊縮構造が、それぞれの構成要素の順序を交互に入れ替えるかたちで並ぶことによって構成された一つの文法構造であり、重畳形式の一種であると考えられる。

この種の構造は、生産性が高いにも関わらず、未だ先行研究を見ない。また、(1)に見られるように、当該構造は、基本的にはAとBの事態の反復を表すが、例えば“吃了睡睡了吃”(食べては寝て、寝ては食べ)は、しばしば、「怠惰である」という、構成要素となる動詞がもつ以上の意味を含意して用いられる。このような事実からも、当該構造は、構造全体の意味を考察するに足る文法構造であると考えられる。また、同じく重ね型であるAABB型動詞重畳形式との用法の相違も興味深い。本章では、まず、“A了B(,)B了A”(以下、“A了BB了A”と表記する³⁾)の文法機能を分析する。次に、当該構造に用いら

¹⁾ 本章は長谷川 2015 を加筆修正したものである。

²⁾ “紧缩结构”という用語及びその定義は向若 1984:32 を参照。

³⁾ 当該構造は、“A了B”と“B了A”の間のポーズの有無が文法機能や意味の相違をもたらすという現象が観察されないため、本論では両者を分けずに議論する。

れる動詞の特徴を分析し、その典型的用法を見出し、構造全体の典型的意味を明らかにする。さらに AABB 型動詞重畳形式との比較を通して、当該構造の認知的な特徴についても考察する。

4.2. 考察対象

本章では、当該構造と AABB 型動詞重畳形式を対照するため、A と B がどちらも動詞である例を取り上げる⁴⁾。考察の対象とする実例については、まず、当該構造に実際にどのような動詞のペアが用いられた表現があるのかを《BCC 語料庫》の《文学》(文学作品、約 30 億字)と《报刊》(新聞雑誌、約 20 億字)のコーパスから検出した。ただし、その BCC コーパスでは、当該表現 1 種類当たりの実例数が少ないため、BCC で検出された一部の表現については、《新浪博客》(<http://blog.sina.com.cn/>) のブログの文章からさらに多くの実例を収集して考察した。

4.3. “A 了 BB 了 A” の文法機能

まず、“A 了 BB 了 A” が担う文法機能を考察する。当該構造は、次の(2)から(6)の“吃了睡睡了吃”及び“睡了吃吃了睡”の例のように、述語、目的語、連体修飾語、連用修飾語、補語などに用いられる。

(2) [述語]

小老鼠 整天 睡 了 吃 吃 了 睡。

小ネズミ 一日中 寝る ASP 食べる 食べる ASP 寝る

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_69cc4dc70101abuq.html

最終アクセス 2018/7/13)⁵⁾

(小ネズミは一日中食っちゃ寝食っちゃ寝していた。)

⁴⁾ “A 了 BB 了 A” には、動詞以外にも、例えば“瘦了胖胖了瘦”(痩せては太り、太っては痩せ)など形容詞が用いられる例もある。

⁵⁾ 《新浪博客》(<http://blog.sina.com.cn/>) から収集したブログの用例については、中国語母語話者のインフォーマント・チェックを受け、不自然ではないと判断された文を例文として挙げている。

(3) [“是” 目的語]

船上的日子，过得波澜不惊，一如船的航行一般稳稳当当，最多的感受就是吃了看，看了吃，周而复始循环不止，当然 更多 的人是 吃了睡 睡了吃。

当然 もっと 多い PART 人 COP 食べる ASP 寝る 寝る

了 吃。

ASP 食べる

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_d84127430101djvt.html)

最終アクセス 2018/7/13)

(船上の日々は何もなく穏やかに過ごした。まるで船の航行が穏やかなようであり、最も多くしたことは、食べては見て、見ては食べて、繰り返し続けた。当然もっと多くの人は、食べては寝て、寝ては食べてであった。)

(4) [連体修飾語]

每天 过 着 吃了睡 睡了吃 的生活。

毎日 送る ASP 食べる ASP 寝る 寝る ASP 食べる PART 生活

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_d7193fbb0101bzmb.html)

最終アクセス 2018/7/15)

(毎日食っちゃ寝食っちゃ寝の生活を送っている。)

(5) [連用修飾語]

飞机上的 12 个小时确实很无聊，……，我 几乎是 睡了吃 吃了

私 ほとんど COP 寝る ASP 食べる 食べる ASP

睡 的 到 了 目的地。

寝る PART 着く ASP 目的地

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_53c10a4d0101azbg.html)

最終アクセス 2018/7/15)

(飛行機内での 12 時間はたしかに退屈で、……私はほとんど食っちゃ寝食っちゃ寝で目的地に着いた。)

(6) [補語]

第一次，一个人回家、返校，在火车上，无聊 得 睡了吃 吃了

退屈だ PART 寝る ASP 食べる 食べる ASP

睡，甚至连吃都觉得费劲。

寝る

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_7d43426d0101m4hu.html

最終アクセス 2018/7/15)

(初めて一人で帰省して学校に戻って来た。列車では退屈で食っちゃ寝食っちゃ寝で、
食べることさえ骨が折れると感じた。)

このように、当該構造は様々な文法機能を担うが、その中でも述語として用いられることが圧倒的に多い。BCCの《报刊》コーパスから検出された表現を見ると、例えば“吃了睡睡了吃”は、27例中26例が述語として用いられ、“拆了装装了拆”(外しては取り付け、取り付けては外し)は、38例中37例が述語として用いられ、“抓了放放了抓”(捕らえては放し、放しては捕らえ)は、15例中8例が述語として用いられている。

“A了BB了A”には、更に次に挙げるような文法的特徴がある。

まず、当該構造は、次の(7)(8)のように、他動詞で構成されていても、目的語を取れず、動作主が何らかの対象に能動的に働きかける動作文には適さない。

(7) *我 学 了 忘 忘 了 学 这些 单词。

私 学ぶ ASP 忘れる 忘れる ASP 学ぶ これら 単語

(8) *我 儿子 每天 认真 地 写 了 擦 擦 了 写 字。

私 息子 毎日 真剣である PART 書く ASP 消す 消す ASP 書く 字

(7)“学了忘忘了学”(学んでは忘れ、忘れては学び)の後に目的語として“这些单词”(これらの単語)を置くことはできない。(8)も同様に、“写了擦擦了写”(書いては消し、消しては書き)の後に目的語として“字”(字)を置くことはできない。

また、当該構造が目的語になる場合は、一般に動詞は“是”であり、文全体が判断文になって、上記(3)の“当然更多的人是吃了睡睡了吃”のように、主語“更多的人”(もっと多くの人)が、“吃了睡睡了吃”の状況にあったのだという判断の表現となる。

さらに、当該構造が述語などになる場合、次の(9)のように、当該構造の末尾に“的”(下線部)が付く場合がある。

(9) 他说：“S 我 没 学 过，不 会 写”。用 橡皮 擦 了 写 写
彼 言 语 S 私 NEG 学 ぶ ASP NEG ~できる 書 く ~で 消 し ゴ ム 消 す ASP 書 く 書 く
了 擦 的，老 是 感 觉 不 满 意。

ASP 消 す PART いつも 感 觉 NEG 满 足 する

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_6c2149d10100lp9b.html)

最終アクセス 2018/7/15)

(彼は「S は学んだことがないから、書けない。」と言った。消しゴムで消しては書き、
書いては消しで、いつも満足しなかった。)

(9)の“的”は、一般に状態形容詞に後接し、状態表現を構成する接辞であり、(9)は、動作主“他”(彼)が“擦了写写了擦”の状態にあったことを描いている。

このように、当該構造は、形式上は緊縮構造が並ぶかたちで構成されてはいるが、構文的には、AABB型動詞重畳形式などと同様、それ全体が一つの構造として機能し、文の構成要素として——多くの場合は、述語として——用いられ、ある主体の動作の叙述ではなく、その主体の状況を描写するための構造として用いられている。

次節では、“A了BB了A”が表す構造的意味を分析し、当該構造がもつ状況描写性の内実を考察する。

4.4. “A了BB了A”の構造的意味

4.4.1. “A了BB了A”の動詞の順序

4.4節では、“A了BB了A”の動詞の特徴を分析し、その典型的用法を見出し、構造全体の典型的意味を明らかにする。

まず、“A了BB了A”は、常に動詞の順序を逆にした形式が成立し、意味も変わらない。例えば、次の(10)では、同一の動作主について、“吃了睡睡了吃”と“睡了吃吃了睡”という動詞の順序を逆にした二つの構造が用いられている。

(10) 有一只饥饿的小老鼠掉进了一个大米缸里，……。小老鼠 整天 睡 了 吃

小ネズミ 一日中 寝る ASP 食べる

吃了睡。虽然无聊的时候它会想想是不是该跳出这个大米缸了，可是看着满
食べる ASP 寝る

缸子的米，它实在割舍不下，也没有改变的动力和勇气，于是 接着吃

そこで 引き続いて 食べる

了睡睡了吃。(出典は(2)と同じ。(2)の上下の文脈を示した。)

ASP 寝る 寝る ASP 食べる

(ある一匹の子ネズミが大きな米びつの中に落ちた。……小ネズミは一日中食っちゃ寝食っちゃ寝していた。退屈な時にその大きな米びつから飛び出て行くべきなのかを考えてみたが、米びついっぱいの米を見て、手放すことができず、変わろうとする力と勇気も無くて、引き続き食っちゃ寝食っちゃ寝していた。)

(10)の“吃了睡睡了吃”と“睡了吃吃了睡”は、動詞の順序が逆であるが、いずれも「食っちゃ寝食っちゃ寝する」ことを表している。この二つの“A了BB了A”に見られるように、当該構造は、時間複文が本来もつ、事態が起こる一回性の時間的な前後関係を表す意味は捨象され、専らそれらの事態が時間軸に沿って何度も反復して起こることを表す。なおかつ、(10)の二つの“A了BB了A”には、小ネズミが「怠惰である」ことが含意されているように、当該構造は、通常、単に事態が反復することを表すことだけに留まらない「ある種の意味」を担って用いられる。次節以降では、“A了BB了A”に用いられる動詞の意味的特徴に着目し、当該構造が表す構造的意味を明らかにする。

4.4.2. 対立的な動詞で構成される“A了BB了A”の意味

“A了BB了A”は、それを構成する二つの動詞の意味的な関係を考察すると、一定の特徴が観察される。最も多く観察されるのは、(1)の“学了忘不了学”における“学”と“忘”のように、語彙的な意味関係として、一方の動詞が表す動作により生じる結果が、もう一方の動詞が表す動作により打ち消されるという関係にある二つの動詞で構成されるタイプである。本論では、このタイプを、「対立的な動詞で構成されるタイプ」と称する。具体的には次のような表現が挙げられる。

(11) a. 学了忘不了学 (学んでは忘れ、忘れては学び)

- b. 走了停停了走 (進んでは停まり、停まっては進み)
- c. 擦了写写了擦 (消しては書き、書いては消し)
- d. 拆了装装了拆 (外しては取り付け、取り付けては外し)
- e. 抓了放放了抓 (捕らえては放し、放しては捕らえ)
- f. 进了出出了进 (入っては出、出では入り)
- g. 戒了吸吸了戒 ([麻薬などを] やめては吸い、吸ってはやめ)

今回、考察対象とした BCC コーパスから、合計 244 種類の“A 了 BB 了 A”の例を検出したが、上記のような語彙的に対立的な意味をもつ動詞で構成される例は、約 75.4%に当たる 184 種が観察された⁶⁾。そして、それらの例の大半は、次の(12)(13)の例のように、一方の動詞が運動の〈進展〉、もう一方がその〈後退〉もしくは〈停滞〉を表し、〈進展〉と〈後退〉もしくは〈停滞〉が繰り返され、事態が一向に捗らないという状況を語る文脈で用いられる。

(12) 从周二晚上坐到周三早上 12 个小时的火车，竟然一点都不觉得累，……，只是感叹于福建省铁路事业的不发达，火车是走了停停了走，火车终于

列車 COP 進む ASP 停まる 停まる ASP 進む 列車 ついに

在 10 点钟 到达 邵武。

～に 10 時 着く 邵武

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_691dd9c30100lt1h.html)

最終アクセス 2018/7/15)

(火曜の夜から水曜の朝まで 12 時間列車に乗ったが、意外にも少しも疲れを感じない。……ただただ福建省の鉄道事業が発達していないことにため息をつくばかりで、列車は進んでは停まり、停まっては進むという調子で、ようやく 10 時に邵武に到着した。)

(13) 9 个“4”写 了 15 分钟，几乎 没有 一个 是 一 次 写 好 的，

9 CL 4 書く ASP 15 分間 ほとんど ない 1 CL COP 1 回 書く よい PART

⁶⁾ 例えば“吃了睡睡了吃”と“睡了吃吃了睡”など、動詞の順序が逆になった表現は、二種類の異なる表現として算出した。

总 要 擦 了 写 写 了 擦。

常に AUX 消す ASP 書く 書く ASP 消す

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_5407067701016mnv.html

最終アクセス 2018/7/15)

(9 個の「4」を 15 分かかって書き、一度でまともに書けたものはほとんど一つもなく、常に消しては書き、書いては消しであった。)

(12)の“走了停停了走”は、“走”が運行の〈進展〉、“停”がその〈停滞〉を表し、構造全体では、列車がそれらの動作を繰り返して、語り手が望むようには進まないという、事態が「進展し難い」状況を表している。(13)の“擦了写写了擦”も、“写”が生産的な行為を表し、“擦”がその消滅を表し、構造全体では、数字を一向に書き進めないという、やはり、事態が「進展し難い」状況を表している。

なお、ここで述べている、「事態が進展し難い」状況とは、常に、事態が一向に捗らないという語り手や動作主にとってマイナスの状況だけを意味するものではない。次の(14)では、語り手は、動作主が“拆了装装了拆”する状況を、動作主が試行錯誤を繰り返す努力の様子として述べており、好ましい状況、即ち、プラスの状況として捉えている。ただし、“A 了 BB 了 A”という構造それ自体は、技術を身に付けるまでに動作を何度も繰り返すという状況を表しており、下線部の“终于”(ついに)が示唆するように、やはり事態が「進展し難い」状況を表しているといえる。

(14) 日用化妆品小组的女营业员为了替顾客修理拉链,把 自己 的 提包 拆 了

~を 自分 PART バッグ 外す ASP

装、 装 了 拆, 终于 掌握 了 修理 技术。(BCC)⁷⁾

取り付ける 取り付ける ASP 外す ついに 身に付ける ASP 修理する 技術

(日用化粧品チームの女性店員は顧客に代わってチャックを修理するために、自分のバッグを外しては取り付け、取り付けては外し、ついに修理の技術を身に付けた。)

ただし、(13)の“擦了写写了擦”と同じく“写”と“擦”で構成される当該構造にも、次の(15)のように、「事態が一向に捗らない」という状況を表さない文脈で用いられる例が

⁷⁾(14)の“拆了装、装了拆”の“、”は出典元の BCC コーパスの記載通りに示している。

少数ながら観察される。

(15) 觉得金老师很认真负责，每个问题讲的很认真，每次写的很认真，

每次写 PART とても真剣である

写了一黑板又是一黑板，写了擦擦了写。

書く ASP いっぱいの 黑板 また COP いっぱいの 黑板 書く ASP 消す 消す ASP 書く

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_acfac67901011hef.html

最終アクセス 2018/7/15)

(金先生は真面目で責任感があり、一つ一つの問題を真剣に解説する。毎回書き方が大変真剣で、黑板いっぱいに何度も書き、書いては消し、消しては書く。)

(15)では教師が次から次へと板書を繰り返す“认真”な様子が描かれており、語り手は、事態を、「一向に捗らない」ものとして捉えているわけではない。この種の“A了BB了A”については、次節で取り上げる。

コーパスを見る限り、対立的な意味を表す動詞で構成されている“A了BB了A”は、大半が「進展し難い」という状況を表している。今回、BCC コーパスから検出した対立的な意味を表す動詞で構成される 184 種の当該構造、合計 414 例のうち、事態が一向に捗らないという状況を語る文脈で用いられている例は 372 例(約 89.9%)という圧倒的多数を占める。このことから、対立的な意味を表す動詞で構成されるタイプの“A了BB了A”は、典型的には、事態が「進展し難い」という状況を表す構造であると考えられる。

このタイプの当該構造が典型的意味として、「進展し難い」状況を表す構造であると判断することの妥当性は、このタイプが、(16b)(17b)のように、物事が滞りなく、或いは速やかに達成されるという事態を述べる文脈に適さず、逆に、(16a)(17a)のように、物事が滞りなく、速やかに達成されないという事態を述べる文脈に適するという事実によっても裏付けられる。

(16a) 我们坐的车走了停停了走，一路上总出问题。

私たち 乗る PART 車 進む ASP 停まる 停まる ASP 進む 道中 上 いつも 出る 問題

(作例)

(私たちが乗った車は進んでは停まり、停まっては進むで、道中トラブルばかりだ

った。)

(16b) *我们 坐 的 车 走 了 停 停 了 走, 一 路 上 非 常 顺 利。(作例)

私たち 乗る PART 車 進む ASP 停まる 停まる ASP 進む 道中 上 非常に 順調だ

(17a) 我 儿 子 写 汉 字 作 业 写 了 擦 擦 了 写, 每 次 都 写 到 很

私 息子 書く 漢字 宿題 書く ASP 消す 消す ASP 書く 毎 回 全 て 書 く ~ま だ と ても

晚。(作例)

遅い

(私の息子は漢字の宿題を書いては消し、消しては書くで、毎回遅くまでかかる。)

(17b) *我 儿 子 写 汉 字 作 业 写 了 擦 擦 了 写, 每 次 很 快 就 写

私 息子 書く 漢字 宿題 書く ASP 消す 消す ASP 書く 毎 回 と ても 早 い す ぐ 書 く

完。(作例)

終わる

“写了擦擦了写”などは、上記(15)のように、特に「進展し難い」状況を表さない文脈でも用いられ得るが、一般には(16a)(17a)のような、「車がなかなか進まない」という事態や「書くのに時間がかかる」という事態など、物事の達成し難い状況を語る文脈での使用に適して、反対に(16b)(17b)のような、「車がスムーズに進む」という事態や「書くのがすぐ終わる」という事態のような、物事を容易に達成できるという状況を語る文脈には適さない。

以上、対立的な動詞で構成されるタイプの“A了BB了A”の意味を考察したが、そのようなタイプの当該構造は、構造的意味として、典型的には、事態が「進展し難い」状況を表すものと考えられる。

4.4.3. 非対立的な動詞で構成される“A了BB了A”の意味

“A了BB了A”の動詞の組み合わせのタイプとしては、4.4.2節で考察した対立的な動詞で構成されるタイプが最も多く観察されるが、対立的ではない動詞で構成される例も一定数観察される。次のような例が挙げられる。

(18) a. 吃了睡睡了吃 (食べては寝て、寝ては食べ)

- b. 吐了泻泻了吐 (吐いては腹を下し、腹を下しては吐き)
- c. 吃了玩玩了吃 (食べては遊んで、遊んででは食べ)
- d. 刻了磨磨了刻 ([篆刻など] 掘っては磨き、磨いては掘り)
- e. 学了想了想了学 (学んでは考え、考えては学び)

この中で、(18a)の“吃了睡睡了吃”及び動詞の順序を逆にした“睡了吃吃了睡”の実例を見ると、それは多くの場合、「怠惰である」、「退屈である」、「することがない」といった、生活に新たな展開がないという状況を語る文脈で用いられている⁸⁾。「怠惰である」という状況を語る前掲(10)や「退屈である」という状況を語る前掲(5)(6)、「することがない」という状況を語る次の(19)がそれである。

(19) 每天 的 日子 就 是，睡 了 吃 吃 了 睡。除了每天

每日 PART 暮らし ほかでもなく COP 寝る ASP 食べる 食べる ASP 寝る

上上网看看电视其他也没啥事可做。

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_586cd0a60101c4f4.html)

最終アクセス 2018/7/15)

(毎日が食っちゃ寝食っちゃ寝だ。毎日インターネットをしたり、テレビを見たりするほかに、何もすることがない。)

(19)の“睡”や“吃”という動作は、どちらも生活に必要な最低限の動作であり、語り手は、そのような言わば生産性に乏しい必要最低限の動作ばかりを繰り返していることを述べることによって、日々取り立てて「することがない」という状況を描写している。

一方、(18b)の“吐了泻泻了吐”には、例えば次の(20)のような実例が観察される。

(20) 以前自己的肠胃一向很好，今天居然会难受的要命。真是奇怪了，看来天有不测风云，

人有祸福旦夕真是一点不错。就 这样 李浩 吐 了 泻， 泻

ほかでもなく このように 李浩 吐く ASP 肚を下す 肚を下す

⁸⁾ 大河内 1969:50 では、例えば“说说笑笑”は「話し、笑う」という具体的動作を離れて、「にぎやかな談笑のさま」を表すとして、それを「汎説」と称している。“吃了睡睡了吃”などが「怠惰である」、「退屈である」、「することがない」という状況を含意するののも一種の「汎説」と考えられる。

了 吐。慢慢的感觉自己的脑袋也有些迷糊起来。(BCC)

ASP 吐く

(以前、自分の胃腸はずっとよかったが、今日はよりによって辛くてたまらない。本当におかしい。どうやら、災いは予測できず意外な時にやってくるものだというのは全くその通りのようだ。こうして李浩は吐いたり腹を下したりを繰り返した。自分の頭も少しぼんやりとしてきたのをゆっくりと感じた。)

(20)では、文脈全体では「李浩」という人物が嘔吐と下痢が続き、そのような体調不良が一向に「改善されない」という状況が描かれている。

更に、(19)や(20)の“A 了 BB 了 A”に類する非対立的な動詞で構成される例として、“偷了吃了偷”のような例も観察される。

(21) 原来他认为，人生就是为了吃，为了 有得 吃， 吃 得 好，

～ために ～するものがある 食べる 食べる PART よい

他 就 偷， 偷了吃， 吃了偷， 越 陷

彼 ほかでもなく 盗む 盗む ASP 食べる 食べる ASP 盗む ～であればあるほど 陥る

越 深。(BCC)

ますます 深い

(もともと彼は、人生はまさに食べることが目的だと考えていた。食べるものがあり、よいものを食べるために、彼は盗みを行った。盗んでは食べ、食べては盗み、ますます泥沼にはまっていった。)

(21)の“偷了吃，吃了偷”は、動作主が、“吃”という動作を達成するために、“偷”という動作を行う一連の行為の繰り返しを述べている。つまり、人生を送るために、言い換えれば、「生きる」ために「食べる」、そして、「食べる」ために「盗む」という行為の繰り返しで、「発展性もしくは向上性がない」という状況が描かれている。

このように、非対立的な動作を表す動詞によって構成されるタイプの“A 了 BB 了 A”についても、「怠惰である、もしくは、することがない」、「状況が改善されない」、「発展性もしくは向上性がない」といったような、一言で言えば「展開のない」状況を語る文脈で用いられる例が大半を占める。今回、BCC コーパスから、このタイプの“A 了 BB 了 A”

を 60 種、合計 190 例を検出したが、そのうちの約 67.4%に当たる 128 例が、(19)(20)(21)のような「展開のない」状況、即ち「進展し難い」状況を語る文脈で用いられている。非対立的な動作を表す動詞によって構成されるタイプについても、4.4.2 節で論じた対立的な動詞で構成されるタイプと同様に事態が「進展し難い」状況を表す傾向が強いという事実が見て取れる。

ただし、非対立的な動作を表す動詞から構成される“A 了 BB 了 A”は、対立的な動詞のそれと比べて、「進展し難い」状況を含意して用いられる実例の比率がやや低くなる。例えば、(18c)の“吃了玩玩了吃”を用いた次の(22)では、“吃”と“玩”における恒常的な「繰り返し」が「人生における至上の楽しみ」とであると述べられており、事態の進展が云々されているわけではない。

(22) 64 岁的李老头，已有 30 年的乞讨史。几乎讨遍了大半个中国。他 的 信 条

彼 PART モットー

是：人 生 在 世，吃 了 玩，玩 了 吃，才 是 最 大
COP 人 生 来 的 ～に 世 食 べ る ASP 遊 ぶ 遊 ぶ ASP 食 べ る それこそ COP 最 も 大 き い
的 享 受。(BCC)

PART 楽 し み

(64 歳 の 李 じ い さ ん は す で に 30 年 の 物 乞 い 歴 が あ る 。 中 国 の 大 半 を 物 乞 い し て 渡 り 歩 い た 。 彼 の モ ッ ト ー は 、 「 人 が こ の 世 に 生 ま れ た ら 、 食 べ た り 遊 ん だ り す る こ と こ そ が 、 最 大 の 楽 し み だ 」 で あ る 。)

このように、“A 了 BB 了 A”の例で、非対立的な動作が交互に再三再四繰り返される状況を表して用いられる例は、BCC コーパスから検出した当該構造の例の約 32.6%を占める。先に 4.4.2 節の(15)に挙げた“写了擦擦了写”もこれに該当すると考えられる。“写”と“擦”は、一般的には、対立的な動作とみなすことができるが、「板書による講義」という認知的なフレームの中で捉えた場合は、一まとまりの事態の過程で起こる連続的な動作として捉えることも可能であり、そのフレームの中では、非対立的な動作であると解釈できる。前掲(15)では、教師が「書いては消し、消しては書き」、しきりに板書を繰り返す状況を描くことで、その“认真”な様子を語っている。

なお、非対立的な動詞で構成される“A 了 BB 了 A”の中で、類義動詞で構成されるタ

タイプは、極めて生産性に乏しい。今回 BCC コーパスで観察された類義動詞で構成されるタイプは、“打了闹闹了打”（争ってばかり）の 1 例だけであった。AABB 型動詞重畳形式では、池田 2013:184 によると、“指指点点”（後ろ指を指す）、“拖拖拉拉”（ずるずる引き延ばす）、“拉拉扯扯”（いちゃいちゃする）のような類義動詞で構成される例が多くある。池田 2013:184 には、このタイプの AABB 型動詞重畳形式の例が 12 例列挙されているが、それらに用いられている動詞のペアを“A 了 BB 了 A”に当てはめると、“吵了闹闹了吵”（けんかばかり）の 1 例以外は全て成立しない。次の(23)にそれらを挙げる。

- (23) a. *指了点点了指 b. *晃了悠悠了晃 c. *摇了晃晃了摇 d. *磕了绊绊了磕
e. *拖了拉了了拖 f. *遮了掩掩了遮 g. *躲了闪闪了躲 h. *偷了摸摸了偷
i. *拉了扯扯了拉 j. *推了搽搽了推 k. *挑了剔剔了挑 l. 吵了闹闹了吵

“A 了 BB 了 A”に類義動詞が入り難いのは、当該構造が本来、二つの異なる動作の交互の繰り返しがもたらすある種の状況を描くための表現形式であるからだと考えられる。このことは、当該構造を AABB 型動詞重畳形式と対照することによってより明確になると考えられるが、この点については、4.5 節で詳しく論じる。

4.4.4. “A 了 BB 了 A”の典型的な構造的意味

ここまで、“A 了 BB 了 A”を、対立的な動作を表す動詞で構成されるタイプと非対立的な動詞で構成されるタイプの二つに分けて考察した。

“A 了 BB 了 A”は 4.4.2 節で示したように、対立的な動作を表す動詞で構成される表現が、全体の約 75.4%を占め、数量的にも優勢であることや、4.4.3 節に示したように、対立的な動詞のペアとは対極に位置づけられる類義動詞で構成される表現が極めて生産性に乏しいことから、“A 了 BB 了 A”は、非対立的な動作で構成されるタイプよりも、対立的な動作で構成されるタイプの方がより典型的な表現であると考えられる。

したがって、当該構造の典型的な構造的意味は、事態の「進展し難さ」を表すことであると考えられる。そのことは、4.4.3 節で論じた非対立的な動詞で構成されるタイプにおいても、事態の「進展し難さ」を表す傾向が強いという事実からも裏付けられる。

4.5. “A了BB了A”とAABB型動詞重疊形式の認知的意味の相違

4.4節で論じたように、“A了BB了A”は、事態の一回的な時間的順序の叙述ではなく、事態が反復して起こる状況を描く表現形式であり、状況描写のための形式であるといえる。一方、AABB型動詞重疊形式も、例えば“走走停停”（動いては停まる）など、事態の反復を表し、描写性の高い表現であるとされる。では、当該構造とそれとはどのような相違があるのか。本節では、“A了BB了A”とAABB型動詞重疊形式の意味の違いを認知的な観点から考察する。

“A了BB了A”とAABB型動詞重疊形式は、ともに事態が反復する様子を描写するが、それぞれが描く反復は、それを捉える話し手の認知的な視点においてタイプを異にする。池田 2013:189 は、例えば、“进进出出”（出入りする）を「全体描写」に特化した表現として特徴づけ、次のような例を挙げている。

(24) (……) 人们在 休息室 进 进 出 出，咬着蛋卷冰激凌侧身在狭窄的座位排间

人々 ~で 休憩室 入る 入る 出る 出る

找座位号，(……)。(池田 2013:190)

(人々は休憩室を出入りし、クレープアイスを啜えながら狭い座席の間を半身になって座席番号を探している。)

(24)の“进进出出”は、複数の人々が、一人一人休憩室を出入りする様子ではなく、全体として、無秩序に休憩室を出入りする様子を描くために用いられている。池田 2013:185 は、このような複数の動作主が無秩序に繰り返す動作の描写を「全体描写」と称している。一方、“进了出出了进”は一般に、「全体描写」には用いられない。(24)の“进进出出”を、次のように“进了出出了进”に置き換えた(24)'は、不自然な表現となる。

(24)' ? (……) 人们在 休息室 进 了 出 出 了 进，咬着蛋卷冰激凌侧身在狭窄

人々 ~で 休憩室 入る ASP 出る 出る ASP 入る

的座位排间找座位号，(……)。

“进了出出了进”及び動詞の順序を逆にした“出了进进了出”は、次の(25)(26)の例の

ように、一つ一つの個体が「出ては入って、入っては出て」という状況を描く。

(25) 记得有一次，我开车还很不熟练的时候，在一个极其繁忙的不太宽的马路上倒停车。

我左拐右拐，出了进进了出，就是停不好，……。

よい

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_4b2cb672010099in.html

最終アクセス 2018/7/15)

(ある時、私がまだ車の運転に慣れていない頃、車の往来が頻繁でありあまり広くない通りで、車をバックで止めようとした。私は左にきったり右にきったり、出ては入り、入っては出てといった具合で、どうしても上手く止められなかった。)

(26) 人们都知道列宁纪念堂预建的初时候，柳县长是专程带着工匠到北京去了一趟的，用

整一天的时间一遍遍地参览毛主席的纪念堂，进了出，

丸ごと1日 PART 時間 1 回回 PART 見学する 毛主席 PART 記念堂 入る ASP 出る
出了进，每个人都最少进出七八遍，……。 (BCC)

出る ASP 入る 毎 CL 人 みな 少なくとも 出入りする 7 8 回

(皆知っているが、レーニン記念堂建設の準備段階の頃、柳県長は、職人を連れて一度北京を訪れ、丸一日かけて、毛主席の記念堂を一回また一回と繰り返し見学させた。入っては出、出ては入って、各々が少なくとも7、8回出入りした。)

(25)は“我”(私)という一人の人物が停車が上手く捗らず、“出了进进了出”する様子が描かれている。池田 2013:181 では、このような描写を、前述の「全体描写」に対して、「個体描写」と称している。

一方、(26)は、“进了出，出了进”の動作主が柳県長と複数の職人たちではあるが、後ろの文脈に“每个人都最少进出七八遍”(各々が少なくとも7、8回出入りした)とあるように、彼ら一人一人が各々記念堂を出入りする様子が描かれているのであり、彼らが全体として無秩序に出入りする様子が描かれているわけではない。池田 2013:185 によると、この種の描写も「個体描写」として捉えられる。今回、《新浪博客》から、“进了出出了进”

及び“出了进进了出”の実例を58例検出したが、全て「个体描写」に該当する⁹⁾。このように、“进了出出了进”及び“出了进进了出”は、「全体描写」に特化した表現とされる“进出出”とは異なり、一般に一つ一つの個体が「出ては入り、入っては出る」という状況を描く表現であるといえる。

このほか、“来来去去”（行ったり来たりする）も、次の(27)(28)のように「全体描写」に用いられる場合があるが、それを“来了去去了来”（来ては去って、去っては来て）に置き換えた(27)′(28)′は不自然な表現となる。

(27) 如今，它已成为繁华的城市新区，整幢整幢的高楼里，教授、老板、上班族们

教授 社長 サラリーマンたち

来 来 去 去。(BCC)

来る 来る 行く 行く

(今では、それはすでににぎやかな都市新区になっており、一棟一棟のビルの中を、教授、社長、サラリーマンたちが行き交っている。)

(28) 在 大路上，许多 农民们 牵 着自己的 耕牛，**来 来 去 去。**

～で 大通り 上 多い 農民たち 引く ASP 自分 PART 耕作用の牛 来る 来る 行く 行く

他们在路上愉快的招呼着。(BCC)

(大通りでは、多くの農民たちが自分の耕作用の牛を引いて、行き来している。彼らは道で楽しそうに挨拶を交わしている。)

(27)′ ?如今，它已成为繁华的城市新区，整幢整幢的高楼里，教授、老板、上班族们

教授 社長 サラリーマンたち

来 了 去 去 了 来。

来る ASP 去る 去る ASP 来る

(28)′ ?在 大路上，许多 农民们 牵 着自己的 耕牛，**来 了 去 去**

～で 大通り 上 多い 農民たち 引く ASP 自分 PART 耕作用の牛 来る ASP 去る 去る

了 来。他们在路上愉快的招呼着。

ASP 来る

⁹⁾ “进了出出了进”及び“出了进进了出”の実例は、間にカンマ（ポーズ）のない例に絞って検出した。調査日は2015年2月10日である。

(27)の“来来去去”は、教授、社長、サラリーマンたちが全体で無秩序に行き交う様子を描くために用いられている。(28)の“来来去去”も多くの農民たちが全体で無秩序に行き交う様子を描くために用いられている。このような「全体描写」には、“来了去去了来”は適さない。“来了去去了来”は、一般には次の(29)(30)の例のように、一つ一つの個体が「来ては去る」という状況を表し、複数の動作主が無秩序に「行き来する」という状況には用いられない。

(29) 紅毛城、安平堡 就 像 一个 历史 舞台， 洋人、明人、

紅毛城 安平古堡 ほかでもなく ~のようだ 1 CL 歴史 舞台 西洋人 明代の人々

清人 来了去去了来，城堡修了废废了修，直到彻底变成了废墟，

清代の人々 来る ASP 去る 去る ASP 来る

她的历史价值、文化价值、商业价值才被最大化利用起来。

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_642d1a7f0101dcma.html

最終アクセス 2018/7/15)

(紅毛城、安平古堡はさながら歴史の舞台のようであり、西洋人、明代の人々、清代の人々が来ては去り、去っては来、城は直しては荒れ果て、荒れ果てては直し、完全に廢墟になって、その歴史価値、文化価値、商業価値がようやく最大限に利用され始めた。)

(30) 清晨的河滨公园很是热闹，南明河畔、荷花池边，是一群晨练的人们。……。从

~から

1988年 开始，晨练点的老人们来了去去了来，最多

1988年 始まる 早朝練習場 PART お年寄りたち 来る ASP 去る 去る ASP 来る 最も多い

时有 400 多人，少时也有 200 来人。(BCC)

時 いる 400 余人 少ない時 ~も いる 200 ほど人

(早朝の河浜公園はとてにぎやかで、南明河畔、ハス池の畔は、一団一団の早朝練習の人々であふれている。……1988年から、早朝練習場のお年寄りたちは来ては去って、去っては来てで、最も多い時には 400 人余り、少ない時でも 200 人ほどであった。)

(29)は、紅毛城や安平古堡に、まず西洋人が来たが去って、次に明代の人々が来たが去

って、次に清代の人々が来たが去ったというように、西洋人、明代の人々、清代の人々がそれぞれ、言わば一つ一つの個体として、紅毛城や安平古堡に来ては去った状況が描かれ、彼らが無秩序に行き来する状況が描かれているわけではない。

一方、(30)は、下線の前の文脈に“一群群晨练的人们”（一団一団の早朝練習の人々）とあるように、お年寄りたちが一つ一つのグループとして、早朝練習場に毎朝来ては去って、去っては来るという状況が描かれており、彼らがその場所を無秩序に行き来している状況を表しているわけではない。

このように、“A 了 BB 了 A”は、複数の動作主が無秩序に繰り返す動作の描写には適さない。当該構造がこのような描写に適さないのは、この構造が、時間軸に沿って繰り返し行われる一回一回の動作の〈集積〉として捉えられた一つの〈状況〉を表す形式であるからだと考えられる。“A 了 BB 了 A”の“了”は、言うまでもなく完了を表す動詞接辞であり、当該構造は、一方の動作が実現したあとにもう一方の動作が起こることを明示する形で構成されている。即ち、“A 了 BB 了 A”とは、時間軸に沿った順次走査（sequential scanning）の視点で捉えた一回一回の反復動作の連鎖によって〈集積〉された一つの〈状況〉を描写するための形式であるといえる¹⁰⁾。一方、AABB型動詞重畳形式は、形容詞の重畳形式と同型からも覗えるように、事態を総括走査（summary scanning）の視点で捉え、時間性を捨象した一まとまりの〈様態〉として描写するための形式であると考えられる。

“A 了 BB 了 A”が、順次走査の視点から事態を捉え、一回一回の反復動作の連鎖によって形成される状況を描写する表現であることは、類義動詞が当該構造に適応し難いという事実からも明らかである。4.4.3節で論じたように、AABB型動詞重畳形式は類義動詞を受け入れ、例えば“拉拉扯扯”が「いちゃいちゃする」様子、“拖拖拉拉”が「ずるずる引き延ばす」様子を表すというように、それを構成する動詞がもつ語彙的意味以上の意味を獲得して成立しているが、“A 了 BB 了 A”は類義動詞で構成される表現が生産的に成立しない。このことは、“A 了 BB 了 A”が、元来異なる動作が一回一回交互に繰り返される過程を捉えた表現であることの現れであると考えられる。

なお、類義動詞で構成されているにも関わらず、4.4.3節に示した“吵了闹闹了吵”や“打了闹闹了打”が成立するのは、次の(31)(32)のように、構造全体で「けんかばかり」、「争いばかり」という状況を表し、構成する動詞“吵”（言い争う）、“闹”（けんかする）、“打”

¹⁰⁾ 走査（scanning）の概念は、Langacker2008:108-112を参照。

(戦う) の原義を保って順次走査され、それらが時間軸に沿って一回一回繰り返り返し起こる状況を表すからであると考えられる。

(31) 我们 经常 是 这样 的, 经常 吵 了 闹 闹 了

私たち いつも COP このような PART いつも 言い争う ASP けんかする けんかする ASP 吵, 可是 每次 最先 低头 的 从来 都 是 我, 凭什么会这样, 言い争う でも 毎 回 真 っ 先 頭 を 下 げ る PART これまで 全て COP 私 我再也不了。

(新浪博客 http://blog.sina.com.cn/s/blog_4dc99b8101000ah5.html

最終アクセス 2018/7/15)

(私たちはいつもこうで、いつもけんかばかりで、でも毎回最初に頭を下げるのは私で、どうしてこうなるのだろうか。もうそうしないようにしよう。)

(32) 这 历朝历代, 打 了 闹, 闹 了 打, 这么 折腾 哪 有

これ 歴代王朝 戦う ASP けんかする けんかする ASP 戦う このように 繰り返す どの ある 个 头 儿。(BCC)

CL 終わり

(この歴代王朝は争いばかりで、このような繰り返しに、どうして終わりがあるだろうか。)

4.6. まとめ

本章では、“A 了 BB 了 A” の文法機能と構造的意味を考察した。その結果、“A 了 BB 了 A” は、形式的には時間関係を表す緊縮構造によって構成されているが、動作や過程の時間的順序に沿った一回性の実現の叙述ではなくて、典型的には、動作や過程が何度となく繰り返し実現を重ね一向に「**事態が進展し難い**」という状況を描写する表現であることを明らかにした。

大河内 1969:42-49 では、重畳形式は、その構成要素が形態論上、品詞論上、或いは統語論上如何なる性格のものであれ、その主たる役割は総じて状況描写の表現を構成することにあると論じられている。本章が取り上げた、統語上は緊縮構造である“A 了 B” の重畳によって構成される“A 了 BB 了 A” もまた状況描写のための重畳形式の一種であると

考えられる。

終章 本研究のまとめと今後の課題

本論では、現代中国語の複文の中で、接続詞“如果”、“要是”を用いる条件文の拡張過程、条件文の接続詞の談話機能、限定選択構文が表す事態の特徴や表現機能、また時間関係を表す“A了BB了A”の文法機能や構造的意味などを考察した。以下に簡単にまとめる。

まず、第一章では、仮定複文の中で、接続詞“如果”、“要是”を用いた二つの条件文を取り上げ、これまで論じられてこなかった、それらの典型的用法から周辺の用法への拡張過程を分析した。それらの構文は、まず実現不確定な事態や反事実的事態の仮定を表す典型的用法から、習慣的事態や時間関係を表す条件提示の用法へと拡張する。条件提示の条件文の前節は、現実世界で起こり得る2つの事態から1つの事態が選ばれて提示される〈**条件選択性**〉を有する。さらに“要是”文については、条件提示用法から、メタファーによる話題提示の用法への拡張がみられる。接続詞“要是”には、談話の話題を提示する談話マーカとしての機能がみられ、話題提示の条件文の前節は、談話世界における2つ以上の話題から1つの話題が選ばれて提示される〈**話題選択性**〉を有する。

第二章では、条件文において、“如果”、“要是”などの接続詞が如何なる場合に用いられるのか、或いは用いられないのかを、文が表す事態の特徴に照らして考察した。条件文の接続詞の使用の可否には、話し手の事態の実現可能性に対する認識が関わる。一般に、反事実など、実現性が低い事態には接続詞が用いられ、逆に、実現前提、パタン化した事態、原理原則など、事態の実現性が高い事態には接続詞が用いられない。ただし、事態の実現性の高い条件文にも接続詞が用いられる場合があるが、それらの接続詞の一部は、聞き手が予測し難い「条件」が談話に導入されることを、聞き手に対して喚起する〈**条件導入喚起**〉の談話機能を担っている。

第三章では、選択複文の中で、二者択一の選択を表す三つの限定選択構文について、各構文が表す事態の特徴及び表現機能の相違について考察した。限定選択構文が表す事態は、一回的事態と恒常的状態の大きく二つに分けることができる。“要不 A 要不 B”は、邢福义 2001:258-263 によると、一般に“意欲性选择”（意欲的選択）という一回的事態を表すのみに用いられるとされるが、コーパスの例を観察した結果、恒常的な状態も表すことが分かった。ただし、恒常的状態の中で属性については表し難い。“要么 A 要么 B”は、一回的事態と恒常的状態のいずれも表すが、選択項に直接名詞句を置くことができないとい

う点で、属性を示すことについて一定の制限がある。“不是 A 就是 B”は、他の二つの構文と異なり、一回的事態を表すことに制限があり、採るべき行為の選択肢を提示するというタイプの選択には用いられない。当該構文は判断動詞“是”を含む構文であり、典型的には「どちらかの事態に〈なる〉」という恒常的状态を表す。

一方、限定選択構文の表現機能については、まず主に“要不 A 要不 B”と“要么 A 要么 B”によって表される一回的事態を表す文では、一般に選択項に対立的事態が置かれ、緊迫した二者択一の選択が表されることが多い。一方、恒常的状态を表す文では、選択項に一般に同類的事態が置かれ、構造全体で一まとまりの状态が表される。特に“不是 A 就是 B”の状态を表す文では、その多くが話し手（語り手）にとって好ましくないと認識される状态を表す。

第四章では、時間関係を表す文の中で、これまで論じられてこなかった、二つの時間関係を表す緊縮構造が重なった構造である“A 了 BB 了 A”という構造を取り上げ、その文法機能や構造的意味を考察した。考察の結果、“A 了 BB 了 A”は、形式上は時間関係を表す緊縮構造の“A 了 B”（A したあと B する）が重ねられた構造ではあるが、文字通りの一回性の〈動作〉を叙述するものではなく、典型的には、「事態が進展し難い」状況を描写する表現形式であることを明らかにした。また、当該構造と AABB 型動詞重畳形式を対照すると、AABB 型動詞重畳形式は、事態を総括走査の視点で捉え、複数の動作主が無秩序に繰り返される動作の反復を、一まとまりの〈様態〉として描写する形式であるのに対して、“A 了 BB 了 A”は、事態を順次走査の視点で捉え、繰り返し行われる一回一回の動作の〈集積〉として形成される一つの〈状況〉を描写する表現であると考えられる。

以上、各章を簡単にまとめた。本論の中で、第二章では、“如果”などの条件文の接続詞が、パタン化した事態や原理原則など、現実ですでに恒常的に実現し、事態の実現性が高い事態には、一般に接続詞が用いられないことを明らかにした。一方、第一章では、“如果”文と“要是”文の考察の中で、習慣的事態や“如果…的时候 / 时”の形式で時間関係を表す周縁的用法が見られ、それらが典型的には現実ですでに恒常的に実現している事態を表すことを示した。第二章の分析に基づけば、そのようなすでに恒常的に実現している事態を表す文には接続詞が不要なはずである。それでは、そのような文の接続詞は如何なる機能を果たしているのであろうか。第一章で挙げた習慣的事態を表す(18)、時間関係を表す(32)の例を文脈も含めて以下に再掲し分析する。

(1) 等 天 一 亮, 太阳 升 起 来, 好 招揽 到 通惠河 上
 ～してから 空 ～すると 明るくなる 太陽 昇る COM COM ～し易い 招き寄せる ～に 通惠河 上
钓鱼 打鸟 的 游客。如果 没有 游客 雇船, 他们 就 拨 转
 魚を釣る 鳥を撃つ PART 旅客 ruguo ない 旅客 船を雇う 彼ら すぐ かき分ける 回る
船头, 直 放 运河, 到 运河 上 撒网 打鱼, 卖 给 码头 上 的
 へさき まっすぐ 出す 運河 着く 運河 上 網を打つ 魚を取る 売る ～に 埠頭 上 PART
鱼行, 太阳 落 山 才 收 船 回 家。(刘绍棠《渔火》)

魚屋 太陽 沈む 山 やっと しまう 船 帰る 家

(空が明るくなり、太陽が昇ると、通惠河で魚を釣ったり鳥を撃ったりする旅客が簡単
につかまえられる。もし船を雇う旅客がいなければ、彼らはへさきを回し、まっすぐ
運河に出して、網を打って魚を取り、埠頭の魚屋に売って、太陽が山に沈んでからよ
うやく船を岸につけて家に帰る。)

(2) 人 的 发 音 动 力 以 肺 为 中 心, 包 括 与 呼 吸 有 关 的 器 官
 人 PART 発声 動力 ～をもって 肺 ～とする 中心 含む ～と 呼吸 関係がある PART 器官
和 组 织。肺 的 作 用 就 像 一 只 产 生 空 气 动 力 的
 ～と 組織 肺 PART 作用 ほかでもなく ～のようである 1 CL 生産する 空気動力 PART
风箱, 在 周 围 肌 肉 组 织 的 带 动 下 作 扩 张 或 收 缩 运 动, 形 成 气 流
 ふいご ～で 周围 筋肉組織 PART 動かす 下 する 拡張 或いは 収縮 運動 形成する 気流
的 进 出。气 流 经 过 气 管 到 达 喉 部, 促 使 声 带 振 动, 发 出 声 音。(a) 平 时
 PART 出入りする 気流 通る 気管 達する 咽喉 促す 声帯 振動 発する 声 普段
聊 天 小 声 说 话 时, 只 需 要 在 肺 的 上 部 保 留 少 量 空 气,
 世間話をする 小声 話をする 時 ～だけ 必要とする ～に 肺 PART 上部 残す 少量 空気
轻 轻 呼 吸 就 可 以 了。(b) 但 如 果 大 声 说 话 和 演 讲 时, 就 需 要
 軽く 呼吸する すぐ よい SF しかし ruguo 大声 話をする と 講演する 時 すぐ 必要である
深 呼 吸。(CCL)

深呼吸

(人間の発声の動力は肺が中心で、呼吸と関係する器官と組織を含む。肺の機能は空気
動力を生産するふいごのようなもので、周囲の筋肉組織によって拡張と収縮運動をし、
気流の出入りを形成する。気流は気管を通過して咽喉に達し、声帯の振動を促し、声を

出させる。(a)普段会話で小さい声で話す時は、肺の上部に少量の空気を残すだけでよく、軽く呼吸すればよい。(b)しかし、もし大声で話をしたり講演をしたりする場合は、深い呼吸が必要である。)

(1)は、“如果”文の直前の波線部に、「魚を釣ったり鳥を撃ったりする旅客が簡単につかまえられる」とあり、現実にはたくさんの旅客がいることが談話の前提となる。ところが、その直後の“如果”文前節では、その前提に反する「船を雇う旅客がいない」ことが示されており、談話の前提からは予測し難い事態である。したがって、この接続詞“如果”は、第二章で論じたように、**〈条件導入喚起〉**の談話機能を担うものと考えられる。

一方、(2)は、肺が気流を生み、その気流が発声を促すという発声のメカニズムが談話の前提となる(波線部)。当該構造の直前にある(a)の時間関係の文では、「普段会話で小さい声で話す」場合に必要な呼吸が説明されているが、発声の一般的なメカニズムの説明という談話の前提に基づくと、「普段会話で小さい声で話す」という条件の導入は想定し易いものである。一方、その後の当該構文(b)の前節「大声で話をしたり講演をしたりする」という条件は、談話の前提からは(a)よりも予測し難い事態である。このより予測し難い事態の方に接続詞“如果”が付加されている。したがって、この接続詞も、**〈条件導入喚起〉**の談話機能を担っていると考えられる。

このように、第一章で論じた“如果”文、“要是”文の中で、習慣的事態や時間関係を表す文に用いられる接続詞は、少なくともその一部は、第二章で論じたように、**〈条件導入喚起〉**機能を有し、談話機能上の必要性により付加されたものと考えられる。

ところで、第三章で論じた限定選択構文の中で、“不是 A 就是 B”は、本来「A でなければ B だ」という条件文の形式であり、次のように、“如果”など条件文の接続詞が付加されることがあることが知られている(邢福义 2001:259)。

(3) 有识之士 认为: 以 如此 低廉 的 价格 销售 “乳癖消片”, 如果 不是 用料
有识者 考虑的 ~で このように 安い PART 価格 売る 乳癖消錠剂 ruguo bushi 材料
有 假, 就是 不 计 成本 倾销。 (CCL)
ある 偽である jiushi NEG 勘定する コスト 投げ売りする
(有識者は、そのように安価で売られている「乳癖消錠剤」は、もし材料が偽物でなければ、コストを無視した投げ売りだと考えている。)

ただし、次のような“要是”を置いた“要是不是 A 就是 B”という形式は一般にはないようである。

(3) 要是 不是 用料 有 假, 就是 不 计 成本 倾销

yaoshi bushi 材料 ある 偽である jiushi NEG 勘定する コスト 投げ売りする

それでは、接続詞“如果”が付く“不是 A 就是 B”は、第一章で考察した条件文の拡張過程の中で、どこに位置づけられるのであろうか。第一章では、条件文が、次の(4)のような典型的用法から(5)のような条件提示用法に拡張することを論じた。

(4) 你 要是 客气, 我 就 不 进 去 了。(王朔《橡皮人》)

あなた yaoshi 気を使う 私 すぐ NEG 入る 行く SF

(あなたがもし気を使うなら、私は入るのはよそう。)

(5) 嗯, 人们 要是 刮, 刮 起 风 来 啊, 人们 都 得

INTJ 人々 yaoshi 吹く 吹く COM 風 来る MOD 人々 みな ~しなければならない

戴 上 纱巾。(《北京口语语料》东城)

かぶる COM スカーフ

(ええ、もし吹いて、風が吹いてきたら、人々はみなスカーフをかぶらなければならない。)

(4)は話し手が前節の事態を仮に実現したと仮定し、後節でその結果起こり得る事態を表すという条件文の典型的用法であるが、(5)は話し手の現実世界ですでに習慣的に生起する事態を表し、その前節は、現実には起こっている「風が吹いてくる」と「風が吹いてこない」という二つの事態から、後節の事態「人々はみなスカーフをかぶる」が成立する一つの〈場合〉として〈条件提示〉されている。

第三章では、“不是 A 就是 B”が、次の(6)のように、典型的には恒常的状态を表すことを明らかにしたが、当該構文に接続詞“如果”が付いても、同様に次の(7)のように恒常的状态を表す。

(6) 孩子 放学 回家, 不是 做作业 就是 看电视, 接触 自然 的 机会
子供 授業が終わる 帰る 家 bushi する 宿題 jiushi 見る テレビ 触れる 自然 PART 機会
極 少。(BCC)

極めて 少ない

(子供は授業が終わって家に帰ると、宿題をするかテレビを見るかで、自然に触れる機会が極めて少ない。)

(7) 应当指出, “中国威胁” 论 的 编造者 如果 不是 不 了解 中国, 就是
中国脅威論 PART でっち上げた人 ruguo bushi NEG 理解する 中国 jiushi
别 有 用心。(CCL)

ほかに ある 下心

(指摘すべきは、「中国脅威」論をでっち上げた者は中国を理解していないか、ほかに企むところがあるかだ。)

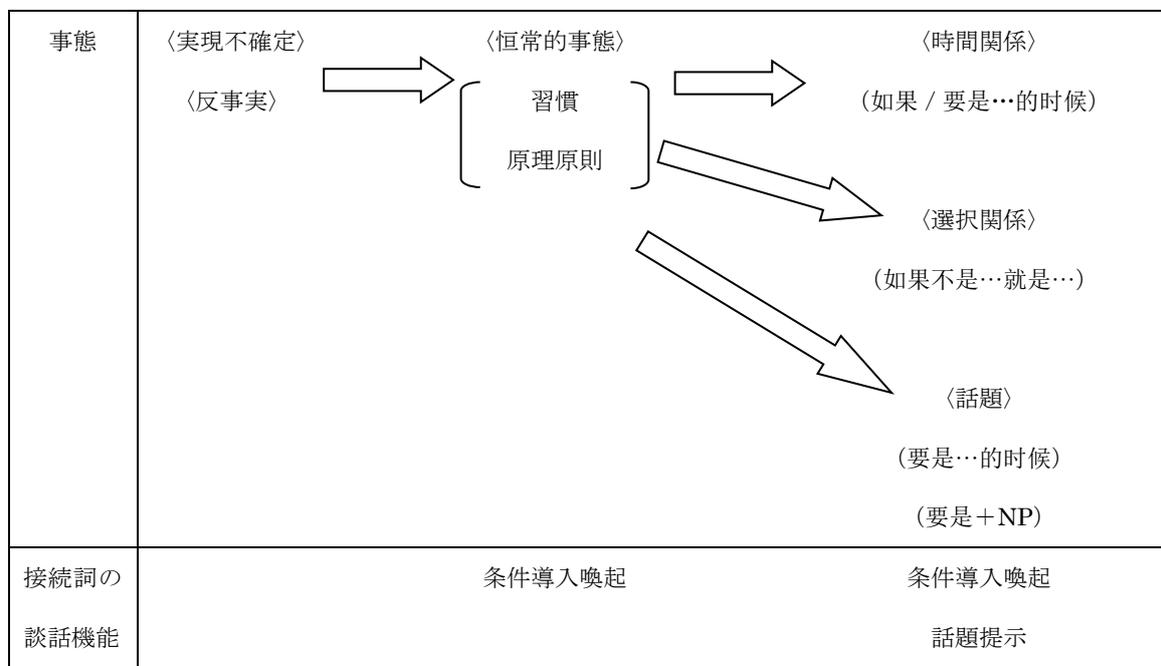
(7)の“如果不是 A 就是 B”の選択項は、中国脅威論をでっち上げている人の属性を表している。また、上記(3)の“如果不是 A 就是 B”の選択項も安価で売られている「乳癖消錠剤」の属性を表している。(3)(7)ともに恒常的状态を表している。

(6)の“不是 A 就是 B”では、語り手の現実世界で、子どもが帰宅後に、「宿題をする」と「テレビを見る」という二つの事態が起こっていて、前節ではその一つの「宿題をする」が〈条件選択〉されていると解釈できる。同様に、(7)の“如果不是 A 就是 B”も語り手の現実世界では、中国脅威論をでっち上げた人の属性が、「中国を理解していない」か「ほかに企むところがある」かであり、前節ではその一つの「中国を理解していない」が〈条件選択〉されていると解釈できる。したがって、接続詞“如果”が付く限定選択構文“不是 A 就是 B”は、第一章で論じた条件文の拡張過程の中では、周辺の用法である条件提示用法から選択を表す文として拡張したものと見なすことができる。

以上のように、中国語の代表的な条件文である“如果”文、“要是”文は、以下の図のように、典型的用法から周辺の用法へ放射状のカテゴリーを示す。即ち、“如果”文、“要是”文は、まず実現不確定や反事実などの事態を表す典型的用法から、習慣的事態、原理原則など、現実世界における恒常的事態を表す条件提示用法の文に拡張する。さらに、“如果”文については、恒常的事態を表す文から選択関係を表す文への拡張がみられ、一方、“要是”文については恒常的事態を表す文から話題提示用法への拡張がみられる。周辺の用法の接

続詞の一部は、談話機能上の必要性から付加されており、〈条件導入喚起〉や、“要是”文の話題提示用法においては談話の話題を提示する機能を有する。

図：“如果”文、“要是”文の拡張過程



以上、本論では、中国語の仮定複文、選択複文、時間複文における構文や構造の典型的意味や拡張過程、表現機能などを考察してきたが、中国語の複文については、残されている問題も少なくない。例えば、本論では、条件と時間や選択との重なりを考察したが、次のような、因果関係と時間関係の類似性も興味深い。

(8) 襲人 見 了 自己 吐 的 鲜血 在 地, 也 就 冷 了 半截。

襲人 見る ASP 自分 吐く PART 鲜血 ある 地面 ~も すぐ 冷える ASP 半分

(王力 1943:119)

(襲人は自分が吐いた真っ赤な血が地面にあるのを見て、肝が半分冷えた。)

王力 1943:119 は(8)のように前節に“見”などの語句がある場合は、“因”、“所以”などの因果関係を表す接続詞がなくても、因果関係を表す文となり、そのような文は、時間関係を表す文と類似することを指摘している。それでは、因果関係と時間関係は如何なる事態を表す場合に両者が重なり合うのであろうか。

また、第二章では、条件文の接続詞の使用条件として、話し手の事態の実現可能性に対する認識や、談話に導入される条件の予測可能性が関わることを明らかにした。それでは、他の複文の接続詞には如何なる使用条件があるのであろうか。先行研究では、“因为”、“所以”などの因果複文に用いる接続詞の使用条件について、郭继懋 2004、高再兰 2013、张文贤 2017:51-94、徐燕青 2017、王静 2019 などにおいて考察されている。例えば、高再兰 2013:58 では、前置“因为”は、次の例のような、節と節の間に時間の前後関係が無い場合には、必ず用いられるとしている¹⁾。

(9) 因为 感冒，小王 今天 放弃 比赛 了。(高再兰 2013:58)

yinwei 風を引く 王先生 今日 諦める 試合 SF

(風邪を引いたので、王先生は今日試合に出るのを諦めた。)

高再兰 2013:58 によると、(9)の前節“感冒”は事物の状態を描写する描写文であり、動態的な出来事を表していないため、後節と直接時間的な前後関係を構成することができない。このような場合は、接続詞“因为”が必要であるということである。また、张文贤 2017:64-65 は、後置“因为”によって導かれる帰結節の論拠は、真理や名言、事実など、普遍的に認知、受容されている事柄であり、一般によく知られていない事柄は論拠にし難いため、そのような事柄には接続詞“因为”は付加されないということを指摘している。また、王静 2019:73-76 では、“所以”を省略することができる条件として、帰結節がある程度の長さがあるなど“足够复杂”(十分に複雑である)ことが前提条件であり、その上で、前後の節の主題が同一であることや結果節に“就、便、也、才”などの接続副詞があることなどの省略できる条件を挙げている²⁾。

このように、因果関係を表す接続詞の使用条件については、いくつかの先行研究が見られる。しかし、その他の接続詞の使用条件に関する先行研究は、管見の限り、ほとんど見られない。例えば、譲歩複文に用いられる接続詞“即使”については、徐阳春 2002:152 の“即使 P, 也 Q”構文の記述の中で、“如果分句之间的让步语义明显, “即使”可以省略”

¹⁾ 周知の通り、中国語の因果複文には、“因为 P, 所以 Q”(P なので Q だ)などの形式で、「原因—結果」という語順を取る場合と、“之所以 Q, 是因为 P, ”(Q なのは、P だからだ)などの形式で、「結果—原因」という語順を取る場合がある。前者に用いられる“因为”を「前置“因为”」、後者に用いられる“因为”を「後置“因为”」と称する。

²⁾ 王静 2019 では、それらの語を“表示承接意义的连词”(接続の意味を表す接続詞)としているが、本稿では、一般的な解釈に従って、「副詞」と考える。

(もし節の間の譲歩の意味がはっきりしていれば、“即使”は省略できる)と述べられているだけである。仮定、因果複文以外の複文に用いられる接続詞には、如何なる使用条件があるのだろうか。さらに、中国語の接続詞は全体として如何なるメカニズムで使用されるのだろうか。

以上のような課題を今後の課題としたい。

参考文献一覧

〈日本語〉

- 相原茂 1982. 「中国語の複句」, 寺村秀夫他編『講座日本語学 11 外国語との対照Ⅱ』:240-258 頁。東京:明治書院。
- 有田節子 2006. 「条件表現研究の導入」, 益岡隆志編『シリーズ言語対照 6 条件表現の対照』:3-28 頁。東京:くろしお出版。
2001. 「条件文研究の最近の動向」, 『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』第 9 号:57-84 頁。
1999. 「プロトタイプから見た日本語の条件文」, 『言語研究』 115:77-108 頁。
- 長谷川賢 2009. 「北京口語における条件文の周辺の用法」, 『中国語学』 256:106-121 頁。
2011. 「条件文における接続詞の使用条件と談話機能」, 『中国語学』 258:174-193 頁。
2015. 「“A 了 BB 了 A” の意味と文法機能」, 『中国語学』 262:187-205 頁。
2018. 「中国語の限定選択構文の典型的用法と表現機能」, 立命館大学法学会編『ことばとそのひろがり(6)―島津幸子教授追悼論集一』: 505-524 頁。
- 池田晋 2013. 「AABB 型動詞重畳形式の形態と意味」, 木村英樹教授還暦記念論叢刊行会編『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』: 177-196 頁。東京:白帝社。
- 益岡隆志 1997. 『複文』。東京:くろしお出版。
- 森田良行 1990. 『日本語学と日本語教育』。東京:凡人社。
- 尾谷昌則・二枝美津子 2011. 『講座 認知言語学のフロンティア②構文ネットワークと文法―認知文法論のアプローチ』。東京:研究社。
- 大堀壽夫 2002. 『認知言語学』。東京:東京大学出版会。
- 大河内康憲 1967. 「複句における分句の接続関係」, 『中国語学』 176:1-12 頁。
1969. 「重畳形式と比況性連合構造」, 『大阪外国語大学学報』 第 21 号:41-58 頁。
1997. 『中国語の諸相』。東京:白帝社。
- 太田辰夫 1958. 『中国語歴史文法』。東京:江南書院。
- 定延利之 2006. 「資源としての現実世界」, 益岡隆志編『シリーズ言語対照 6 条件表現の対照』:197-215 頁。東京:くろしお出版。

- 島津幸子 2004. 「“一 A 就 B” 形式と“刚 A 就 B” 形式」, 『中国語学』 251:136-155 頁。
2006. 「“一 A 就 B” 形式の構文的意味」, 『お茶の水大学中国文学会報』 第 25 号:19-34 頁。
2012. 「“一 A 就 B” 構文の非プロトタイプの意味」, 立命館大学法学会編『ことばとそのひろがり(5)—竹治進教授退職記念論文集—』:141-163 頁。
- 寺村秀夫 1992. 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』。東京:くろしお出版。
- 鳥井克之 1995. 『中国文法学説史』。大阪:関西大学出版部。
- 和佐敦子 2006. 「スペイン語と日本語の条件表現—叙法と時制の観点から—」, 益岡隆志編『シリーズ言語対照 6 条件表現の対照』:197-215 頁。東京:くろしお出版。

〈中国語〉

- 艾皓德 1991. 「近代汉语以“时”熬尾的从句」, 『中国语文』1991 年第 6 期:451-459 页。
- 陈国华 1988. 「英汉假设条件句比较」, 『外语教学与研究』 1988 年第 1 期: 10-18 页。
- 方梅 2000. 「自然口语中弱化连词的话语标记功能」, 『中国语文』 2000 年第 5 期: 459-470 页。
- 高再兰 2013. 「前、后置“因为”的隐现及功能差异」, 『汉语学报』 2013 年第 2 期: 57-65 页。
- 郭继懋 2004. 「从光杆 P 与“因为 P”的区别看“因为”的作用」, 『南开语言学刊』 2004 年第 2 期: 223-229 页。
- 蒋严 2000. 「汉语条件句的违实解释」, 中国语文杂志社编『语法研究和探索(十)』: 257-279 页。北京: 商务印书馆。
- 黎锦熙・刘世儒 1955. 『中国语法教材』。北京:五十年代出版社。
- 刘一之 2001 『北京话中的“着(·zhe)”字新探』。北京:北京大学出版社。
- 刘月华・潘文娉・故[韦华]2001. 『实用现代汉语语法』(增订本)。北京:商务印书馆。
- 吕叔湘 1944. 『中国文法要略』(下卷)。上海:商务印书馆。
- 吕叔湘主编 1999. 『现代汉语八百词』(增订本)。北京: 商务印书馆。
- (牛島徳次・菱沼透監訳 1992. 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞增訂本》日本語版』。東京:東方書店。)
- 马贝加 2002. 「“要”的语法化」, 『语言研究』 第 4 期:81-87 页。
- 沈家煊 2003. 「复句三域“行、知、言”」, 『中国语文』 2003 年第 3 期:195-204 页。

- 石毓智 2005 「判断词“是”构成连词的概念基础」,『汉语学习』2005年第5期:3-10页。
- 王春辉 2010a. 「汉语条件句标记及其语序类型」,『语言科学』2010年第3期:265-278页。
- 2010b. 「“假设性等级”与汉语条件句」,『汉语学报』2010年第4期:59-69页。
- 王弘宇 1996. 「细说“不是 A, 就是 B”格式」,『世界汉语教学』1996年第4期:64-68页。
- 王静 2019. 「因果复句中单用果标“所以”的省略环境」,『汉语学习』2019年第4期:71-76页。
- 王力 1943. 『中国现代语法』(上册)。上海:商务印书馆。
- 王维贤·张学成·卢曼云·程怀友 1994. 『现代汉语复句新解』。上海:华东师范大学出版社。
- 向若 1984. 『紧缩句』。上海:上海教育出版社。
- 谢晓明 2010. 「假设类复句关系词语连用情况考察」,『汉语学报』2010年第2期:29-36页。
- 邢福义 1987. 「现代汉语的“要么 P, 要么 Q”句式」,『世界汉语教学』1987年第2期:13-18页。
2001. 『汉语复句研究』。北京:商务印书馆。
- 徐燕青 2017. 「“因为 P, 所以 Q”类句式的语用条件——兼及标志词的使用考察」,『汉语学习』2017年第5期:39-51页。
- 徐阳春 2002. 『现代汉语复句句式研究』。北京:中国社会科学出版社。
- 姚双云 2008. 『复句关系标记的搭配研究』。武汉:华中师范大学出版社。
2015. 「连词与口语语篇的互动性」,『中国语文』2015年第4期:329-340页。
- 张斌 2010. 『现代汉语描写语法』。北京:商务印书馆。
- 张炼强 1990. 「试说以“时”或“的时候”煞尾的假设从句」,『中国语文』1990年第3期:174-179页。
- 张文贤 2017. 『现代汉语连词的语篇连接功能研究』。北京:北京大学出版社。
- 周刚 2002. 『连词与相关问题』。合肥:安徽教育出版社。
- 周有斌 2003. 「制约选择项在“不是……就是……”中出现顺序的因素」,『琼州大学学报』2003年第4期。

〈英語〉

- Biq, Yung-O. 1991. The multiple uses of the second person singular pronoun *ni* in conversational Mandarin. *Journal of Pragmatics* 16:307-321.
- Comrie, Bernard. 1986. Conditionals: A Typology. In Elizabeth Closs Traugott et

al.(eds.), *On conditionals*. 77-99. Cambridge, England: Cambridge University Press.

Fauconnier, Gilles. 1985. *Mental Spaces*. Cambridge: The MIT Press.

(坂原茂・水光雅則・田窪行則・三藤博訳 1996. 『メンタル・スペース』。東京:白水社。)

Fillmore, Charles J. 1988. The Mechanisms of "Construction Grammar". *BLS*14:35-55

1990 Epistemic stance and grammatical form in English conditional sentences. *Papers from the Twenty-Sixth Annual Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society*, 137-62. University of Chicago.

Goldberg, Adele E. 1995. *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: The University of Chicago Press.

(川上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子訳 2001. 『構文文法論 英語構文への認知的アプローチ』。東京:研究社出版。)

Haiman, John. 1978. Conditionals are topics. *Journal of the Linguistic Society of America* 54-3:564-589.

Lakoff, George. 1987. *Women, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, George. and Johnson, Mark. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.

Langacker, Ronald. W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. New York : Oxford University Press.

Sweetser, Eve. 1990. *From etymology to pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.

(澤田治美訳 2000. 『認知意味論の展開 語源学から語用論まで』。東京:研究社。)

用例出典一覧

〈小説〉

- 陈建功《放生》(《前科》华艺出版社, 1993年)
《前科》(《前科》华艺出版社, 1993年)
《耍叉》(《前科》华艺出版社, 1993年)
- 刘绍棠《蒲柳人家》(《蒲柳人家》人民大学出版社, 1985年)
《渔火》(《蒲柳人家》人民大学出版社, 1985年)
《运河的桨声》(新文艺出版社, 1955年)
- 刘心武《立体交叉桥》(人民文学出版社, 1986年)
《栖凤楼》(人民文学出版社, 1996年。)
- 苏叔阳《旋转餐厅》(《我是一个零》北京燕山出版社, 1997年)
- 王朔《看上去很美》(天津人民出版社, 2007年)
《橡皮人》(《王朔文集 2》华艺出版社, 1995年)
《玩的就是心跳》(《王朔文集 2》华艺出版社, 1995年)
- 王小波《白银时代》(《王小波文集 1》中国青年出版社, 1999年)
《黄金时代》(《王小波文集 1》中国青年出版社, 1999年)。
《万寿寺》(《王小波文集 2》中国青年出版社, 1999年)
- 余华《活着》(上海文艺出版社, 2004年)

〈辞書等〉

- 李宇明主编 2016. 『全球华语大词典』。北京: 商务印书馆。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2016. 『现代汉语词典(第7版)』。北京: 商务印书馆。

〈インターネット〉

- 《人民网》人民日报社 <http://www.people.com.cn/>
- 《北京口语语料》北京语言大学语言研究所
http://app.blcu.edu.cn/yys/6_beijing/6_beijing_chaxun.asp

《CCL 现代汉语语料库》北京大学中国语言学研究中心

http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

《BCC 语料库》北京语言大学大数据与语言教育研究所 <http://bcc.blcu.edu.cn/>

《新浪博客》新浪公司 <http://blog.sina.com.cn/>

※作例、及び文の自然さの判断は、複数の中国語母語話者のインフォーマント・チェックを受けている。